

PHILIPS

Signage Display

4000 Series

65BDL4650D
75BDL4650D
86BDL4650D



ユーザーマニュアル(日本語)

<https://www.philips.co.jp/p-m-pr/signage-solutions>

目次

1. 安全上の注意.....	1	8. 対応するメディア形式.....	61
2. 開梱と設置.....	3	9. 入力モード.....	63
2.1. 開梱.....	3	10. 画素欠陥ポリシー.....	65
2.2. 梱包箱に含まれているもの.....	6	10.1. 画素とサブ画素.....	65
2.3. 設置に関する注意.....	6	10.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義.....	65
2.4. 壁に取り付ける.....	7	10.3. 明るいドット欠陥.....	65
2.5. 縦長向きの設置について.....	8	10.4. 暗いドット欠陥.....	66
3. 各部の機能.....	9	10.5. 画素欠陥の近接.....	66
3.1. コントロールパネル.....	9	10.6. 画素欠陥の許容範囲.....	66
3.2. 入力 / 出力端子.....	10	10.7. MURA.....	66
3.3. リモコン.....	11	11. 清掃とトラブルシューティング.....	67
3.4. リモコンに乾電池を挿入する.....	15	11.1. 清掃.....	67
3.5. リモコンの取り扱い.....	15	11.2. トラブルシューティング.....	68
3.6. リモコンの動作範囲.....	15	12. 技術仕様.....	69
3.7. USB カバー.....	16	Philips プロフェッショナルディスプレイソリューションの保証ポ リシー.....	71
3.8. AC スイッチカバー.....	17	索引.....	73
4. 外部機器を接続する.....	18		
4.1. 外部機器の接続(マルチメディアプレーヤー)....	18		
4.2. PC の接続.....	18		
4.3. オーディオ機器の接続.....	19		
4.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接 続する.....	20		
4.5. IR 接続.....	20		
4.6. IR パススルー接続.....	20		
4.7. ネットワークへの接続.....	21		
5. 取り扱い.....	22		
5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する.....	22		
5.2. 画像形式を変更する.....	22		
5.3. 概要.....	22		
5.4. Media Player (メディアプレーヤー).....	24		
5.5. Browser (ブラウザ).....	27		
5.6. PDF Player (PDF プレーヤー).....	31		
5.7. Custom App (カスタムアプリ).....	34		
6. Setting (設定).....	35		
6.1. Settings (設定).....	35		
6.2. Supplementary (補足).....	49		
7. OSD メニュー.....	51		
7.1. OSD メニューをナビゲートする.....	51		
7.2. OSD メニューの概要.....	51		

1. 安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス



警告：本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電氣的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

この製品は、ビジネス環境における専門的な設置での使用のみを目的としており、家庭での使用には適していません。このデバイスが意図されている以外の使用は、保証を無効にする可能性があります。

この製品には、オペレーティングシステムが搭載されています。AC スイッチで直接シャットダウンすると、プログラムが損傷し、再び電源をオンにできない可能性があります。頻繁なシャットダウンによりシステムの電源をオンにできない場合、「工場出荷時の設定にリセット」を試みてください。「工場出荷時の設定にリセット」の実行後にディスプレイが再起動されると、システムに保存されているすべてのデータが失われます。

操作時：

- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ディスプレイは十分に換気されている場所に設置してください。
- 屋外で使用する場合は、紫外線フィルターが必要です。
- 温度が高い、湿度が高い、表示頻度が高い、動作時間が長いなど、極端な条件下でディスプレイを使用する場合は、Philips のアプリケーションエンジニアにご相談ください。ご相談いただかなかった場合、ディスプレイの信頼性と機能への保証が損なわれる可能性があります。極端な条件は、空港、乗換駅、銀行、証券取引所、制御システムになどでよく見受けられます。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたって使用することは推奨されません。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。
- 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地（アース）された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

メンテナンス：

- ディスプレイを損傷の可能性から保護するために、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを動かしているとき、フレームをつかんで持ち上げます。LCD パネルに手や指を置いてディスプレイを持ち上げないでください。
- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用することを強くお勧めします。
- ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。

● 環境的絶対定格

項目	最小	最大	単位
保管温度	-20	60	°C
動作温度	0	40	°C
ガラス面温度 (動作時)	0	65	°C
保管湿度	5	95	% RH
動作湿度	20	80	% RH

- 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。
- 適切な動作条件でディスプレイが使用された場合にのみ、本仕様に記載されているディスプレイの寿命が保証されます。

重要: ディスプレイの前を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告: 「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス:

- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ディスプレイを直射日光にさらさないでください。



本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかり固定してください。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

<アプリのインストールについての注意事項>

- アプリのインストールは安全であることを確認の上、自己責任において実施してください。
ウイルスへの感染や各種データの破壊などが発生する可能性があります。
- 万が一、お客様がインストールを行ったアプリなどにより各種動作不良が生じた場合、当社では責任を負いかねます。この場合、保証期間内であっても有償修理となります。
- お客様がインストールを行ったアプリなどにより自己または第三者への不利益が生じた場合、当社では責任を負いかねます。
- アプリによっては、自動的にパケット通信を行うものがあります。パケット通信は、切断するかタイムアウトにならない限り、接続されたままです。
- アプリによっては、自動的にアップデートが実行される場合があります。
- Android OS のバージョンダウンもバージョンアップも行わないで下さい。
- Android OS のバージョンに合わせたアプリをインストールしてください。

2. 開梱と設置

2.1. 開梱

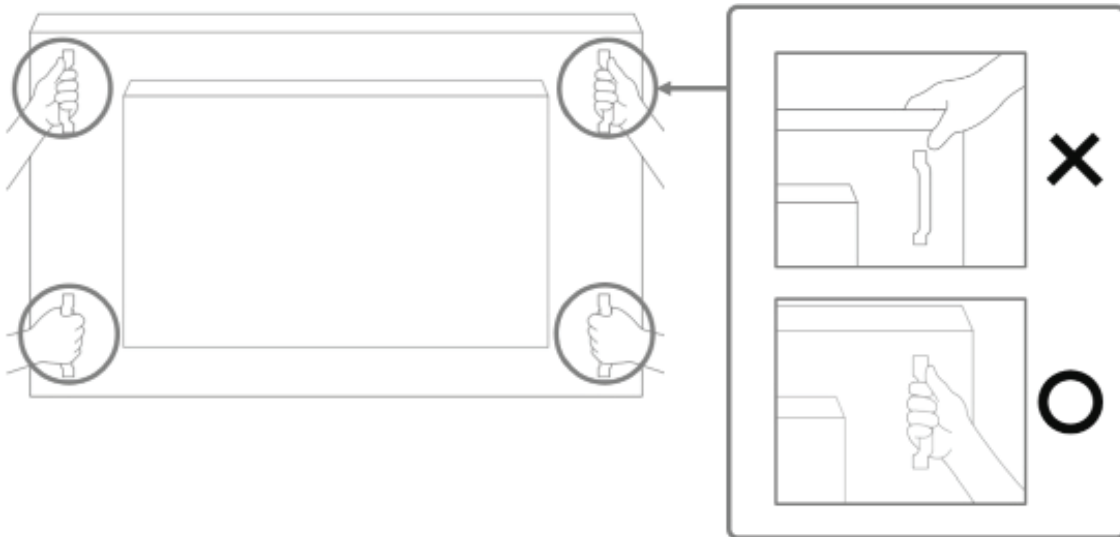
- 本ディスプレイは、標準アクセサリと共に専用の箱に梱包されています。
- オプションのアクセサリは、別途ご購入が必要です。
- 本ディスプレイは背が高く重いので、移動させる際には 2 人の技術者が行うようにしてください。
- 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認下さい

■開梱する前に

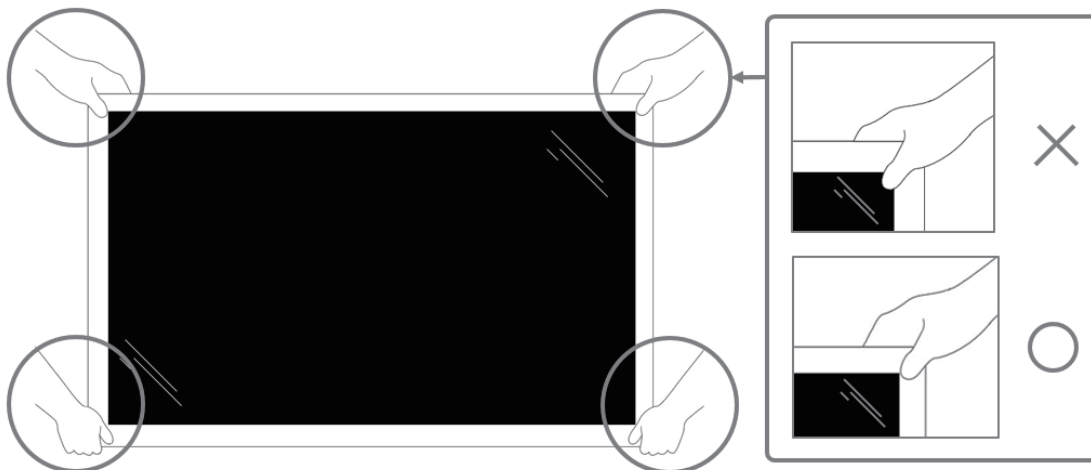
- 設置する前に、開梱通知を読んで十分に理解してください。
- 包を確認し、きしみ、へこみ等の異常がないことを確認してください。
- ディスプレイを段ボールから取り出す前に、必要な検査を行ってください。
- 損傷を防ぐために、常に経験豊富な技術者がディスプレイを取り付けるようにしてください。

■通知

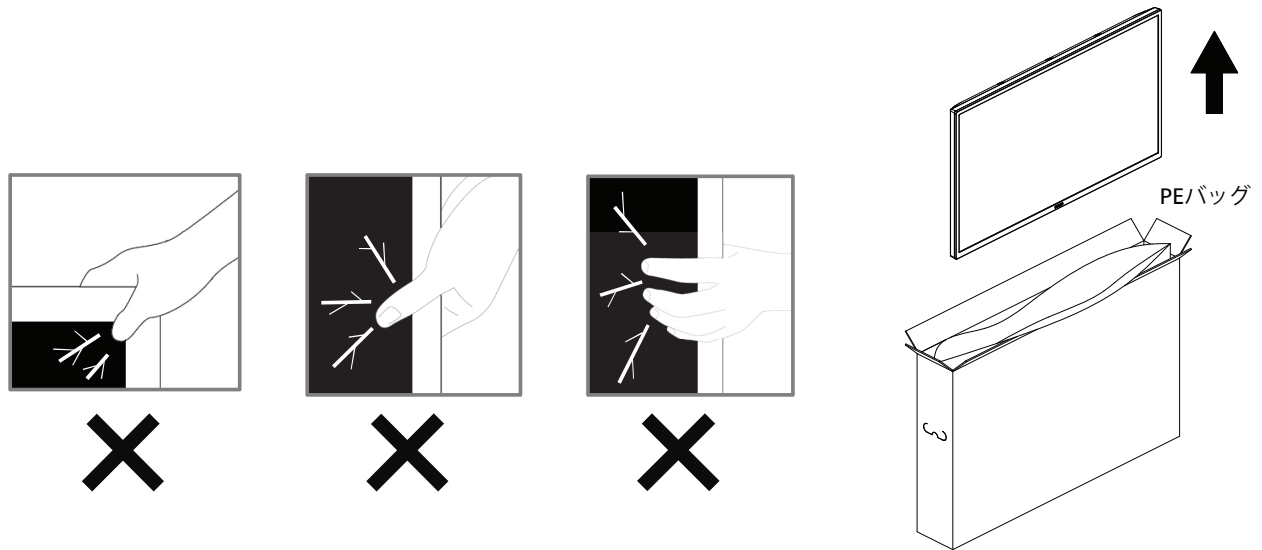
- ハンドル付きディスプレイの場合：
 - 大人 2 人または 4 人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
 - ディスプレイを移動するときは、ハンドルを持ってください。



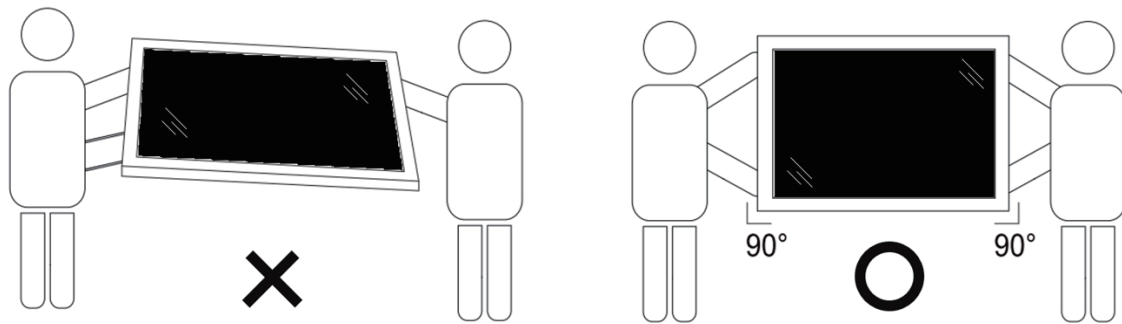
- ハンドルなしのディスプレイの場合：
 - 大人 2 人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
 - ディスプレイのガラスをつかんだり触れたりしないようにしてください。
 - ディスプレイのベゼル面（プラスチックまたは金属の部分）をつかむようにしてください。



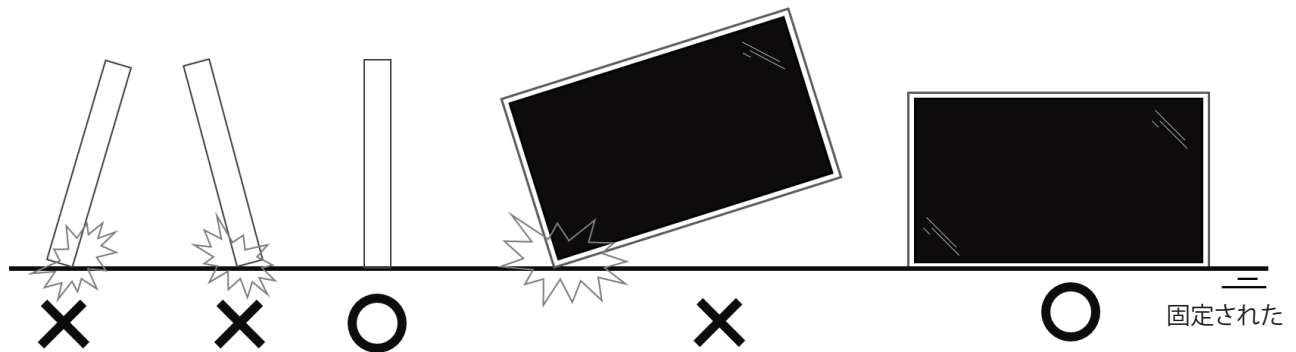
- 箱からディスプレイを取り出す際、保護バッグを内部に残し、損傷さないようディスプレイのガラス面に触れないように注意してください。



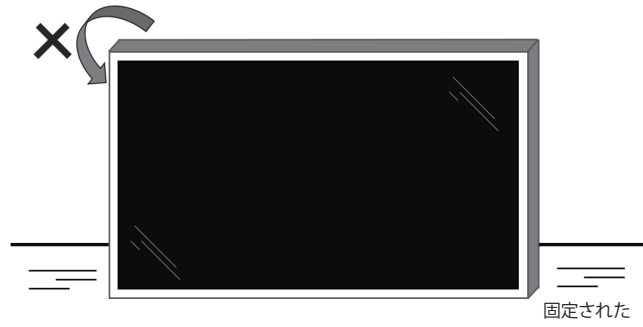
- ディスプレイを移動するときは、ディスプレイを垂直に維持してください。



- ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。



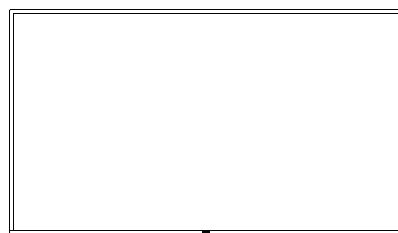
- 移動する間は、ディスプレイを垂直に維持し、曲げたり、ねじったりしないでください。



2.2. 梱包箱に含まれているもの

パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

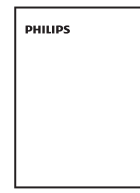
- LCD ディスプレイ
- クイックスタートガイド
- リモコンとリモコン用単 4 乾電池
- 保証書
- 電源ケーブル
- RS232 ケーブル
- RS232 デイジーチェーンケーブル
- IR センサーケーブル
- AC スイッチカバー
- USB カバー
- ケーブル留め x 2PCS
- Philips ロゴ
- CRD22 Wi-Fi モジュール
- HDMI ケーブル



LCD ディスプレイ



リモコンとリモコン用単4乾電池



保証書

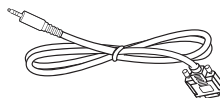


クイックスタートガイド

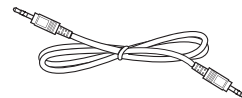
*付属電源コードは目的地によって異なります。



電源ケーブル



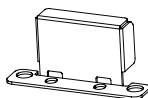
RS232 ケーブル



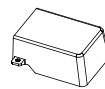
RS232 デイジーチェーンケーブル



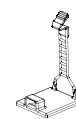
IR センサーケーブル



AC スイッチカバー



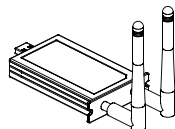
USB カバー



ケーブル留め x 2PCS



Philips ロゴ



CRD22 Wi-Fi モジュール



HDMI ケーブル

* ディスプレイデザインとアクセサリーは、イラストと異なる場合があります。

注：

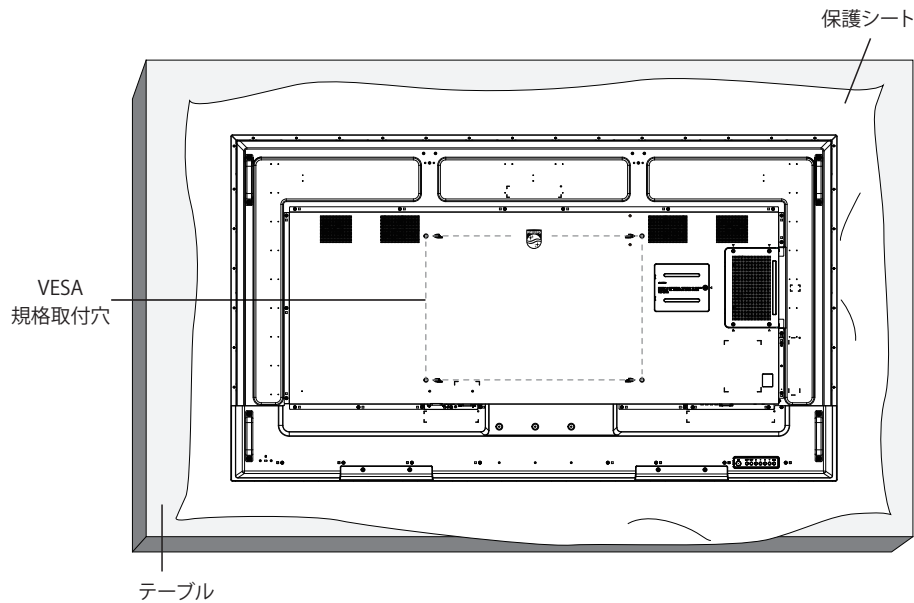
- 他の地域の場合は、その地域のコンセントの AC 電圧と一致し、その国の安全規定で承認されている適合する電源コードを使用してください。(H05W-F タイプ、2G または 3G、0.75 または 1mm² を使用します)。
- 製品を開梱した後は、梱包材を適切に保管してください。

2.3. 設置に関する注意

- 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- 高度が 3,000m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

2.4. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット(市販品)が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付け用インタ - フェイスを使用してください。



1. ディスプレイよりも大きい平らで水平な面を用意し、その上に厚い保護シートを広げて、画面を傷つけずに操作できるようにしてください。
2. すべてのタイプの取り付け(壁掛け、天上取り付け、テーブルスタンドなど)に対応するアクセサリがあることを確認してください。
3. 取り付けにあたっては取付金具に同梱の説明書をよくお読み下さい。取付手順を誤ると、破損や作業者の怪我につながる恐れがあります。誤った取付方法が原因で生じた破損は、当社の保証の対象外となりますので、ご注意下さい。
4. 壁取り付けキットには、M8 取り付けねじ(取り付けブラケットの厚さより 15mm 以上長いもの)を使用し、しっかりと締め付けてください。

2.4.1. VESA 規格取付穴

65BDL4650D	400(横)x400(縦)mm
75BDL4650D	600(横)x400(縦)mm
86BDL4650D	600(横)x400(縦)mm

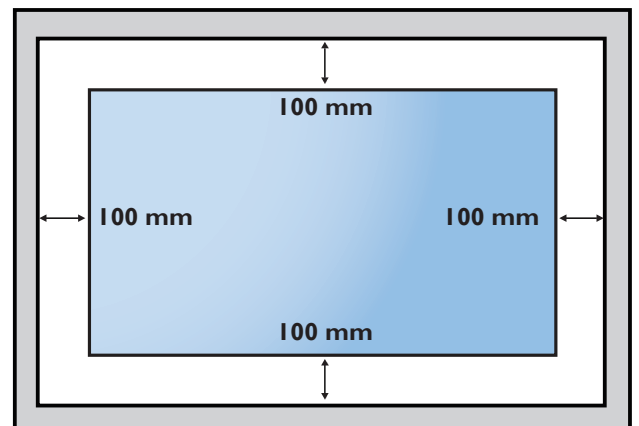
注意:

本製品の落下を防止するために:

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付けの位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。
- 本ディスプレイは背が高く重いため、設置は 4 人の技術者が行うようにしてください。

換気用に必要なスペース

換気のために、上部、背面、左右に 100mm のスペースを空けてください。

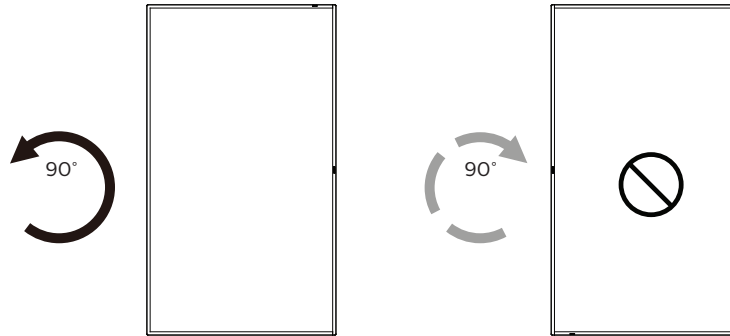


2.5. 縦長向きの設置について

本ディスプレイは、縦長向きに設置できます。

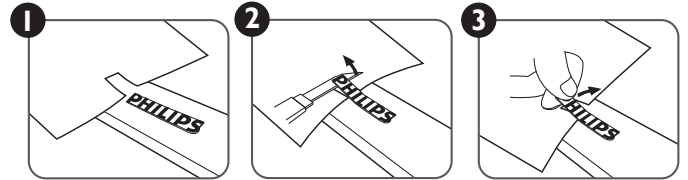
ディスプレイを反時計回りに 90 度回転させます。ディスプレイを正面に見て、「PHILIPS」ロゴが右側にある必要があります。

注： 縦・横いずれも 24 時間の連続稼働が可能です。



2.5.1. ロゴプレートのはがし方

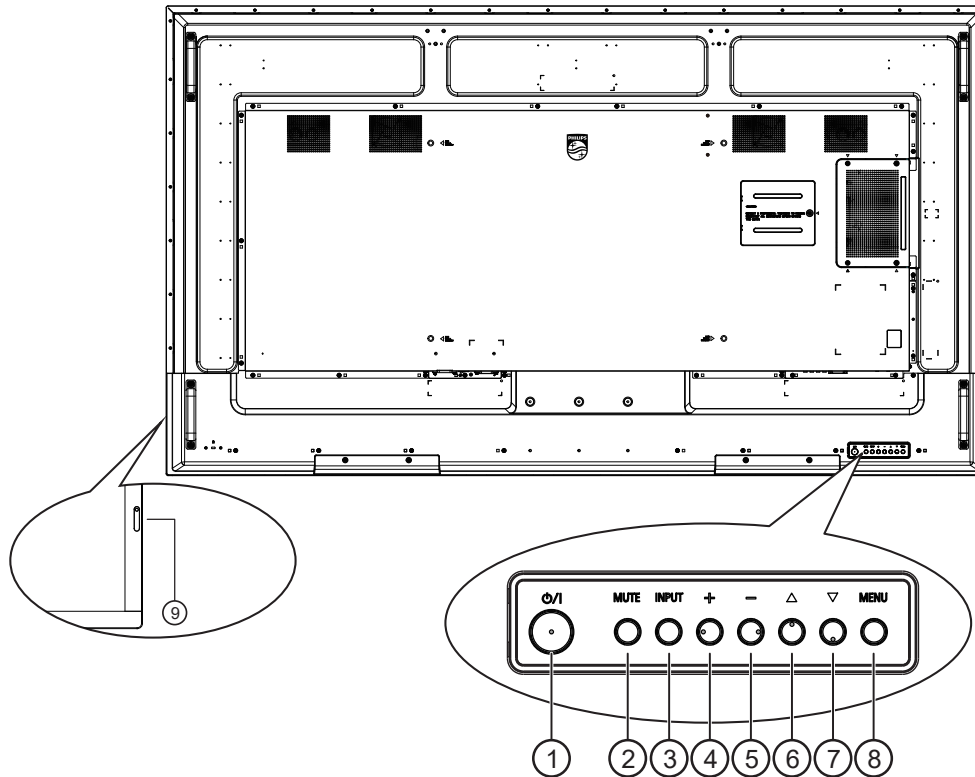
1. 前面ベゼルに傷がつかないように、ロゴ部分を切り抜いた紙を用意して当て紙として使用します。
2. 下に紙を敷いた状態で、ナイフを使って注意深くロゴシールをはがしていきます。
3. ロゴシールを取り除きます。



注： ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

3. 各部の機能

3.1. コントロールパネル



① [⏻] ボタン

このボタンを押して、ディスプレイの電源を入れたり、スタンバイモードにしたりします。

② [消音] ボタン

このボタンを押して、音声をミュートしたり、復元したりします。

③ [入力] ボタン

入力ソースを選択します。
OSD メニューで選択を確認します。

④ [＋] ボタン

OSD メニューが ON の時には調整を上げ、OSD メニューが OFF のときには、音声出力レベルを上げます。

⑤ [－] ボタン

OSD メニューが ON のときには調整を下げ、OSD メニューが OFF のときには音声出力レベルを下げます。

⑥ [▲] ボタン

OSD メニューが ON のときには選択した項目のレベルを 1 つ上げます。

⑦ [▼] ボタン

OSD メニューが ON のときには選択した項目のレベルを 1 つ下げます。

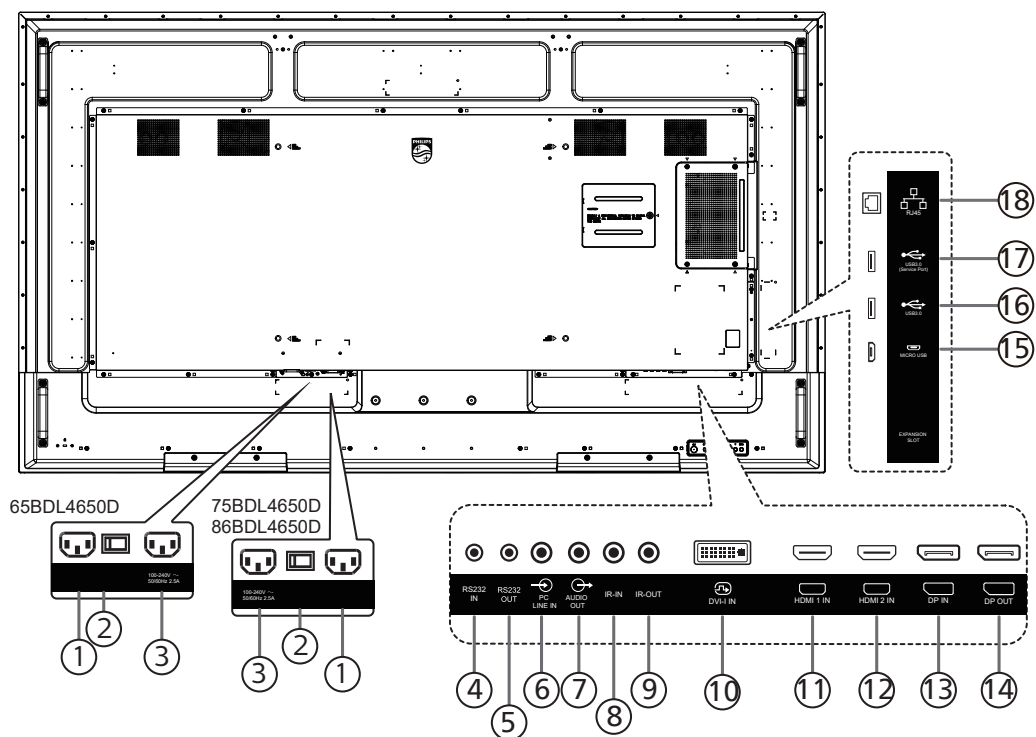
⑧ [MENU] (メニュー) ボタン

OSD メニューが ON のときには前のメニューに戻ります。また、このボタンは、OSD メニューが OFF のときに OSD メニューを有効にするためにも使用します。

⑨ リモコンセンサーと電源状態インジケーター

- リモコンからの指令信号を受信します。
- 本ディスプレイの動作状態を表示します：
 - 本製品の電源が ON のとき緑色点灯する。
 - 本製品がスタンバイモードのとき赤色点灯する。
 - ディスプレイがスリープモードに入るとオレンジ色に点灯する。
 - {スケジュール} が有効の場合はオレンジと赤色に点滅する。
 - 赤色点滅の場合は故障の検出を示す。
 - 本製品の主電源が OFF の場合消灯する。

3.2. 入力 / 出力端子



① AC 入力

壁コンセントからの AC 電源入力。

② 主電源スイッチ

主電源のオン / オフを切り替える。

③ AC 出力

メディアプレーヤーの AC 入力ジャックに AC 電力を供給します。

④ RS232 入力 / ⑤ RS232 出力

ループスルー機能向けの RS232 ネットワーク入力 / 出力。

⑥ PC 線入力

VGA ソース用の音声入力 (3.5mm ステレオ電話)。

⑦ 音声出力

外部 AV デバイスへの音声出力。

⑧ IR 入力 / ⑨ IR 出力

ループスルー機能向けの IR 信号入力 / 出力。

注:

- このディスプレイのリモコンセンサーは、[IR 入力] が接続されている場合、動作を停止します。
- 本ディスプレイを使ってお持ちの AV デバイスをリモート操作する場合は、20 ページに記載されている「IR パススルー接続」を参照してください。

⑩ DVI-I 入力

DVI-I ビデオ入力。VGA ビデオ入力。

⑪ HDMI1 入力 / ⑫ HDMI2 入力

HDMI ビデオ / 音声入力。

⑬ DisplayPort 入力 / ⑭ DisplayPort 出力

DisplayPort ビデオ入力 / 出力。

⑮ マイクロ USB

ADB データ転送をサポート、OTG はサポートされていません。

⑯ USB 3.0 / ⑰ USB 3.0

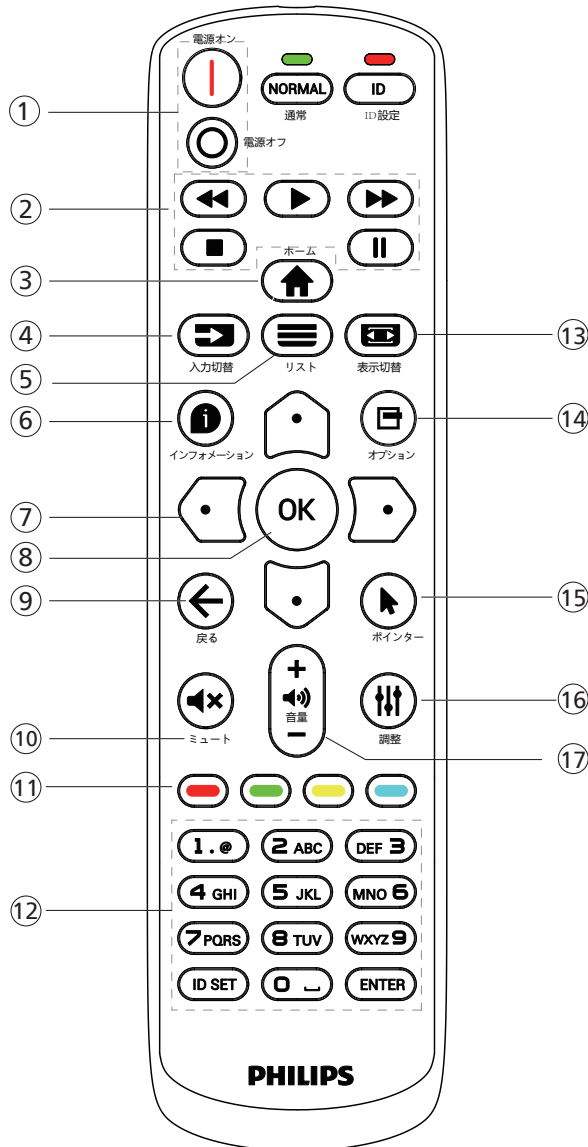
USB ストレージデバイスを接続します。

⑱ RJ-45

コントロールセンターからリモコン信号を使用するための LAN 制御機能です。

3.3. リモコン

3.3.1. 一般の機能



① [I/O] 電源ボタン

[I] 電源をオンに切り替えます。
[O] 電源をオフに切り替えます。

② [再生] ボタン

メディアファイルの再生を制御します(メディア入力の場合のみ)
フリーズ機能
一時停止:すべての入力コンテンツをフリーズするためのホットキー。
再生:すべての入力コンテンツのフリーズを解除するためのホットキー。

③ [↑] ホームボタン

ルートメニュー:OSD メニューにアクセスします。
その他:OSD メニューを終了します。

④ [↔] 入力切替ボタン

ルートメニュー:入力ソースを選択します。

⑤ [≡] リストボタン

予約済み。

⑥ [i] インフォメーションボタン

インフォメーション OSD を表示します。

⑦ ナビゲーションボタン

[↑]

ルートメニュー:スマートピクチャーの OSD に移動します。
メインメニュー:選択した項目を上に移動して調整します。

IR デイジーチェーンメニュー:操作するグループ ID 番号を増やします。

[↓]

ルートメニュー:オーディオソースの OSD に移動します。
メインメニュー:選択した項目を下に移動して調整します。

IR デイジーチェーンメニュー:操作するグループ ID 番号を減らします。

[←]

音量メニュー:音量を小さくします。

[→]

メインメニュー:メニューの次のレベルに移動するか、選択したオプションを設定します。

ソースメニュー:選択したソースに移動します。

音量メニュー:音量を大きくします。

⑧ [OK] ボタン

ルートメニュー:プライマリ / セカンダリモードの IR デイジーチェーンの OSD に移動します。

メインメニュー:入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

前のページに戻る、または前の機能を終了します。

⑩ [M] ミュートボタン

音声をミュートしたり、ミュート解除したりします。

⑪ [色] 色ボタン

[blue] バックライトをオンおよびオフに切り替えるためのホットキー。

[green] Window 機能を選択するためのホットキー。

[red] IR デイジーチェーン OSD 用ホットキー。

⑫ [番号 / ID 設定 / 入力] ボタン

ここを押して、ディスプレイ ID を設定します。詳細については 3.3.2. リモコン ID を参照してください。

⑬ [表示切替] ボタン

画像ズームモードを「フル画面」、「4:3」、「1:1」、「16:9」、「21:9」、「カスタム」から選択します。

⑭ [予約] ボタン

予約済み。

⑮ [ポインター] ボタン

予約済み。

⑯ [調整] ボタン

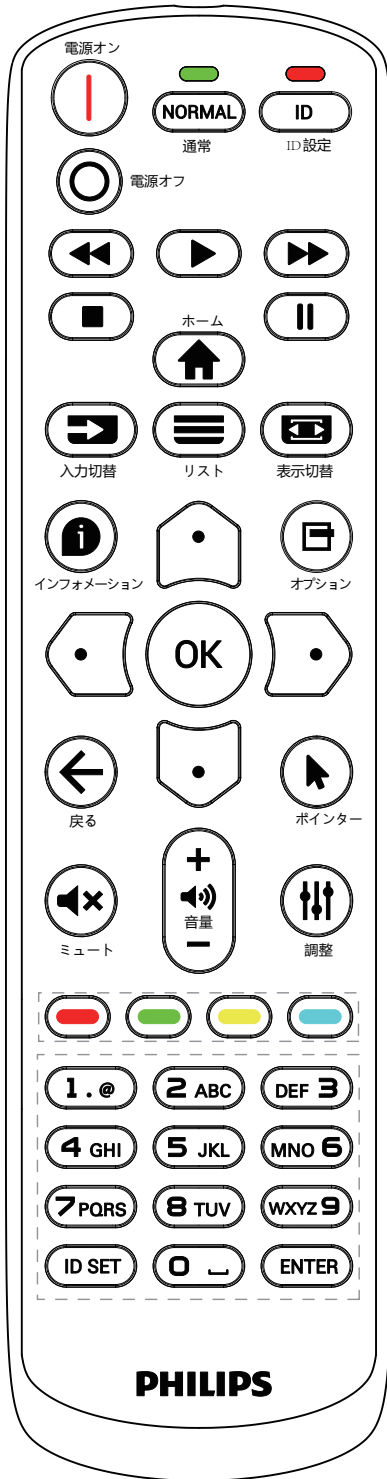
自動調整の OSD に移動します (VGA の場合のみ)。

⑰ [音量] ボタン

音量を調整します。

3.3.2. リモコン ID

複数台のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID 番号を設定してください。



[ID] ボタンを押すと、赤い LED が 2 回点滅します。

1. ID モードに移行するためには、[ID 設定] ボタンを 1 秒以上押ししてください。赤い LED が点灯します。

[ID SET] ボタンを再度押すと、ID モードを離れます。赤い LED が消えます。

[0] ~ [9] の数字を押して、制御するディスプレイを選択してください。
例: ディスプレイ番号 1 では、[0] と [1]、ディスプレイ番号 11 では、[1] と [1] を押ししてください。

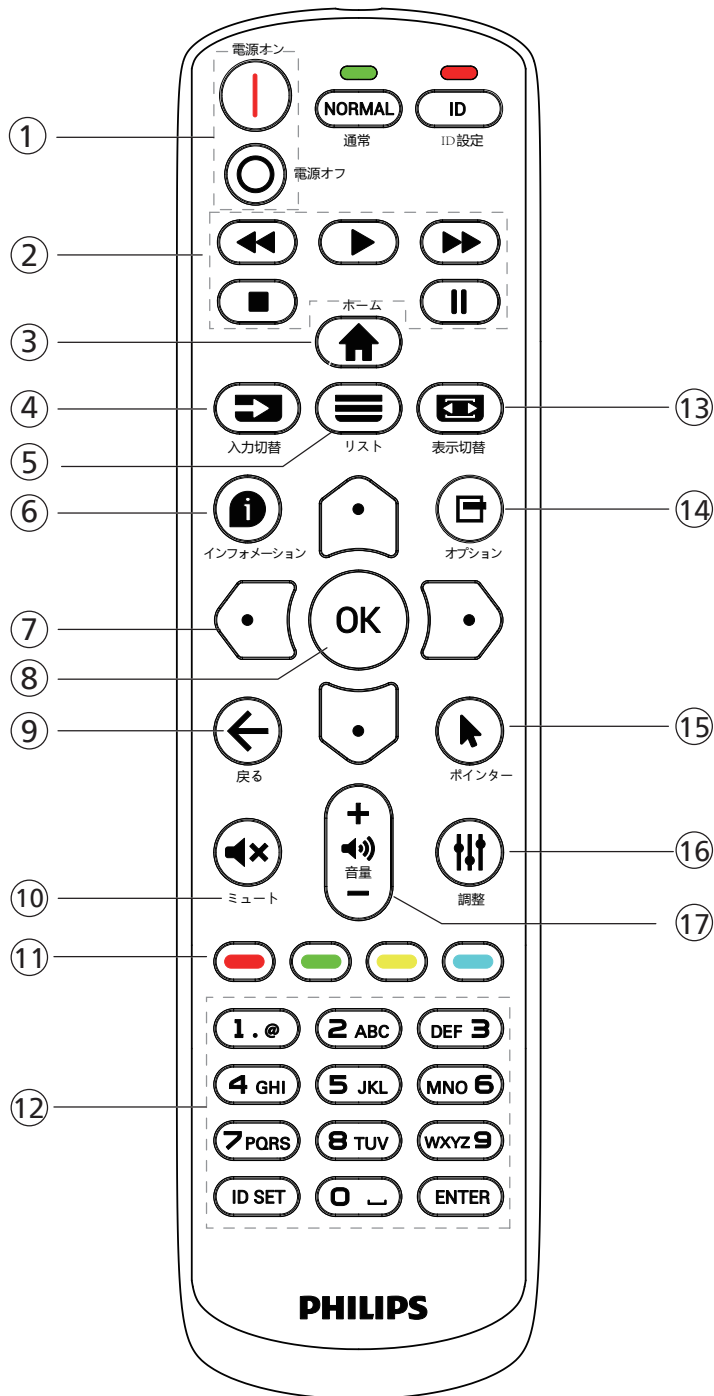
使用できる番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にボタンを押されない場合、ID モードは終了します。
3. 間違ったボタンを押した場合には、赤い LED が消えて再度点灯するまで 1 秒間待ってから、正しい数字を押してください。
4. [ENTER] ボタンを押して選択を確認します。赤い LED が 2 回点滅して、消えます。

注:

- [NORMAL] (ノーマル) ボタンを押してください。緑の LED が 2 回点滅して、ディスプレイが正常に作動していることを示します。
- ID 番号を選択する前に各ディスプレイに対する ID 番号を設定することが必要です。

3.3.3. Android ソース上のリモコンボタン



① [I/O] 電源ボタン

- [I] 電源をオンに切り替えます。
- [O] 電源をオフに切り替えます。

② [再生] ボタン

- メディアファイルの再生を操作します。
- [▶] メディアファイルを直接再生します。
- [||] 再生を一時停止します。
- [■] ディアファイルの再生を停止します。
- [■] ボタンを押して再生を停止後にもう一度 [▶] を押すと、そのファイルの最初から再生が開始されます。

③ [↑] ホームボタン

- OSD メニューにアクセスします。

④ [→] 入力切替ボタン

- 入力ソースを選択します。

⑤ [≡] リストボタン

1. Web ページのコンテンツで、上方にある次の選択可能な項目にフォーカスを上に移動します。
2. フォーカスをボタンなどの次の制御またはウィジェットに上に移動します。

⑥ [i] インフォメーションボタン

- 現在の入力信号に関する情報を表示します。
- 1. 「メディアプレーヤー」->「構成」->「再生一覧を編集または新規に追加」->「任意のメディアファイルを選択」の順に移動し、[i] を押すと、選択したメディアファイルの情報が表示されます。

⑦ [△]/[▽]/[◀]/[▶] ナビゲーションボタン

1. メニューを移動し、項目を選択します。
2. Web ページのコンテンツで、これらのボタンは画面のスクロールバーの制御用です。垂直スクロールバーを上または下に移動するには、[△] または [▽] を押します。水平スクロールバーを左または右に移動するには、[◀] または [▶] を [] します。
3. PDF ファイルの場合、ズームイン / ズームアウトが実行されているとき、画面の位置を調整するには、[△]、[▽]、[◀] または [▶] を押します。ズームイン / ズームアウトが実行されていないとき、次のページに進むには、[▶] を押します。前のページに進むには、[◀] を押します。

⑧ [OK] ボタン

- 入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

- 前のページに戻る、または前の機能を終了します。

⑩ [M] ミュートボタン

- ミュート機能をオン / オフで切り換えます。

⑪ [●] 色ボタン

- 予約済み。

⑫ [数字 / ID 設定 / 入力] ボタン


1. Android ソース上の ID セットおよび ENTER に対する機能がありません。
2. PDF ファイルの場合、数字ボタンを押すことでページ番号を入力し、次に、[OK] ボタンを押して、指定したページにジャンプします。

⑬ [表示切替] ボタン

- 画像形式を変更します。

⑭ [] オプションボタン

メディアプレーヤーまたは PDF プレーヤーでツールボックスを開きます。

1.「メディアプレーヤー」->「構成」->「再生一覧を編集または新規に追加」の順に移動し、[] を押して、ツールボックスを開きます。画面の左側からツールボックスがスライド表示されます。



⑮ [] ポインターボタン

予約済み。

⑯ [] 調整ボタン

1.Web ページのコンテンツで、下方にある次の選択可能な項目にフォーカスを上に移動します。

2. フォーカスをボタンなどの次の制御またはウィジェットに下に移動します。

⑰ [] [] 音量ボタン

音量を調節します。

3.4. リモコンに乾電池を挿入する

リモコンは 1.5V 単四電池 2 本で動作します。

乾電池を取り付ける、または交換する：

1. カバーを押してスライドさせ、開いてください。
2. 極性(+)と(-)を正しい位置にして乾電池を挿入してください。
3. カバーを閉じてください。

注意：

乾電池を誤って使用すると、液漏れまたは爆発を引き起こす可能性があります。以下の指示に必ず従ってください：

- 極性(+)と(-)を正しい位置にして「単 4」乾電池を挿入してください。
- 違う種類の乾電池を一緒にして使用しないでください。
- 使用済みの乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。混ぜて使用した場合、液漏れが発生したり、乾電池の寿命が短くなったりする可能性があります。
- 切れた乾電池は乾電池収納部で液漏れする可能性があるため、直ちに取出してください。皮膚が負傷する可能性があるため、乾電池から漏れた酸に触れないでください。
- 電池を火や加熱炉に廃棄したり、機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する恐れがあります。電池を非常に高温になる環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。また、電池を非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。

注：長期間にわたって使用しない場合は、乾電池収納部から乾電池を取り外してください。

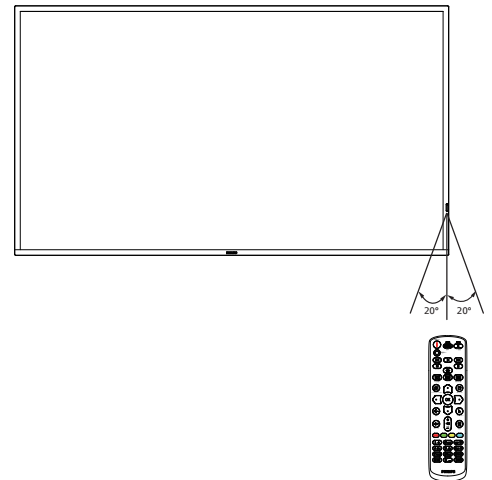
3.5. リモコンの取り扱い

- リモコンを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- リモコンの内部に液体が入らないようにしてください。リモコンに水が入った場合は、乾いた布で直ちに拭いてください。
- 熱や蒸気を発生するものの近くに、リモコンを置かないでください。
- リモコンの乾電池を交換する以外の理由で、リモコンを分解しようとししないでください。

3.6. リモコンの動作範囲

ボタンを押すときに、リモコンの前面上部をディスプレイのリモコンセンサーに向けてください。ディスプレイのセンサーから 4 メートル (16 フィート) 以内の距離で、水平方向と垂直方向に 20 度未満の範囲内でリモコンを使用してください。

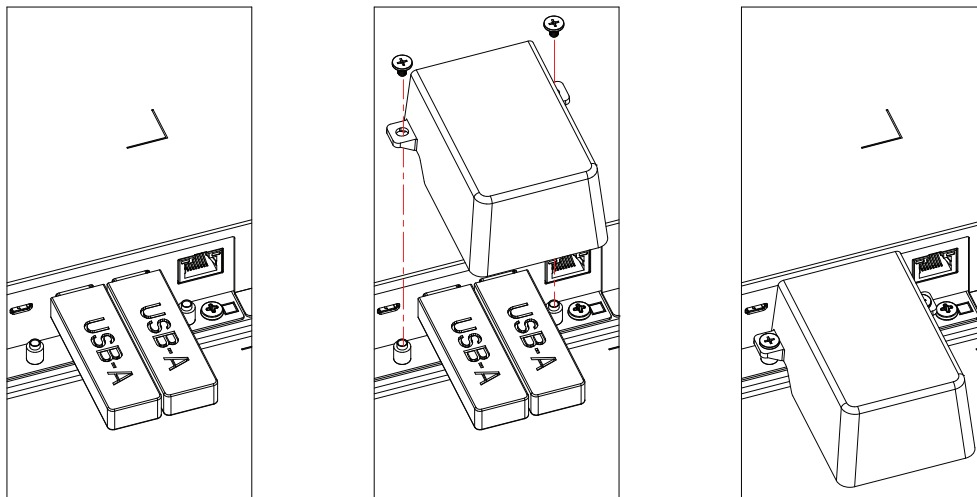
注：ディスプレイのリモコンセンサーに直射日光や強い照明が当たっていたり、またはリモコンとディスプレイのリモコンセンサーの間に障害物がある場合は、リモコンが適切に作動しないことがあります。



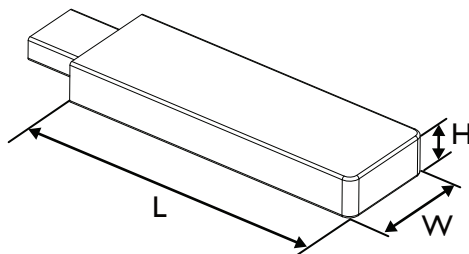
3.7. USB カバー

- USB カバーとネジで、USB スティックをカバーします。

1. USB デバイスを差し込みます。
2. 付属のネジを使用して、USB カバーを固定します。



- フィットする USB スティックの最大サイズ:
USB: 20(幅)x10(高さ)x60(奥行)mm

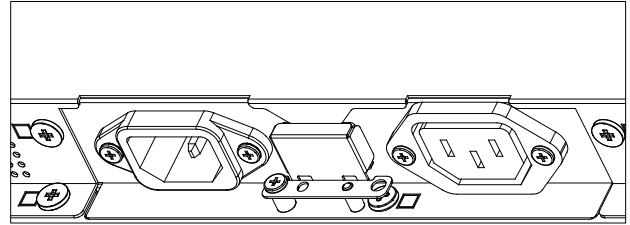
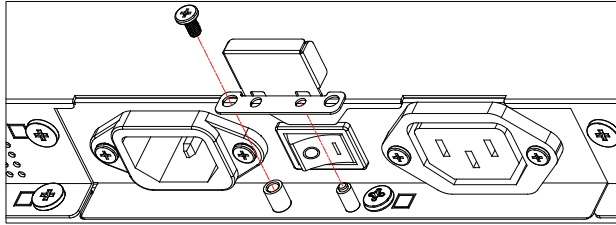


3.8. AC スイッチカバー

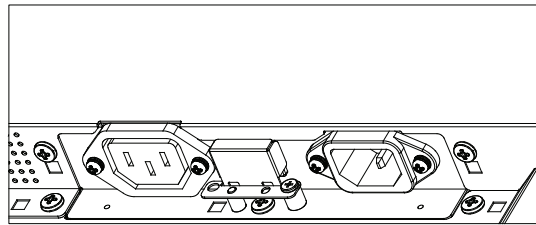
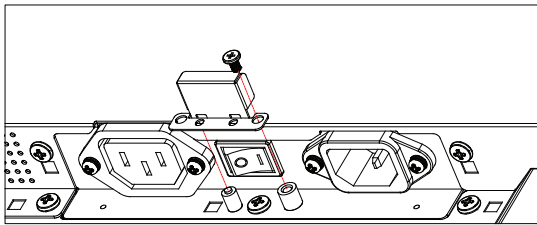
AC スイッチカバーを使用して、AC スイッチをカバーします。

1. AC スイッチカバーを取り付けます。
2. アクセサリキットに付属するネジで、AC スイッチカバーを固定します。

65BDL4650D



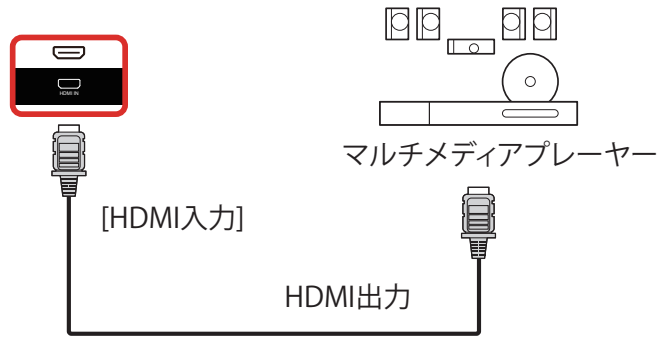
75BDL4650D/86BDL4650D



4. 外部機器を接続する

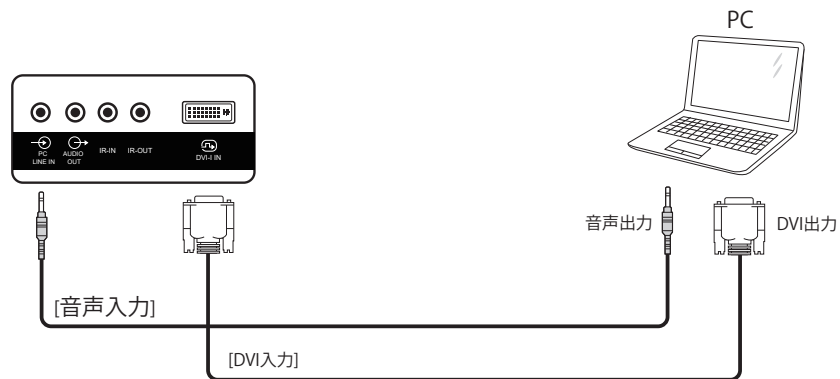
4.1. 外部機器の接続(マルチメディアプレーヤー)

4.1.1. HDMI ビデオ入力の使用

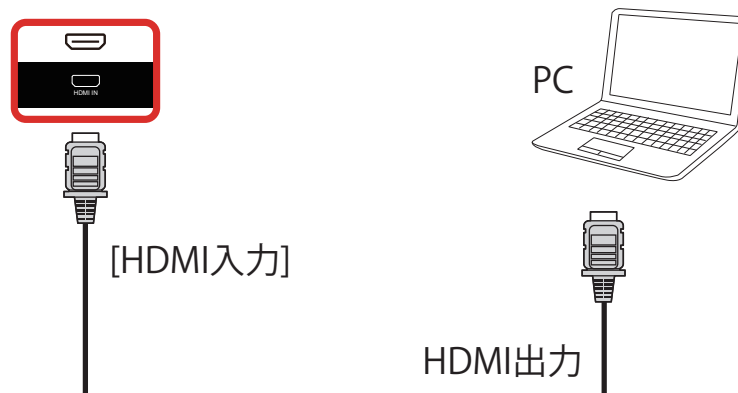


4.2. PC の接続

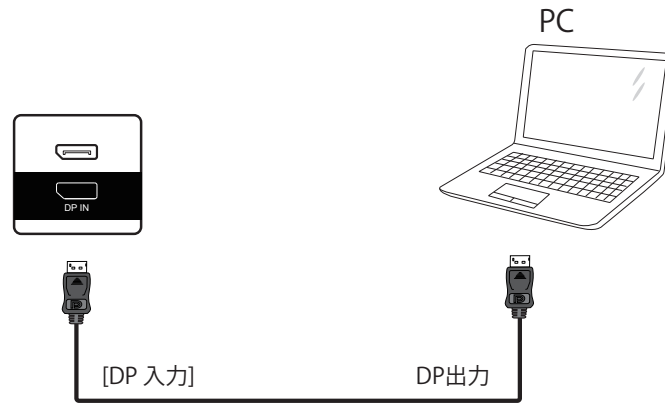
4.2.1. DVI 入力の使用



4.2.2. HDMI 入力の使用

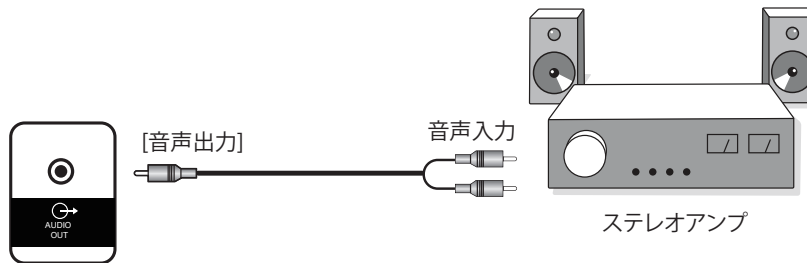


4.2.3. DP 入力の使用



4.3. オーディオ機器の接続

4.3.1. 外部オーディオ装置の接続

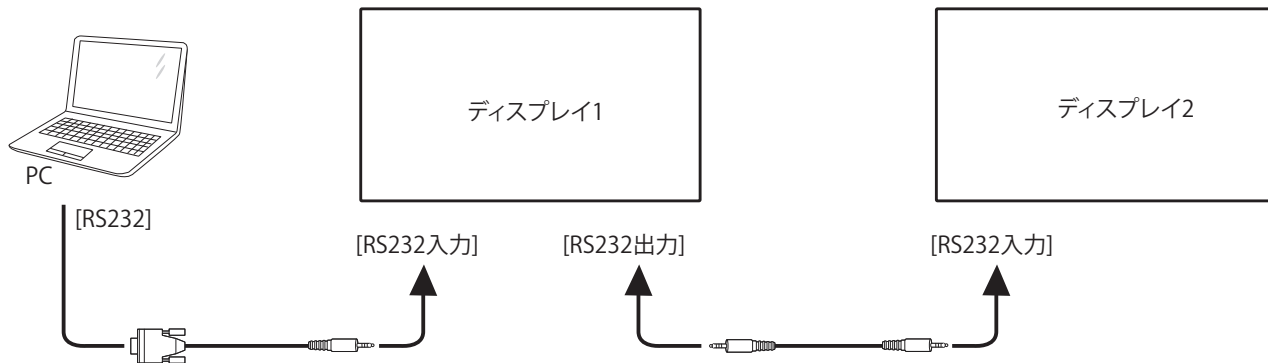


4.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する

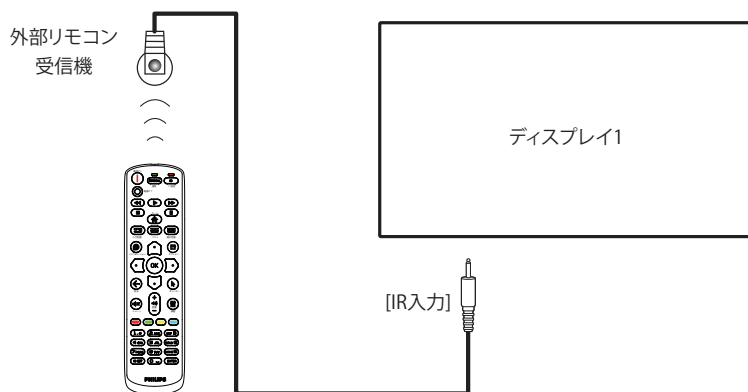
複数のディスプレイを相互接続し、メニューボードなどの用途向けに、デイジーチェーン構成にすることができます。

4.4.1. ディスプレイコントロール接続

ディスプレイ 1 の [RS232 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [RS232 入力] コネクタに接続します。



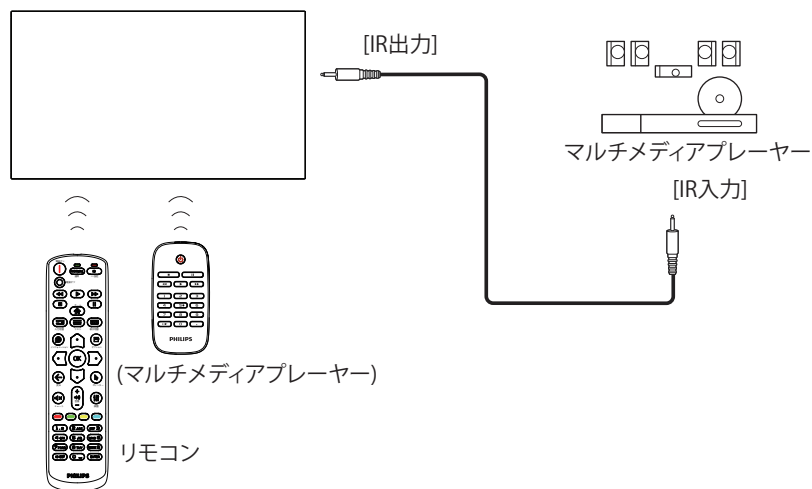
4.5. IR 接続



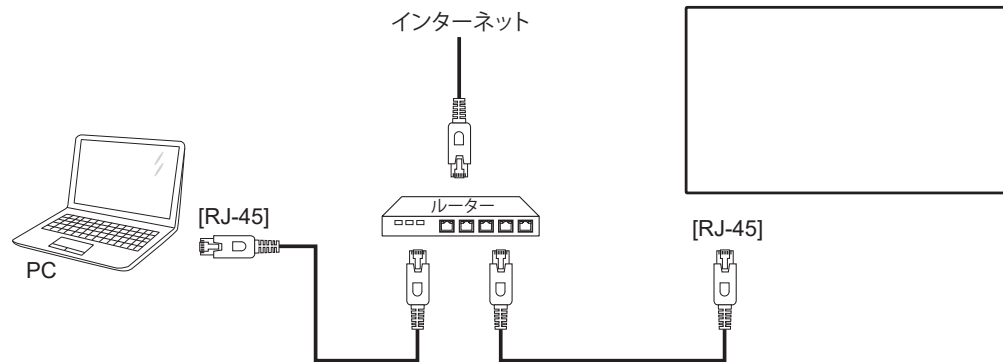
注記:

このディスプレイのリモコンセンサーは、[IR 入力] が接続されている場合、動作を停止します。



4.6. IR パススルー接続



4.7. ネットワークへの接続






ネットワーク設定:

1. ルーターの電源を入れ、DHCP 設定を有効にします。
 2. イーサネットケーブルを使って、ルーターを本ディスプレイに接続します。
 3. リモコンの [] ホーム ボタンを押した後に、**セットアップ** を選択します。
 4. **ネットワークに接続する** を選択して、[] ボタンを押します。
 5. 本ディスプレイがネットワーク接続を検出するまで待ちます。
 6. [エンドユーザーライセンス同意書] ウィンドウが表示されたら、同意書を受け入れてください。
- 注: EMC 指令に準拠するため、シールドされた CAT-5 イーサネットケーブルを使って接続してください。

5. 取り扱い

注: この章で説明されている操作ボタンは、特に記述のない限りリモコン上にあるボタンを指します。


5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する

1. [] ソースボタンを押します。
2. [] または [] ボタンを押して、デバイスを選択し、次に [OK] ボタンを押します。

5.2. 画像形式を変更する

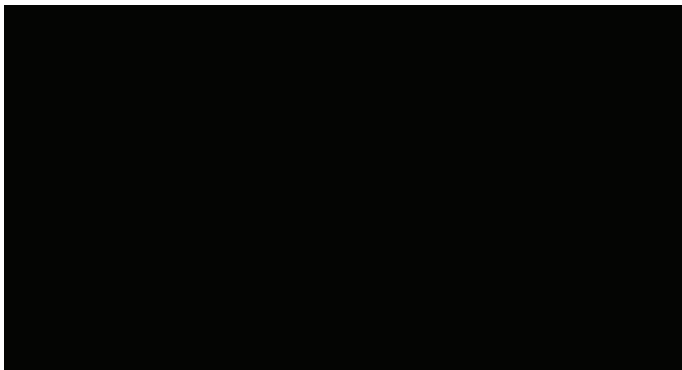
ビデオソースに合わせて画像形式を変更することができます。それぞれのビデオソースに対して、使用可能な画像形式があります。

使用可能な画像形式はビデオソースによって異なります:

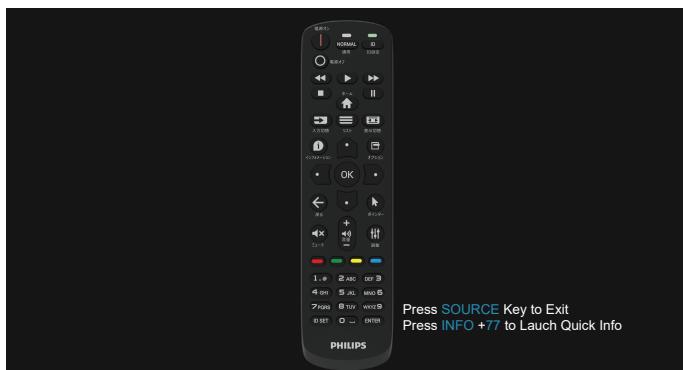
1. [] 形式ボタンを押して、画像形式を選択します。
 - PC モード: {フル画面} / {4:3} / {1:1} / {16:9} / {21:9} / {カスタム}。
 - ビデオモード: {フル画面} / {4:3} / {1:1} / {16:9} / {21:9} / {カスタム}。

5.3. 概要

1. Android Pd ランチャー:
 - Android Pd ランチャーは以下のようなブラックページです:



- 「Back (戻る)」キーを押してアプリを終了すると、画面が Android PD 起動画面に入ります。
- Android PD 起動画面に戻ると、ヒント画像が画面に 5 ~ 10 秒間表示されます。
- ヒント画像は、ソースキーを押して、ソースを変更できる旨を通知します。



2. 管理モード:

- 「Home + 1888」を押すと管理モードに入ります。「ホーム」を押した時にホーム OSD メニューが表示されることを確認してから、その次に 1888 と押ししてください。「ホーム」キーを 2 回押すと有効なホットキーになりません。
- 管理モードは次のアプリで構成されています:「Settings (設定)」、「APPs (アプリケーション)」、「Network (ネットワーク)」、「Storage (ストレージ)」、「Help (ヘルプ)」。
- 管理モードを終了すると、システムは前回選択していたソースに戻ります。

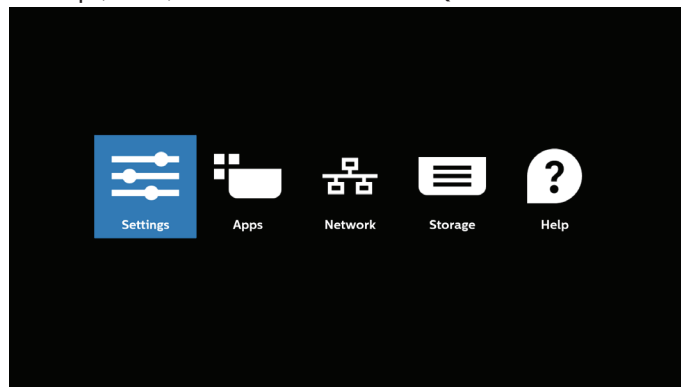
Settings (設定): 「Settings (設定)」ページに進みます。

Applications (アプリケーション): すべてのアプリを表示します。

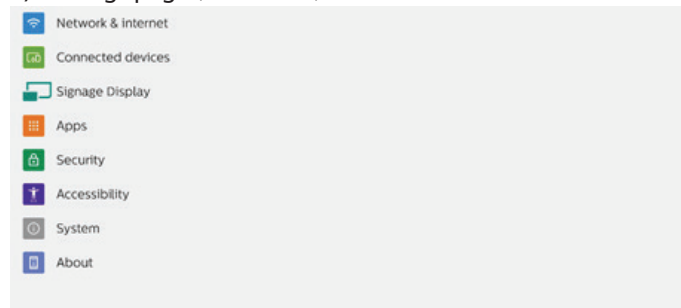
Network (ネットワーク): Wi-Fi、イーサネット、モバイルネットワーク (オプション) を設定します。

Storage (ストレージ): 「Storage (ストレージ)」ページに進みます。

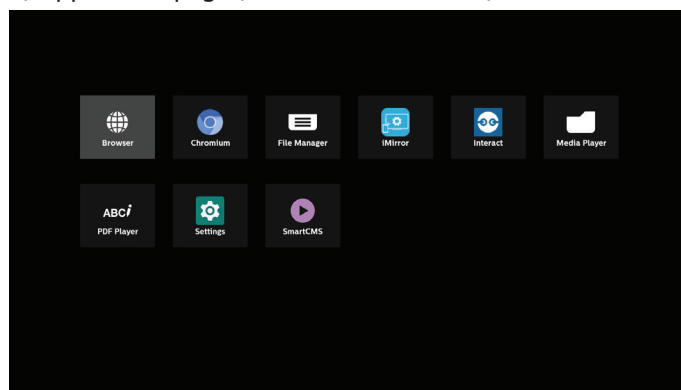
Help (ヘルプ): サポートを受けるための QR コードを表示します。



1) Settings page (設定ページ):



2) Application page (アプリケーションページ):

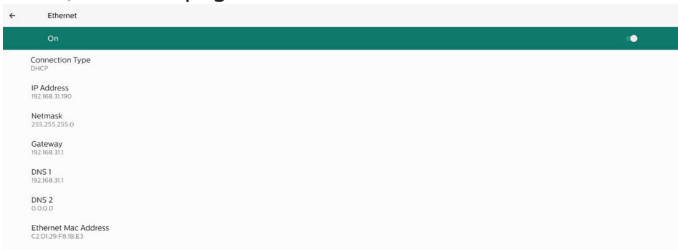


3) Network page (ネットワークページ):

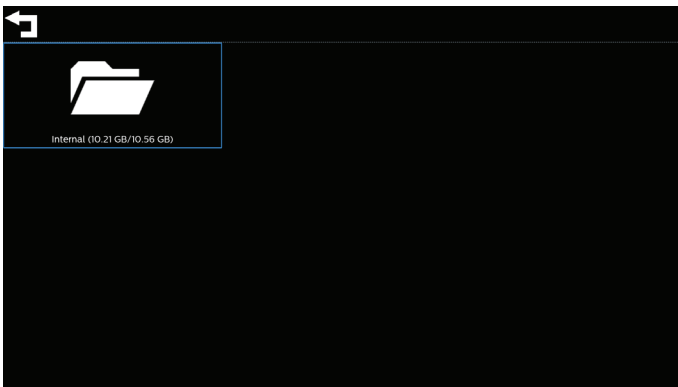
(Wi-Fi ドンダプルが接続されていない場合、Wi-Fi は表示されません。)



3.1) Ethernet page (イーサネットページ):



4) Storage page (ストレージページ):



5) Help page (ヘルプページ)

Philips のサポート Web サイトにリンクする QR を表示します。



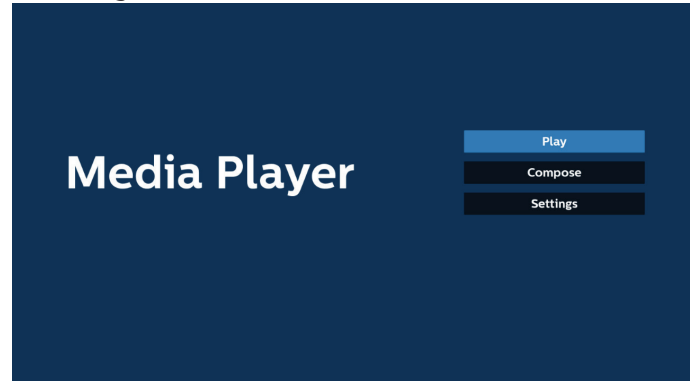
5.4. Media Player (メディアプレーヤー)

5.4.1. OSD メニューでのメディアプレーヤーの操作:

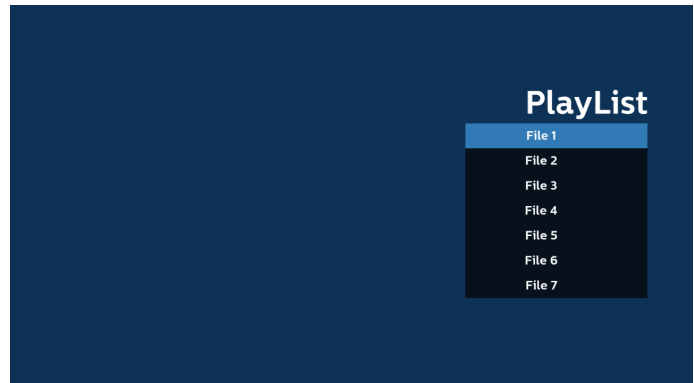
1. ソース起動:
 - 入力:
 - メディアプレーヤーをソースとして選択すると、起動プロセスが完了次第、システムは自動的にメディアプレーヤーに入ります。
 - 再生一覧:
 - メインページ:メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 再生一覧 1 ~ 7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。
 - USB 自動再生:メディアプレーヤーに移動し、USB ファイルを自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - スケジュール一覧:
 - 最大 7 つのスケジュールを設定します。
 - 有効:
 - スケジュールを有効 / 無効にします。
 - 開始時間:
 - 開始時間を設定します。
 - 終了時間:
 - 終了時間を設定します。
 - 再生一覧:
 - 1 ~ 7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。
 - USB 自動再生:メディアプレーヤーは、USB ストレージ内のメディアファイルを自動再生します。
 - 曜日:
 - 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日を設定します。
 - 毎週:
 - 毎週のスケジュールを設定します。
 - 保存:
 - スケジュールを保存します。

5.4.2. Media Player の紹介:

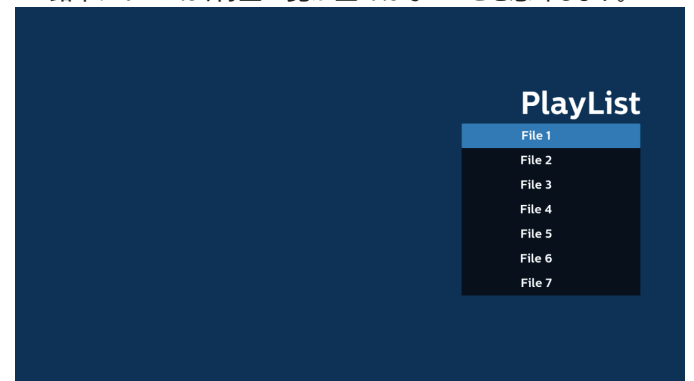
1. メディアプレーヤーのメインページです。このページは 3 つのオプション(「Play (再生)」、「Compose (構成)」、「Settings (設定)」)で構成されます。
 Play (再生):再生する再生一覧を選択します。
 Compose (構成):再生一覧を編集します。
 Settings (設定):メディアプレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play (再生)」を選択し、最初に、ファイル 1 とファイル 7 の間から再生する 1 つの再生一覧を選択する必要があります。
鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。



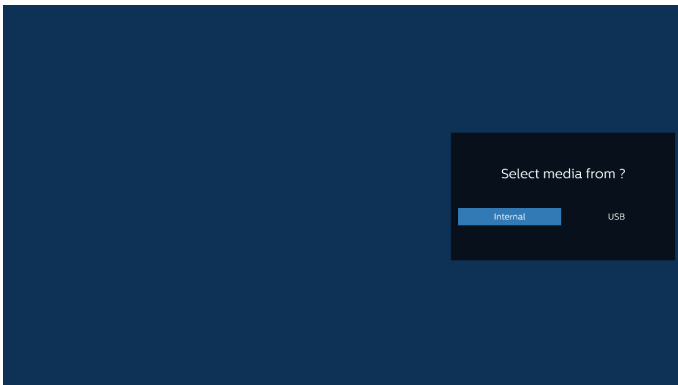
3. メインページで「Compose (構成)」を選択します。最初に、ファイル 1 ~ ファイル 7 の中から編集する再生一覧を選択します。
鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。



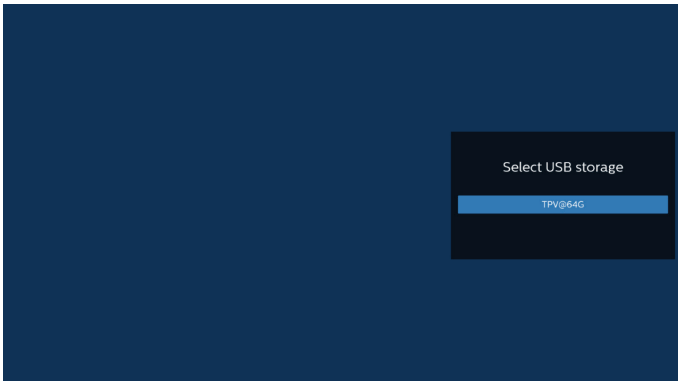
4. 空の再生一覧を選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。
すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に保存する必要があります。

例えば、

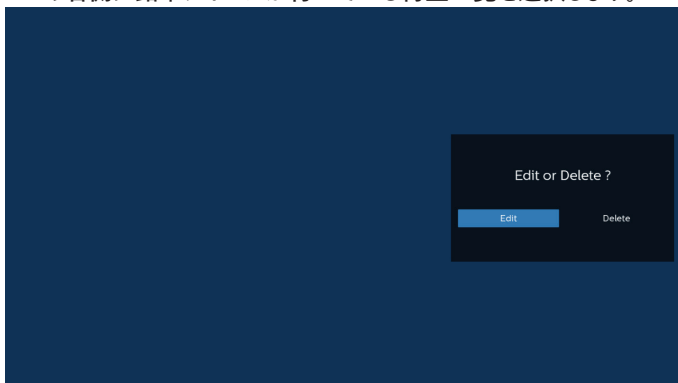
動画:{root dir of storage}/philips/video/
 写真:{root dir of storage}/philips/photo/
 音楽:{root dir of storage}/philips/music/



5. 「USB」ストレージを選択すると、アプリが USB デバイスの選択をガイドします。

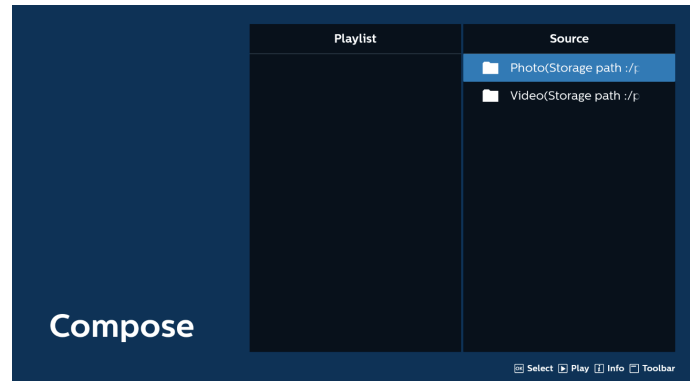


6. 空でない再生一覧を編集または削除するには、選択したファイルの右側に鉛筆アイコンが付いている再生一覧を選択します。



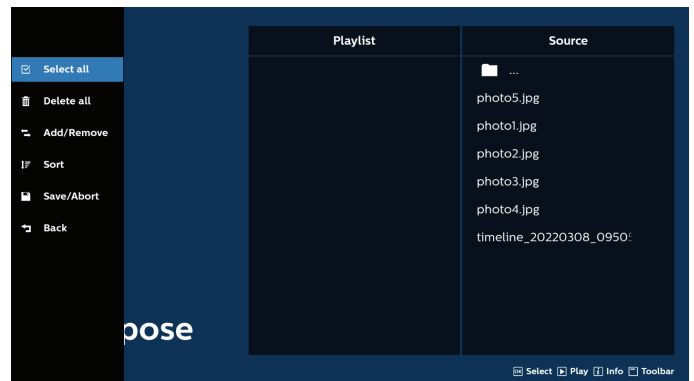
7. 再生一覧の編集を開始すると、以下の画面が表示されます。
 ソース - ストレージ内のファイル。
 再生一覧 - 再生一覧内のファイル。
 オプション - サイドメニューバーを起動します。
 再生キー - メディアファイルを再生します。
 情報キー - メディア情報を表示します。
 タッチファイル - ファイルを選択 / 選択解除します。

注：
 ソース内のディレクトリの 1 つを長押しすると、フルパスが表示されます。

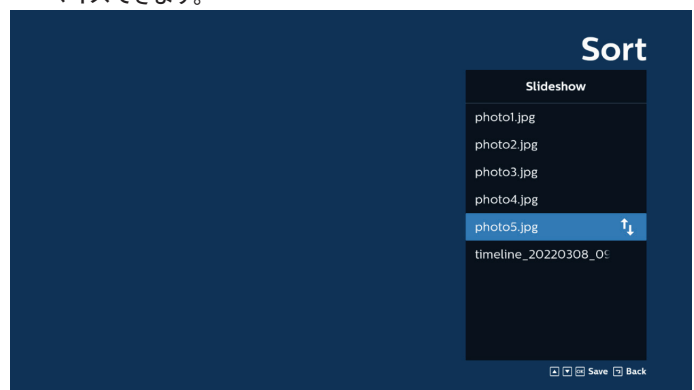


7-1 サイドメニューバーから、次の機能を使用できます：

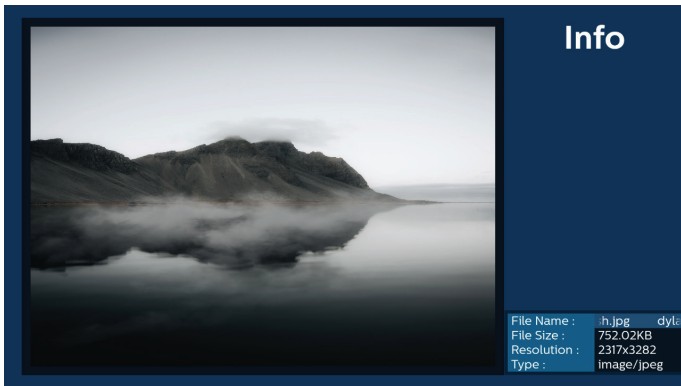
- select all (すべて選択) :すべてのストレージファイルを選択します。
- delete all (すべて削除) :すべての再生一覧ファイルを削除します。
- add/remove (追加 / 削除) :ソースから再生一覧を更新します。
- sort (並び替え) :再生一覧を並び替えます。
- save /abort (保存 / 中断) :再生一覧を保存または中断します。
- back (戻る) :前のメニューに戻ります。



8. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。



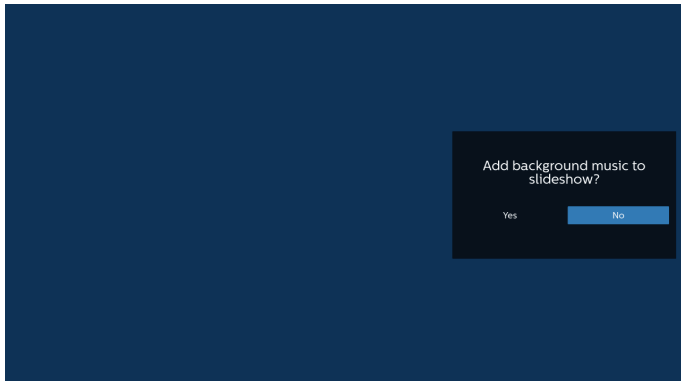
9. 目的のファイルを選択した後、「Info (情報)」キーを押して詳細情報を取得します。



10. 目的のファイルを選択した後、「Play (再生)」キーを押してメディアファイルを直ちに再生します。



11. すべての画像ファイルで再生一覧を作成した場合は、保存する前にスライドショーに BGM を追加するように求められます。



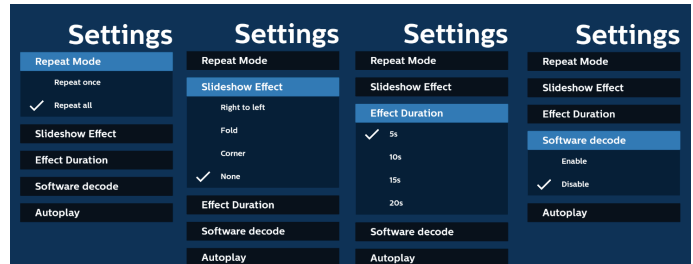
12. メインページで「Settings (設定)」を選択します。5つのオプション: 「Repeat Mode (繰り返しモード)」、「Slideshow Effect (スライドショー効果)」、「Effect Duration (効果時間)」、「Software Decode (ソフトウェアデコード)」、「Autoplay (自動再生)」があります。

Repeat Mode (繰り返しモード): 繰り返しモードを設定します。
Slideshow Effect (スライドショー効果): 写真のスライドショー効果。

Effect Duration (効果時間): 写真の効果時間。

Software Decode (ソフトウェアデコード): ビデオ再生の間にブラック画面を表示しません。

Autoplay (自動再生): USB デバイスを接続すると、USB ルートパスからファイルが自動的に再生されます。



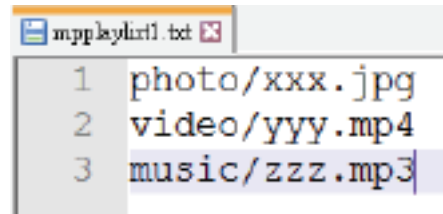
13. メディアプレーヤーによるテキストファイルのインポート

ステップ 1、メディアプレーヤーテキストファイルを作成します。

- ファイル名: mpplaylistX.txt (Xが再生一覧の番号です(1、2、3、4、5、6、7))。

例: mpplaylist1.txt, mpplaylist2.txt

- 内容:



注: 再生一覧に動画ファイルと音楽ファイルが含まれている場合、音楽ファイルを再生すると画面が真っ暗になります。

ステップ 2、「mpplaylistX.txt」を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (DL、PL の場合)
例: /storage/emulated/legacy/philips/mpplaylist1.txt

ステップ 3、「philips」フォルダ内の「photo」、「video」、「music」フォルダにメディアファイルを準備します (内部ストレージのみ)。

- 例: /storage/emulated/legacy/philips/photo/xxx.jpg
/storage/emulated/legacy/philips/video/yyy.mp4
/storage/emulated/legacy/philips/photo/zzz.mp3

ステップ 4、メディアプレーヤーアプリを開始すると、メディアプレーヤーテキストファイルが自動的にインポートされます。

注: 再生一覧ファイル(テキスト)をインポートした後に、リモコンを使ってユーザーが再生一覧を変更した場合、この変更は再生一覧テキストファイルには反映されません。

5.5. Browser (ブラウザ)

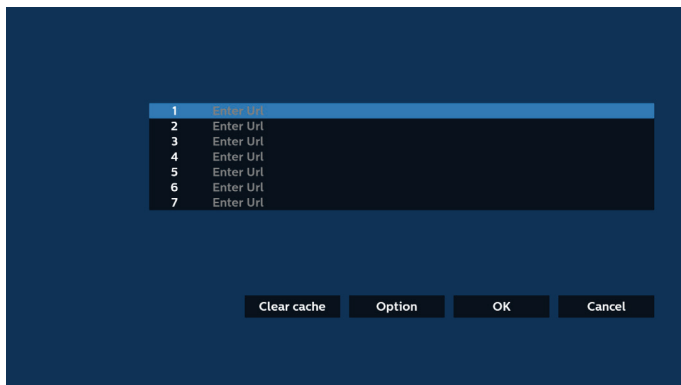
この機能を使用する前に、システムがネットワークに正常に接続されていることを確認してください。

(6.1.1.1. Wi-Fi と 6.1.1.2. Ethernet (イーサネット) を参照してください。)

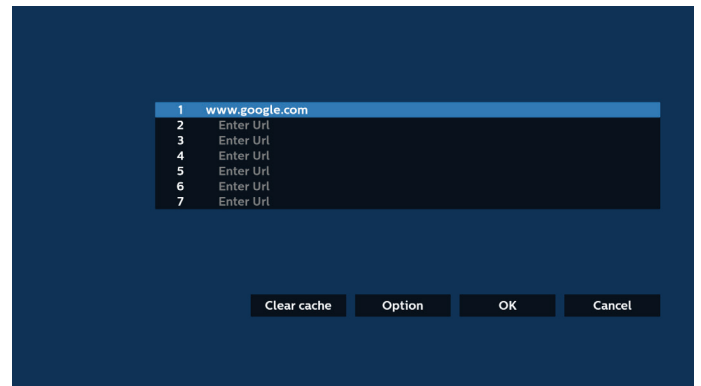
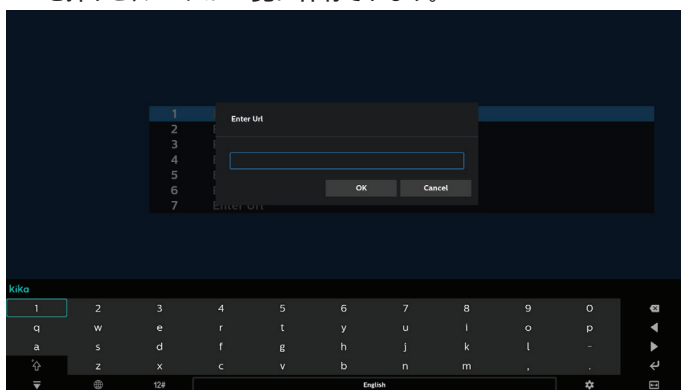
1. 関連する設定ができる「Browser (ブラウザ)」アプリのメインページ。



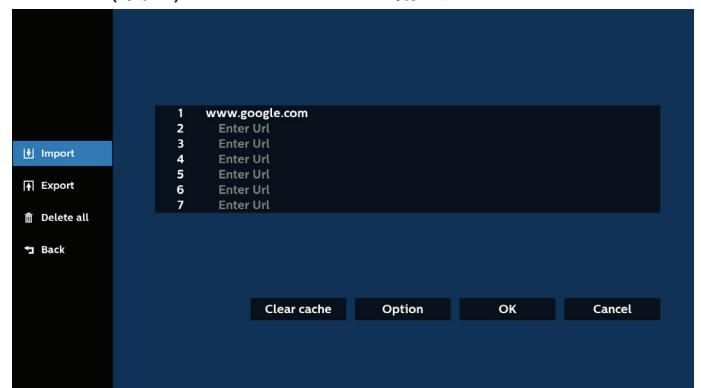
2. 「Compose (構成)」を押して、次のページに入ります。ユーザーは、1 ~ 7 を選択することができます。選択後、ダイアログボックスが表示されます。



3. オンスクリーンキーボードを使用して URL を入力し、「OK」ボタンを押すと、データが一覧に保存されます。

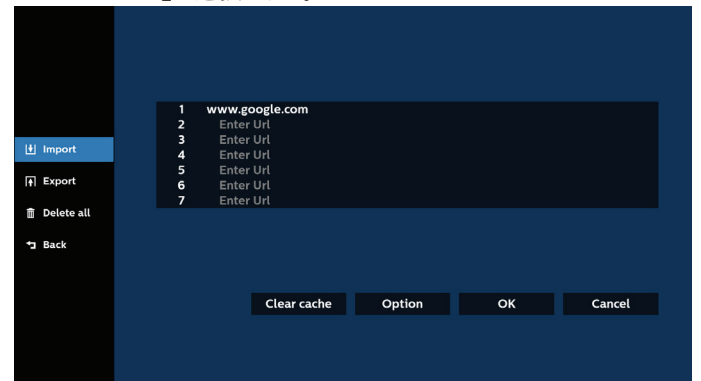


4. 「Option (オプション)」を押すと、左側に一覧が表示されます。
 Import (インポート): URL 一覧のファイルをインポートします
 Export (エクスポート): URL 一覧のファイルをエクスポートします
 Delete all (すべて削除): メイン画面からすべての URL レコードを削除します
 Back (戻る): サイドメニューバーを閉じます

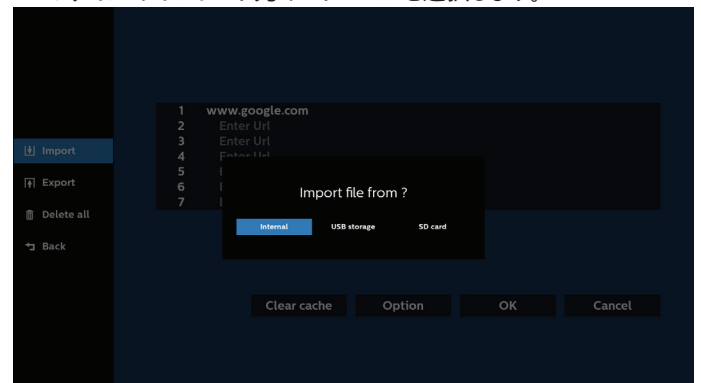


4.1 Import (インポート)

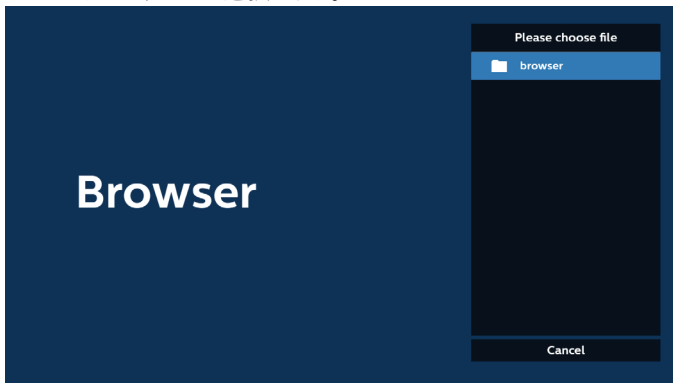
- 「インポート」を選択します。



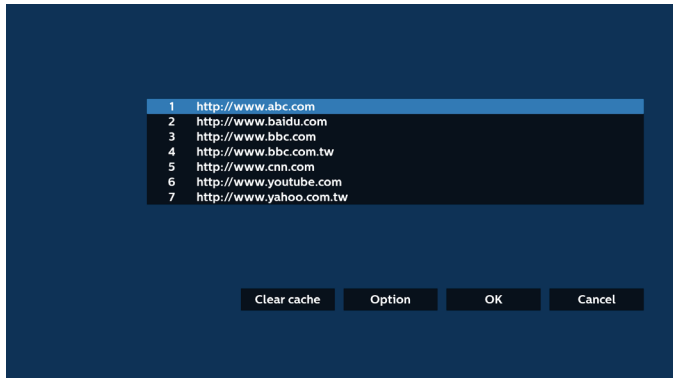
- ファイルのインポート元のストレージを選択します。



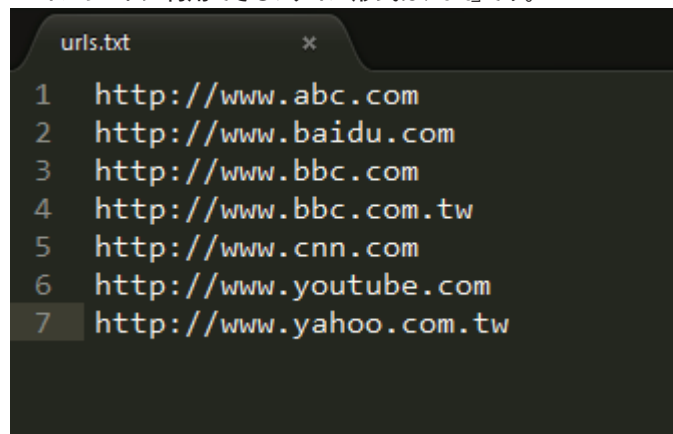
- ブラウザファイルを選択します。



- ブラウザファイルをインポートすると、URL が画面に表示されます。

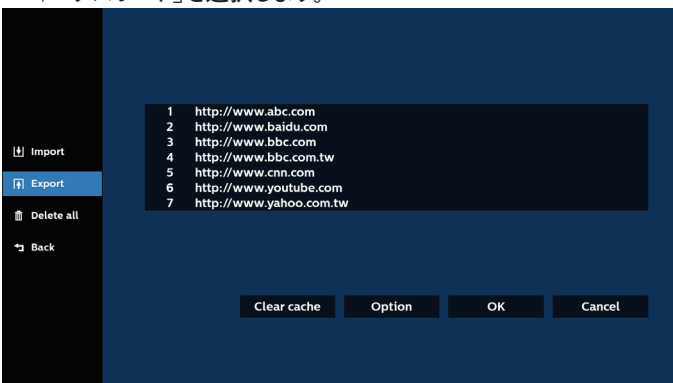


- インポートに利用できるファイル形式は「.txt」です。

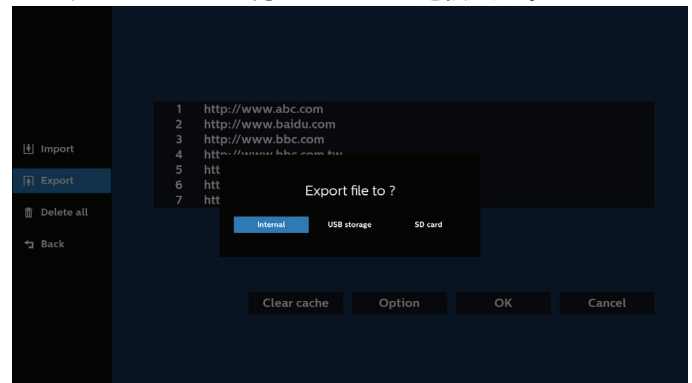


4.2 Export (エクスポート):

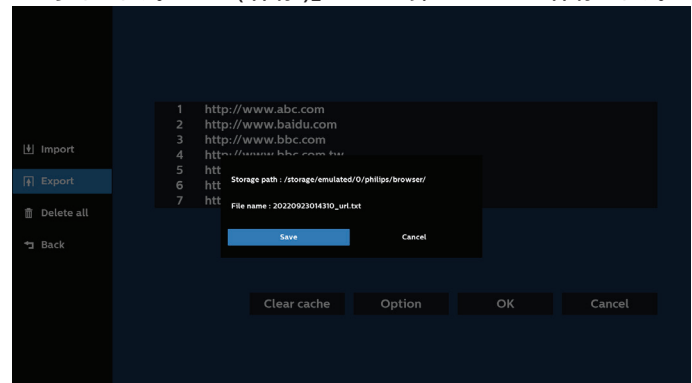
- 「エクスポート」を選択します。



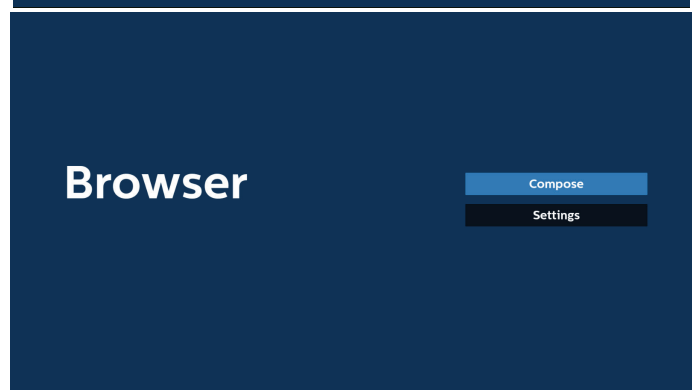
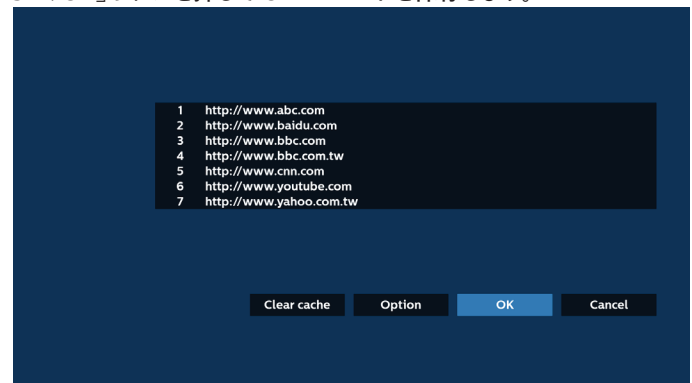
- ファイルのインポート先のストレージを選択します。



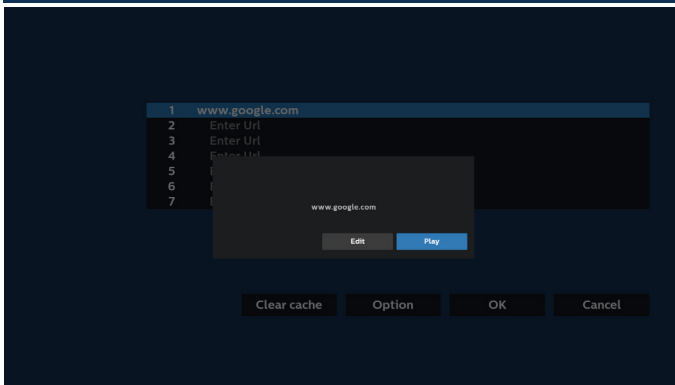
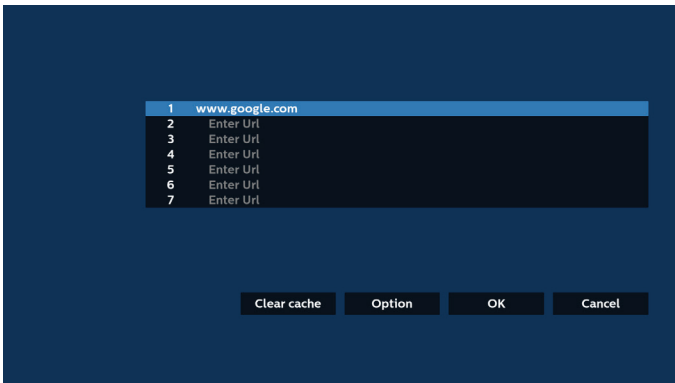
- ダイアログボックスに、保存するファイルのパスとファイル名が表示されます。「Save (保存)」ボタンを押して URL を保存します。



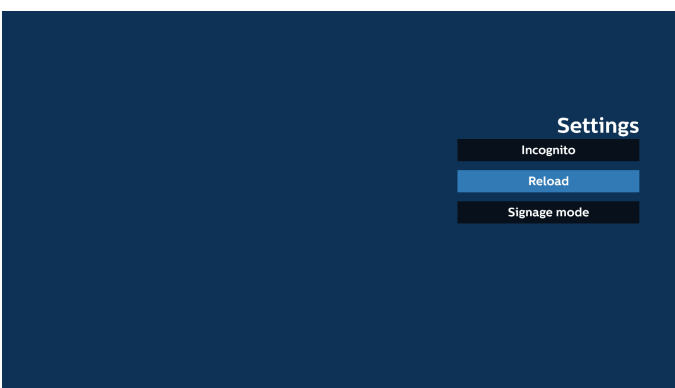
- 5. 「OK」ボタンを押して URL レコードを保存します。



- 6. URL 一覧から空でない項目を選択すると、URL を編集するか再生するかを尋ねるメッセージが表示されます。「Edit (編集)」を選択すると、ダイアログボックスで URL を編集できます。「Play (再生)」を選択すると、選択した URL の Web ページが表示されます。

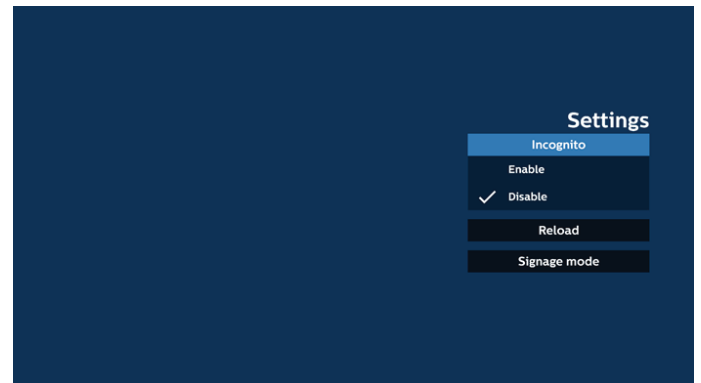


7. 「Settings (設定)」を押して、次のページに入ります。



7.1 Incognito (匿名)

- Enable (有効にする) : Incognito (匿名) モードを使用して Web ページを表示します。
- Disable (無効にする) : 非 Incognito (匿名) モードを使用して Web ページを表示します。



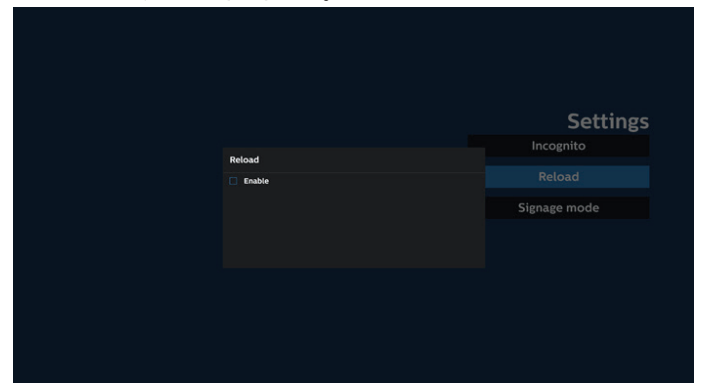
7.2 Reload (再読み込み)

ユーザーがウェブページのリロード時間を設定できるようにします。
a. 「有効にする」チェックボックスにチェックが入っていない場合、デフォルトのリロード時間は 60 秒です。

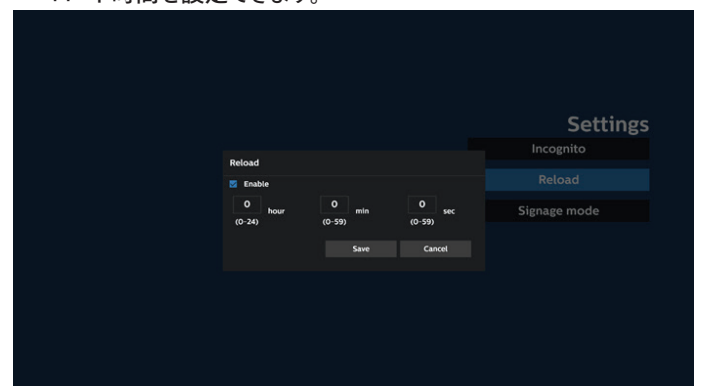
注:

この場合、Web ページは、ネットワークの状態変更されたときにのみリロードされます。

ネットワーク状態が常に接続となっている場合、60 秒後に Web ページはリロードされません。



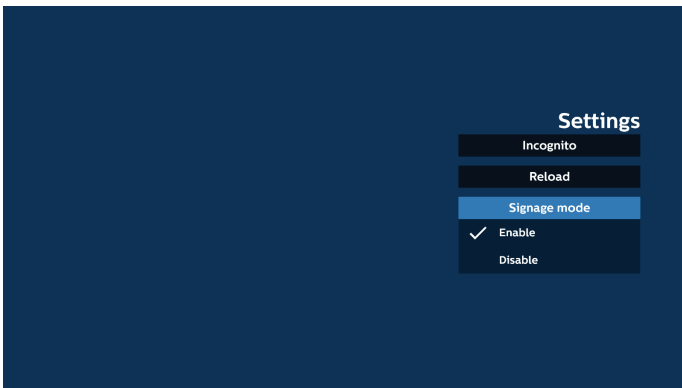
b. 「有効にする」チェックボックスにチェックが入っている場合、リロード時間を設定できます。



7.3 Singage mode (サイネージモード)

ユーザーが別のアプリのアクティビティから戻るとき、ブラウザ構成ページに戻れるようにします。ブラウザ画面を最新の Web ページに維持できないようにします。オプションはデフォルトで有効になっています。

www.google.com を開いて、「PDF デモファイル」を検索します。検索結果で 1 つの PDF ファイルをクリックすると、PDF ファイルがダウンロードされ、開きます。オプションが有効になっている場合、「戻る」ボタンを押すと、ブラウザ構成ページに戻ります。無効になっている場合、画面は検索結果に戻ります。



OSD スケジューラーがブラウザアプリを開いているときにネットワークが切断されると、ブラウザアプリはローカルストレージから URL 1 アドレスのホームページを自動的に開きます。

注:

- a. ブラウザアプリは URL 1 アドレスのホームページデータのみを保存でき、URL 2 から URL 7 までのデータは保存できません。
- b. ローカルストレージ: /sdcard/Download/OfflineBrowsing
- c. 「Clear cache (キャッシュのクリア)」ボタンを押すと、ローカルストレージから URL 1 アドレスのホームページデータをクリアできます。

8. ブラウザでの OSD メニューの操作

8.1 ソース起動

- 「OSD メニュー」>「詳細設定 1」>「ソース起動」の順に移動し、「ブラウザ再生一覧」を 0 に設定します。
再起動後の入力ソースが「ブラウザ」になります。
- 「OSD メニュー」>「詳細設定 1」>「ソース起動」>「入力」に移動し、「ブラウザ再生一覧」を 1 に設定します。
次に、PD はブラウザアプリの最初の URL を使って Web ページを表示します。

8.2 スケジュール

「OSD メニュー」>「アドバンスドオプション」>「スケジュール」に移動し
「オンタイム 1」、「オフタイム 2」、「ブラウザ」を、「入力」、「週の希望日」、「再生一覧」として設定します。
次に、PD はブラウザアプリの URL を使って Web ページを時刻 1 に表示し、時刻 2 に終了します。

9. FTP を通して URL 一覧を編集する方法

ステップ 1、メディアプレーヤーのテキストファイルを作成します。

- ファイル名: bookmarklist.txt。
- 内容:

```

bookmarklist.txt
1 https://www.google.com.tw/
2 http://abc.go.com/
3
4
5
6
7

```

ステップ 2、bookmarklist.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (DL、PL の場合)

例: /storage/emulated/legacy/philips/bookmarklist.txt

ステップ 3、ブラウザアプリを起動すると、ブラウザのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注: 再生一覧ファイル(テキスト)がインポートされた後、リモコンで行った変更は再生一覧テキストファイルに記録されません。

10. オフラインブラウジング

URL 1 でアドレスを設定し、OSD スケジュールを使用して URL 1 Web ページを開く場合、ブラウザアプリは URL 1 のホームページデータをローカルストレージに自動的に保存します。

5.6. PDF Player (PDF プレーヤー)

5.6.1. OSD メニューでの PDF プレーヤーの操作:

1. ソース起動:
 - 入力:
 - 「PDF Player (PDF プレーヤー)」をソースとして選択すると、起動プロセス完了後に PDF プレーヤーのページに自動的に移動します。
 - 再生一覧:
 - PDF プレーヤーのメインページに移動します。
 - 再生一覧 1 ~ 7: PDF プレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - スケジュール一覧:
 - 最大 7 つのスケジュールを設定します。
 - 有効:
 - スケジュールを有効 / 無効にします。
 - 開始時間:
 - 開始時間を設定します。
 - 終了時間:
 - 終了時間を設定します。
 - 再生一覧:
 - 1 ~ 7: PDF プレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。
 - 曜日:
 - 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日を設定します。
 - 毎週:
 - 毎週のスケジュールを設定します。

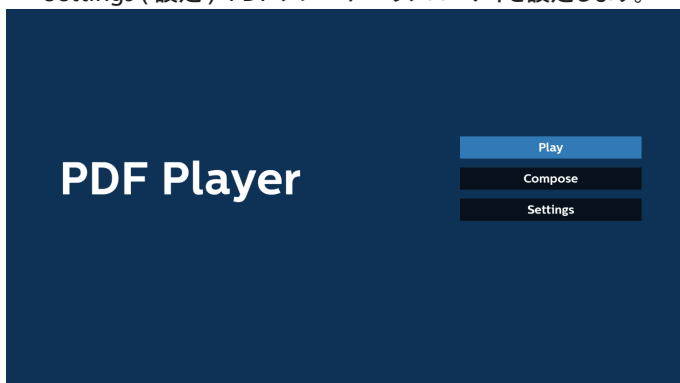
5.6.2. PDF プレーヤーのご紹介:

1. PDF プレーヤーのメインページです。このページは 3 つのオプション(「Play (再生)」、「Compose (構成)」、「Settings (設定)」)で構成されます。

Play (再生): 再生する再生一覧を選択します。

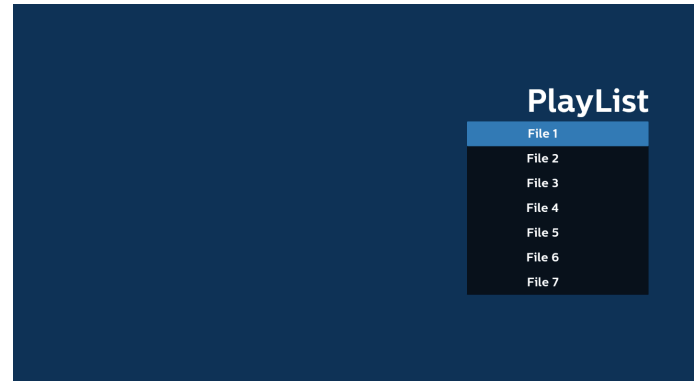
Compose (構成): 再生一覧を編集します。

Settings (設定): PDF プレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play (再生)」を選択し、最初に、ファイル 1 とファイル 7 の間から再生する 1 つの再生一覧を選択する必要があります。

鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。



3. メインページで「Compose (構成)」を選択します。最初に、ファイル 1 ~ ファイル 7 のの中から編集する再生一覧を選択します。

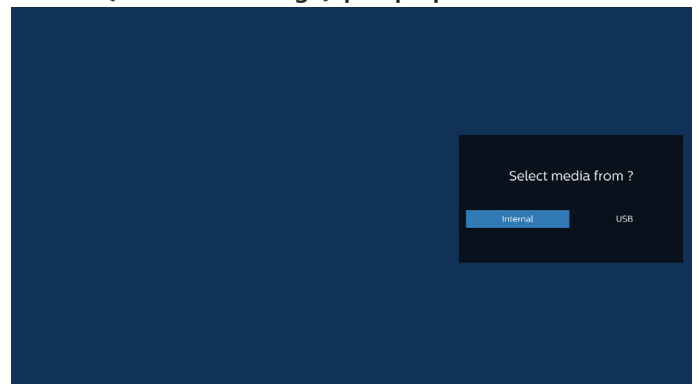
鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。



4. 空の再生一覧を選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。

すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に保存する必要があります。例えば、

PDF:{root dir of storage}/philips/pdf/

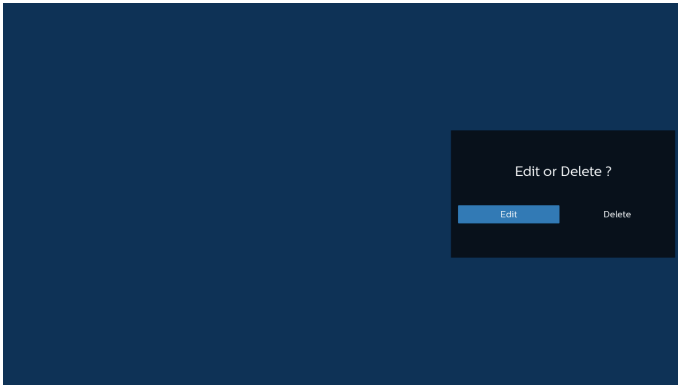


注:

- USB スティックが見つからない場合、次のメッセージが表示されます。「Please plug in USB storage (USB ストレージを差し込んでください。)」

- 内部ストレージが常に利用可能であるので、次のページに移動できます。

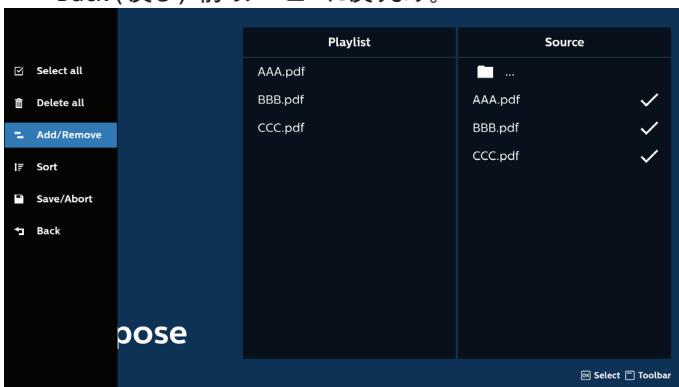
5. 空でない再生一覧を編集または削除するには、ファイルの右側に鉛筆アイコンが付いている再生一覧を選択します。



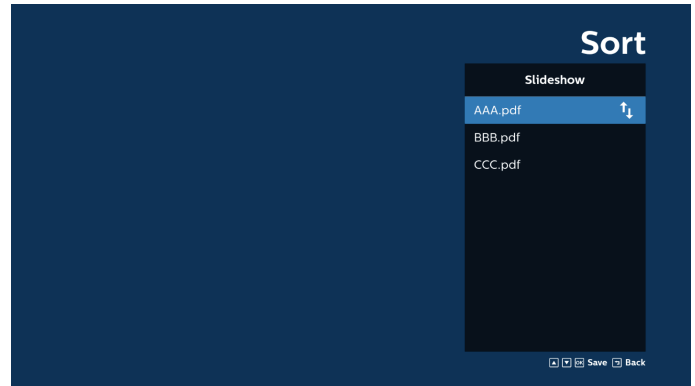
6. 再生一覧を編集し始めると、メニューは次のように表示されます。
- ソース - メモリストレージに保存されるファイル。
 - 再生一覧 - 再生一覧に保存されるファイル。
- 以下の機能は、リモコンの対応するキーから操作できます。
- オプションキー - サイドメニューバーを起動します
 - 再生キー - メディアファイルを再生します。
 - 情報キー - メディア情報を表示します。
 - OK キー - ファイルを選択 / 選択解除します。

6-1. サイドメニューバーから、次の機能を使用できます：

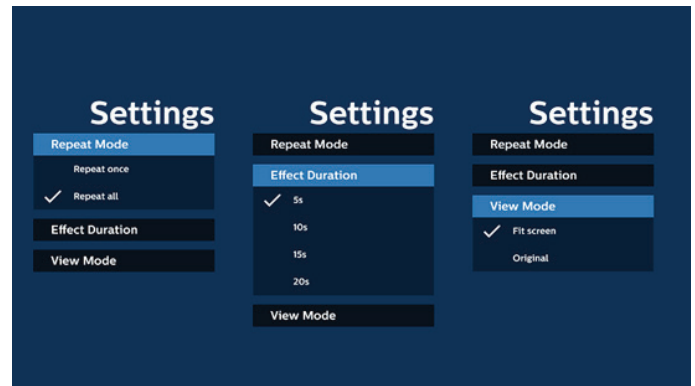
- Select all (すべて選択) : ストレージ内に保存されたすべてのファイルを選択します。
- Delete all (すべて削除) : すべての再生一覧ファイルを削除します。
- Add/Remove (追加 / 削除) : ソースから再生一覧を追加または削除します
- Sort (並び替え) : 再生一覧を並び替えます。
- Save/Abort (保存 / 中断) : 再生一覧を保存または中断します。
- Back (戻る) : 前のメニューに戻ります。



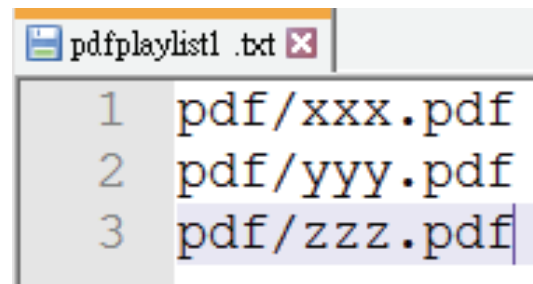
7. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。



8. メインページで「Settings (設定)」を選択します。次の3つのオプションがあります：「Repeat Mode (繰り返しモード)」、「Effect Duration (効果時間)」、「View Mode (表示モード)」。
- Repeat Mode (繰り返しモード) : 繰り返しモードを設定します。
- Effect Duration (効果時間) : 写真の効果時間。
- View Mode (ビューモード) : 最適な画面サイズまたは、原寸大で再生します。



9. FTP を通して PDF 一覧を編集する方法：
ステップ 1、PDF プレーヤーのテキストファイルを作成します。
- ファイル名 : pdfplaylistX.txt。「X」が再生一覧の番号です(1、2、3、4、5、6、7)。
例 : pdfplaylist1.txt、pdfplaylist2.txt
 - 内容 :



ステップ 2、pdfplaylistX.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス : /storage/emulated/legacy/philips(DL、PL の場合)
例 : /storage/emulated/legacy/philips/pdfplaylist1.txt

ステップ 3、内部ストレージの「Philips」フォルダにある「PDF」フォルダに PDF ファイルを追加します。

- 例: /storage/emulated/legacy/philips/pdf/xxx.pdf
/storage/emulated/legacy/philips/pdf/yyy.pdf
/storage/emulated/legacy/philips/pdf/zzz.pdf

ステップ 4、PDF プレーヤーアプリを起動すると、PDF プレーヤーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注:再生一覧ファイル(テキスト)がインポートされた後、リモコンで行った変更は再生一覧テキストファイルに記録されません。

メディアホットキー:

再生:メディアファイルを再生します。

一時停止:一時停止します。

早送り:次のページにスキップします。ページがファイルの最後に近い場合は、次のファイルに移動します。

巻き戻し:前のページに戻ります。ページがファイルの最初に近い場合は、前のファイルに移動します。

停止:ファイルの最初のページに戻ります。

矢印キー:

上 / 下 / 左 / 右:ページを調整します。(ページがズームイン / ズームアウトしているとき)

左:前のページに進みます。(ページがズームイン / ズームアウトしていないとき)

右:次のページに進みます。(ページがズームイン / ズームアウトしていないとき)

組み合わせキー:

数字キー +OK キー:特定のページを選択し、OK キーを押して、ページを変更します。

- 数字キーを押します。

- OK キーを押すと、ページ番号がページの下部に表示されます。ページ番号が合計ページ数を超えている場合、現在のページ番号はページの下部に表示されたままになります。

注:

2 つ以上の USB ディスクを接続して再生一覧を編集する場合、USB ストレージバスが変更される可能性があるため、電源のオン / オフ後に再生一覧から再生できるかどうかは保証できません。再生一覧を編集するときは、USB ディスクを 1 つだけ使用することを強くお勧めします。

5.7. Custom App (カスタムアプリ)

カスタマーソースに対してアプリケーションを設定します。

注:

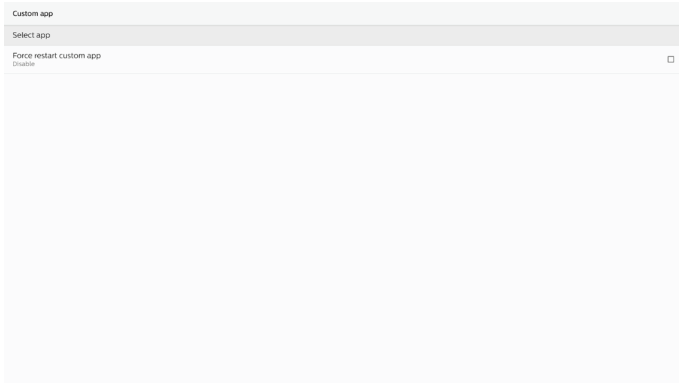
- (1) ユーザーがインストールしたアプリのみが表示されます。
- (2) プリインストールされているシステムのアプリは表示されません。

5.7.1. OSD メニューの操作:

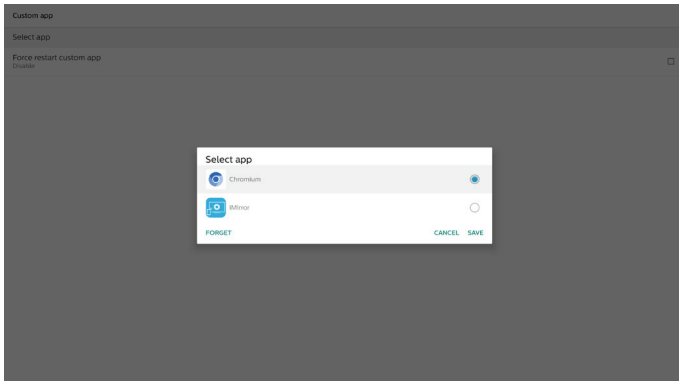
RCU:[ソース]>[カスタム]

カスタマー APK を設定している場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、PD はカスタマーアプリを開きます。

カスタマー APK が設定されていない場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、PD は黒い画面を表示します。



5.7.2. 機能の紹介



Save (保存)

「Save (保存)」を押すと、保存が実行されます。

Forget (削除)

「Forget (削除)」を押すと、以前に保存した情報を削除できます。

Cancel (キャンセル)

ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。

カスタマー APK がインストールされていない場合、一覧はブランクになります。

オプションがない場合は、「Save (保存)」/「Forget (削除)」ボタンがグレー表示されます。

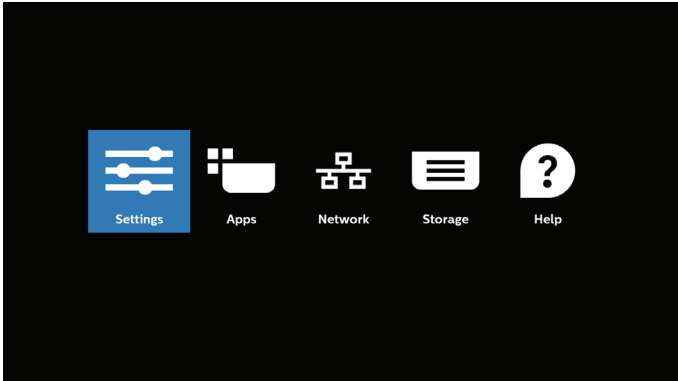
カスタムアプリの強制再起動

例外によりアプリが終了した場合、アプリが自動的に再起動します。

6. Setting (設定)

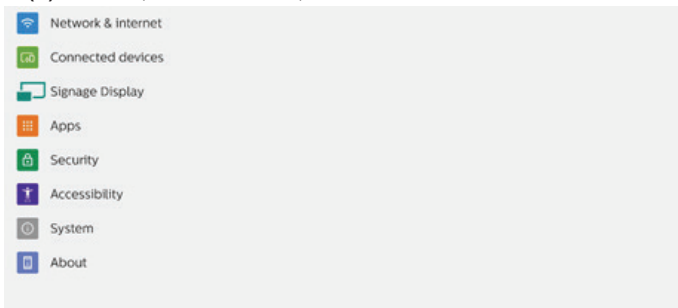
6.1. Settings (設定)

管理者モードで「Settings (設定)」アイコンをクリックして、PD 設定に入ります。



設定メニューは次の項目で構成されています:

- (1) Network & internet (ネットワークとインターネット)
- (2) Connected devices (接続デバイス)
- (3) Signage Display (サイネージ表示)
- (4) Apps (アプリ)
- (5) Security (セキュリティ)
- (6) Accessibility (アクセシビリティ)
- (7) System (システム)
- (8) About (バージョン情報)



6.1.1. Network & Internet (ネットワークとインターネット)



6.1.1.1. Wi-Fi

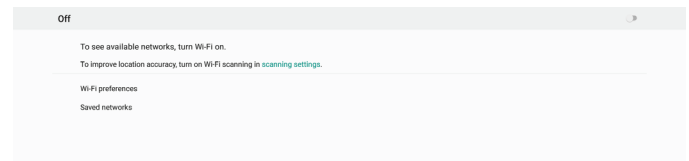
Settings(設定) -> Network & Internet(ネットワークとインターネット) -> Wi-Fi

重要な注意事項:このオプションは、サポートされている Wi-Fi ドングルが接続されている場合にのみ使用できます。USB Wi-Fi ドングルを接続または取り外すたびに、デバイスを再起動してください。

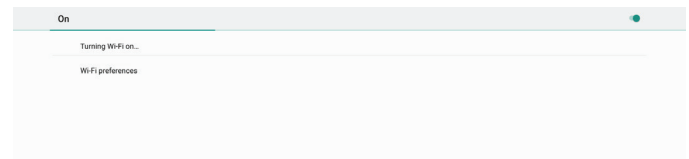
Wi-Fi を有効にする

Setting (設定) -> Network & Internet (ネットワークとインターネット) -> Wi-Fi -> Off/On (オフ / オン) トグルボタンのメインスイッチを使って Wi-Fi 接続を有効 / 無効にします。

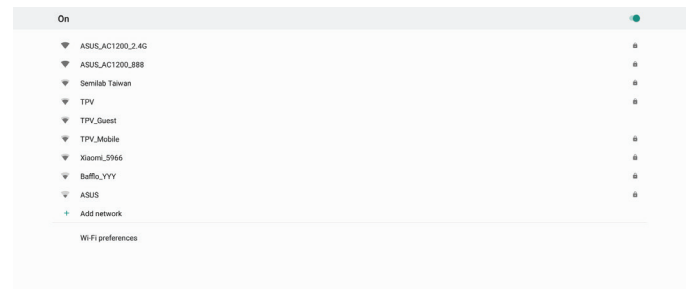
Wi-Fi オフ



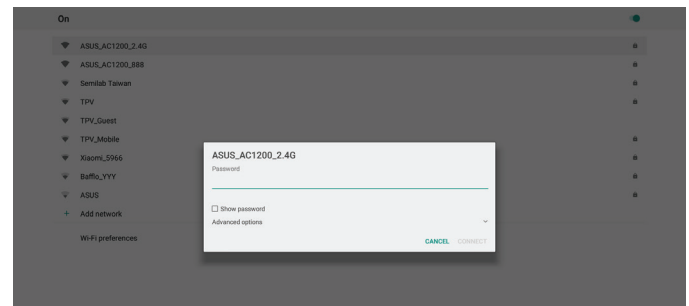
Wi-Fi オン



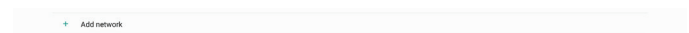
利用可能なネットワークリストで、既存のワイヤレスネットワーク上の AP (アクセスポイント) を選択します。



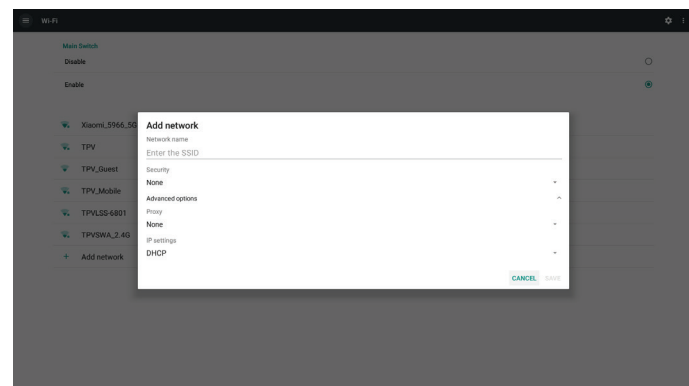
必要な設定を入力します。



リストの最後に、[Add network (ネットワークの追加)] があります。ネットワークがリストに表示されていない場合、[ネットワークの追加] で隠しネットワークを追加します。



このネットワークのネットワーク名 (SSID) を入力し、セキュリティタイプとその他のアドバンスドオプションを選択する必要があります。



注:

Wi-Fi が有効な場合、イーサネットは自動的に無効になります。

Wi-Fi Preference (Wi-Fi 設定)

Settings(設定) -> Network & Internet(ネットワークとインターネット) -> Wi-Fi -> Wi-Fi Preference (Wi-Fi 設定)



WPS の使用

WPS ネットワークは、次の 2 つのオプションを使用して有効にできません。

PBC (プッシュボタン構成)。ユーザーはボタンを押すだけで接続できます。

PIN (個人識別番号)。接続するクライアント WPS デバイスに PIN を入力します。



PBC 方式を使用する場合は、「WPS Push Button (WPS プッシュボタン)」を選択して接続してください。

PIN 方式を使用する場合は、「WPS Pin Entry (WPS ピン入力)」を選択し、PIN を入力して接続します。

Wi-Fi ネットワーク情報



MAC address (MAC アドレス): Wi-Fi MAC アドレスを表示します。

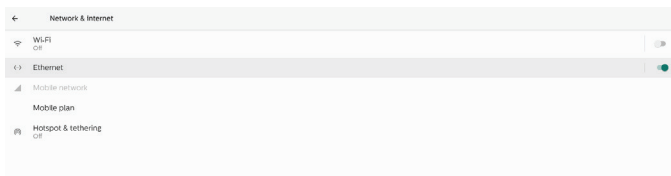
IP address (IP アドレス): デバイスがネットワークに参加するときの IP アドレスを示しています。

6.1.1.2. Ethernet (イーサネット)

Settings(設定) -> Network & Internet(ネットワークとインターネット) -> Ethernet(イーサネット)

イーサネットの有効化

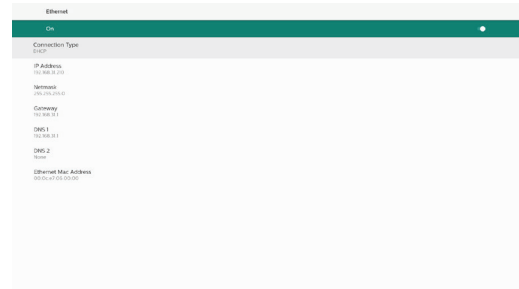
Setting (設定) -> Network & Internet (ネットワークとインターネット) -> Ethernet (イーサネット) トグルボタンでイーサネット接続を有効 / 無効にします。



デフォルトでは、システムは DHCP を使用してネットワークに参加しません。

接続情報(オプションがグレー表示されている場合は編集できません)。

- A. IP Address (IP アドレス)
- B. Gateway (ゲートウェイ)
- C. Netmask (ネットマスク)
- D. DNS 1
- E. DNS 2
- F. Ethernet Mac Address (イーサネットの MAC アドレス)

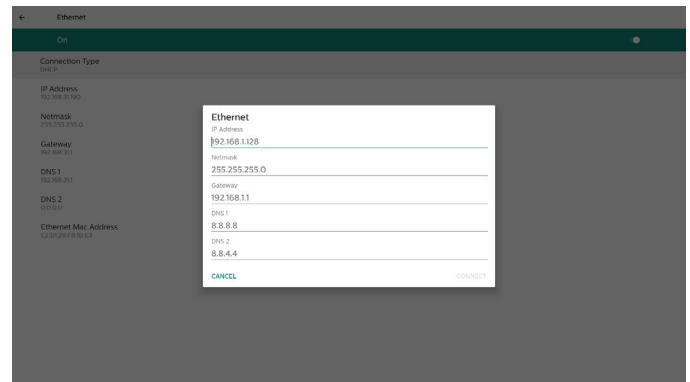
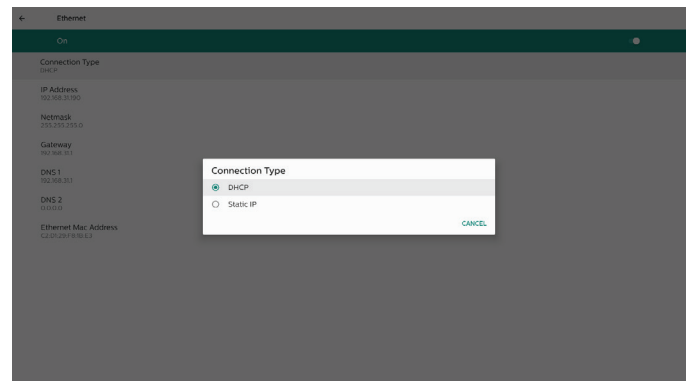


注:

イーサネット接続が有効になると、Wi-Fi 接続は自動的に無効になります。

Ethernet Static IP (イーサネット静的 IP)

接続タイプを [Static IP (静的 IP)] に変更すると、イーサネットの IP アドレス、ゲートウェイ、ネットマスク、DNS 1/2 アドレスを手動で設定できます。



注:

1. すべてのフィールドに IPv4 アドレス (ドットで区切られた、0 ~ 255 の十進数 4 つで構成されるドット数値記法で) を入力してください。

6.1.1.3. Mobile networks (モバイルネットワーク)

デバイスが接続されており、このデバイスが SIM カードで 4G モジュールをサポートする場合、このオプションが表示されます。システムは 4G モジュールのホットプラグをサポートしていないため、4G モジュールをデバイスに取り付ける前にシステムをシャットダウン (AC 電源オフ) してから、再度電源をオンにしてください。

「Settings(設定)」->「Network & internet(ネットワークとインターネット)」->「Mobile network(モバイルネットワーク)」でメインスイッチを有効に切り替えて、モバイルネットワークを有効にします。使用する前に、SIM カードスロットに SIM カードを挿入してください。

6.1.1.4. Wi-Fi Hotspot (Wi-Fi ホットスポット)

このシステムは、「Wi-Fi Hotspot (Wi-Fi ホットスポット)」対応です。

「Wi-Fi Hotspot (Wi-Fi ホットスポット)」:

Wi-Fi 経由でネットワークを共有します。このオプションを有効にすると、Wi-Fi 接続がオフになり、ホットスポット AP(アクセスポイント)になります。他の Wi-Fi クライアントデバイスが参加し、ネットワークを共有できます。

「Wi-Fi Hotspot (Wi-Fi ホットスポット)」を有効にすると、Wi-Fi ホットスポットの詳細情報を設定できます。

ネットワーク名は SSID 名であり、IEEE802.11 規格に準拠している必要があります。UTF-8 エンコーディングを用いた 0 ~ 32 オクテットを使用することを推奨します。システムは、ホットスポットネットワークを提供するための「NONE」/「WPA2 PSK」セキュリティプロトコルをサポートします。「NONE」よりも安全な「WPA2 PSK」を使用することを推奨します。

他のクライアントが接続するためのパスワードは、ランダムに生成されます。ホットスポットの新規パスワードを設定できます。2.4 GHz または 5.0 GHz のいずれかの帯域を AP バンドとして選択します。

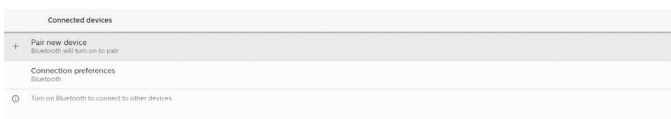


Disable Tethering (デザリングの無効化)

デフォルトでは、デバイスはモバイルデータを使用して、ホットスポット経由でネットワークにアクセスします。このオプションを有効にすると、システムは、ホットスポット経由でネットワークにアクセスするデバイスをブロックします。

6.1.2. Connected devices (接続デバイス)

Bluetooth 経由で接続済みのデバイスを表示します。



6.1.3. Singage Display (サイネージディスプレイ)

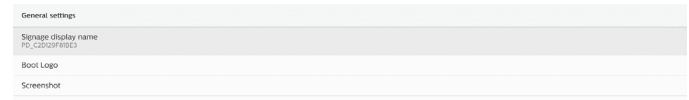
Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示)では、サイネージ表示のほとんどの機能を設定します。サイネージ表示設定の詳細については、以下を参照してください。



6.1.3.1. General Settings (一般設定)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> General Settings(一般設定)

サイネージディスプレイ名、ユーザーのロゴ、スクリーンショットを設定します。



Singage Display Name (サイネージディスプレイ名)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> General Settings(一般設定) -> Signage Display Name(サイネージディスプレイ名)

サイネージ表示名を設定します。デフォルト名は、プレフィックス「PD_」が付いたイーサネット MAC アドレスです。たとえば、「PD_000b12223398」などとなります。名前の最大長は、UTF8 形式で 36 文字です。クリックして名前を変更します。

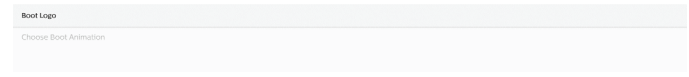


Boot Logo (起動ロゴ)

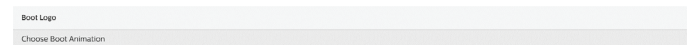
Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> General Settings(一般設定) -> Boot Logo(ブートロゴ)

OSD Menu(OSD メニュー) -> Configuration 2(設定 2 メニュー) -> Logo(ロゴ)が「ユーザー」モードに設定されている場合、デバイス起動ロゴ(ブートアニメーション)を設定できます。

「Logo(ロゴ)」が「User(ユーザー)」モードに設定されていない場合、カスタムブートアニメーションを選択できません。



「User(ユーザー)」モードに設定すると、「Choose Boot Animation(ブートアニメーションの選択)」を利用できるようになります。



「Logo(ロゴ)」が「User(ユーザー)」モードに設定されている場合、デフォルトの Philips ロゴは、ユーザーが選択したブートアニメーションファイルに置き換えられます。「User(ユーザー)」モードでブートアニメーションファイルを設定しない場合、起動時にデフォルトの Philips ロゴが表示されます。

「Choose Boot Animation(ブートアニメーションの選択)」をクリックすると、ブートアニメーションファイルを選択するためのポップアップメニューが表示されます。システムは、USB ストレージ内のファイルを自動スキャンします。

ブートアニメーションファイル名は「bootanimation.zip」として設定する必要があります。それ以外の名前は無効となります。



使用可能なブートアニメーションファイルはすべて、次のフォルダにあります。

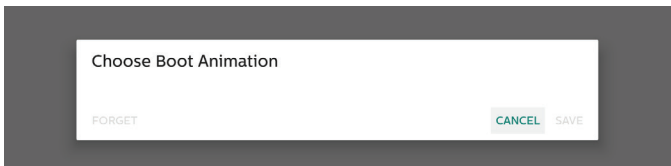
1. /data/local/bootanimation/ の下にあるファイル:
USB からコピーされたブートアニメーションファイル。

2. {USB_STORAGE_VOLUME_NAME}/ の下のファイル:
USB ストレージに保存されているブートアニメーションファイル。

ダイアログオプション:

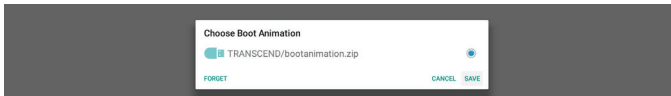
- FORGET (削除)
/data/local/bootanimation/ の下の「bootanimation.zip」をクリアします。
カスタムブートアニメーションは、システムの起動中には使用されません。
- CANCEL (キャンセル)
ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。
- SAVE (保存)
ここで選択したファイルを /data/local/bootanimation/ にコピーします。これを行った後、ユーザーは外部ストレージ(USB)を取り外すことができます。システムは /data/local/bootanimation/ の下のブートアニメーションファイルを使用します。

システムが外部ストレージ(USB)および /data/ の下に bootanimation.zip ファイルを見つけれない場合、ファイルリストは空になります。「SAVE (保存)」ボタンと「FORGET (削除)」ボタンがグレー表示されている場合、USB メモリに保存されているコンテンツを確認する必要があります。「CANCEL (キャンセル)」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じ、USB メモリを再度接続します。

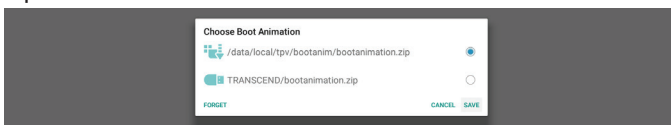


/data/local/bootanimation/ フォルダが空の場合は、「bootanimation.zip」がユーザーによって事前に保存されなかったことを意味します。システムの起動時には、デフォルトの Philips ロゴが表示されます。

外部ストレージ内に「bootanimation.zip」が見つかったと、ファイルリストを表示するダイアログボックスが表示されます。



ファイル「bootanimation.zip」がフォルダ「/data/local/bootanimation/」にある場合、ポップアップダイアログボックスにそのファイルが最初のオプションとして表示されます。これは単に、ユーザーが以前にファイル「bootanimation.zip」をコピー (保存) しており、システムが /data/local/bootanimation/bootanimation.zip からブートアニメーションで起動することを意味します。

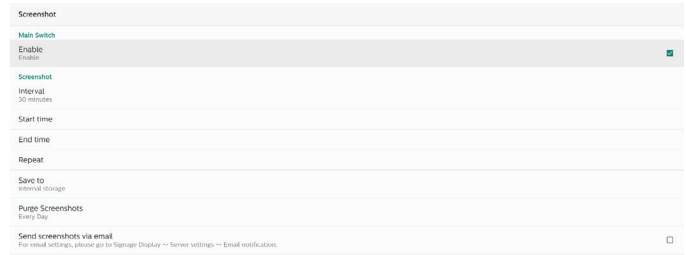


ブートアニメーションファイルは、「SAVE (保存)」ボタンを使用して置き換えることができます。

Screenshot (スクリーンショット)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> General Settings (一般設定) -> Screenshot (スクリーンショット)

インポートしたコンテンツからスクリーンショットをキャプチャするには、「Enable (有効)」をクリックして自動スクリーンショット機能を有効にします。スクリーンショットオプションがグレー表示されている場合は、スクリーンショット機能がまだ有効になっていないことを意味します。



この機能を有効にした後、各スクリーンショット間の間隔時間、およびキャプチャされた画面が保存される保存先のフォルダを設定できます。「Save to (保存先)」オプションでは、スクリーンショット画像が内部ストレージに保存され、手動では変更できないことが通知されます。

注:

- 次の条件になった場合、スクリーンショット画像は自動的に削除されます。
 - スクリーンショット機能の開始時間が 0 秒に設定されている場合。
 - スクリーンショットを 40 秒で開始した場合。
 - スクリーンショットの写真を毎週削除することにした場合、写真削除データは、スクリーンショット機能の設定を適用した日に変更されます。たとえば、削除する日を毎週月曜日に設定し、金曜日にスクリーンショット機能で他の設定を変更した場合、削除日は金曜日 (システムの現在時刻の日) に変更されます。
- スリープ (システムの一時停止) 機能とスクリーンショット機能: システムがスリープモードに入ると、スクリーンショット機能は一時停止されます。その結果、スクリーンショットをメール送信する機能は停止されます。システムがアクティブモードに入ると、スクリーンショット関連の機能が再起動します。

- (1). Interval (間隔)
各スクリーンショット間の間隔時間を設定します。利用可能なオプションは 30 分と 60 分です。



- (2). Start Time (開始時間)
スクリーンショット機能を開始する、1 日の開始時間を設定します。ダイアログボックスを終了する前に、必ず「Save (保存)」ボタンをクリックしてください。クリックしないと、設定が保存されません。開始時間は終了時間よりも前にする必要があります。無効な値である場合は、エラーメッセージが表示されます。



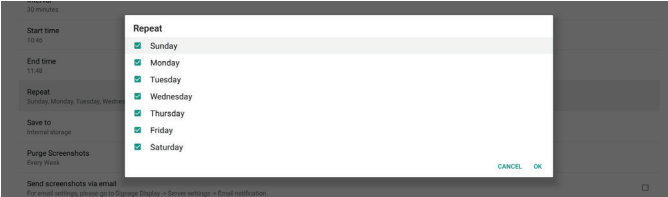
(3). End Time (終了時間)

スクリーンショット機能を終了する、1日の終了時間を設定します。ダイアログボックスを終了する前に、必ず「Save (保存)」ボタンをクリックしてください。クリックしないと、設定が保存されません。開始時間は終了時間よりも前にする必要があります。無効な値である場合は、エラーメッセージが表示されます。



(4). Repeat (繰り返し)

自動スクリーンショットの繰り返しモードを設定します。



(5). Save to (保存先)

画面イメージは、内部ストレージの「philips/screenshot」フォルダに保存されます。

(6). Purge Screenshots (スクリーンショットの消去)

スクリーンショット画像を消去する間隔を設定します。利用可能なオプションは「Every day (毎日)」と「Every week (毎週)」です。



(7). Send screenshots via email (スクリーンショットを電子メールで送信)

すべてのスクリーンショット画像を電子メールの添付ファイルとして送信できます。最初に「Settings (設定)」->「Signage Display (サイネージ表示)」->「Server Settings (サーバー設定)」->「Email Notification (電子メール通知)」で電子メール情報を設定しておく必要があります ([Email Notification \(電子メール通知\)](#) のセクションを参照)。



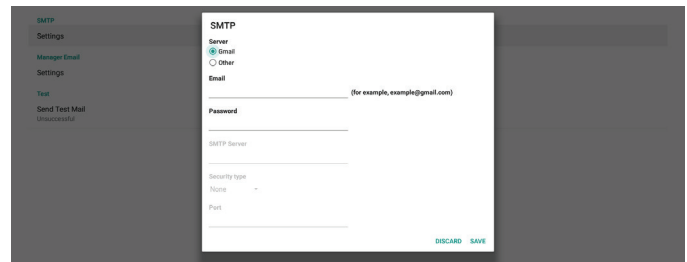
SMTP

送信者メールアドレスおよび SMTP サーバー情報を公開します。設定する次の2種類の SMTP サーバーがあります: 「Gmail」および「Other (その他)」。「Other (その他)」オプションを使用すると、SMTP サーバー、セキュリティタイプ、サーバーポートを手動で設定できます。

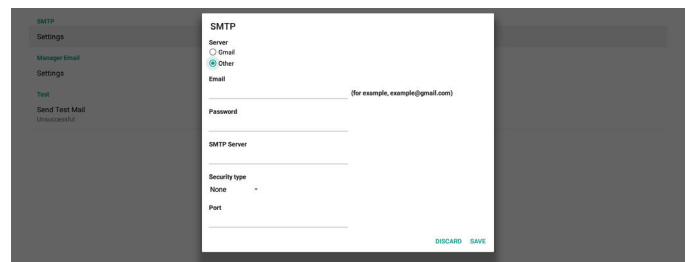
注:

1. パスワードは 6 ~ 20 文字の UTF8 形式にしてください。
2. ユーザーがポート 5000 (SICP デフォルトポート) およびポート 2121 (FTP サーバーデフォルトポート) を設定することはできません。「Settings (設定)」->「Signage Display (サイネージ表示)」->「Network Application (ネットワークアプリケーション)」->「SICP network port (SICP ネットワークポート)」での SICP ネットワークポート設定。「Settings (設定)」->「Signage Display (サイネージ表示)」->「Server settings (サーバー設定)」->「FTP」->「Port (ポート)」の FTP ネットワークポート設定。

Gmail: (SMTP サーバー、セキュリティタイプ、およびポートはグレー表示されています)



Other(その他):



Gmail Security Settings (Gmail セキュリティ設定)

ブラウザを開き、Google アカウントにログインします。Web ページの左側または上部に表示される「Security (セキュリティ)」メニューをクリックします。

6.1.3.2. Server Settings (サーバー設定)

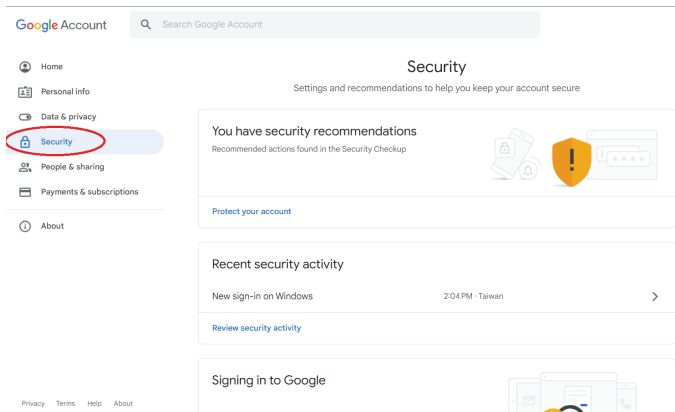
Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> Server Settings (サーバー設定)



Email Notification (電子メール通知)

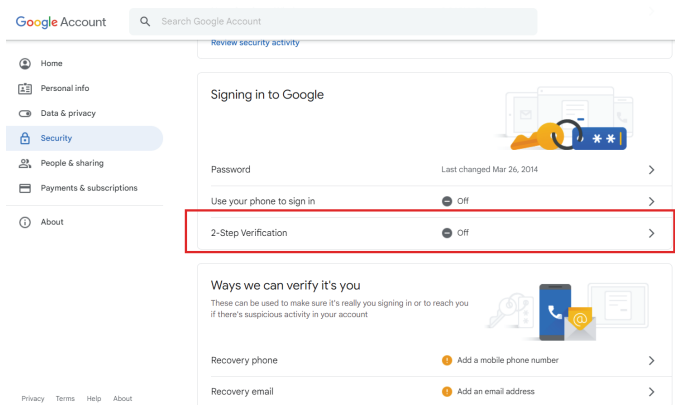
Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> Server Settings (サーバー設定) -> Email Notification (電子メール通知)

チェックボックスをクリックして、電子メール通知機能を有効または無効にします。電子メール通知機能を有効にした後、SMTP および管理者メールアドレスを設定します。



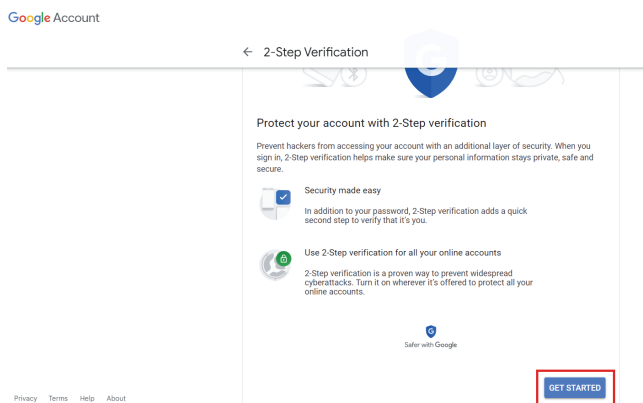
ステップ 1 - 「2-Step Verification (2 段階認証)」を選択

「2-Step Verification (2 段階認証)」がオフの場合は、クリックして有効にします。

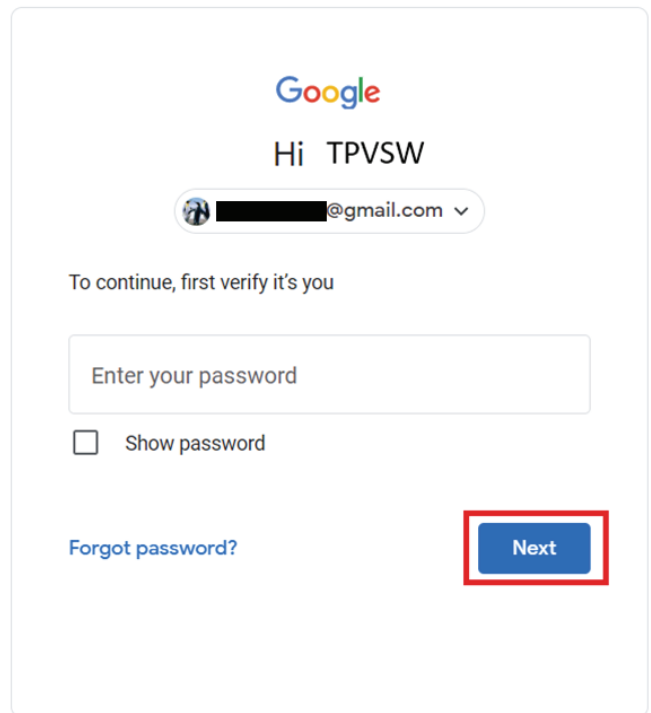


ステップ 2 - 「2-Step Verification (2 段階認証)」を構成

「GET STARTED (開始)」ボタンをクリックして、2 段階認証オプションを構成します。



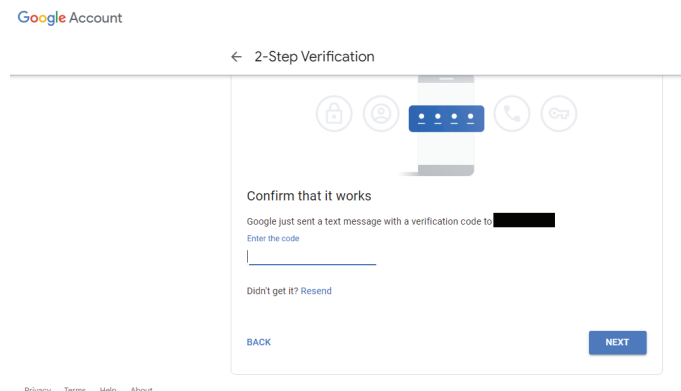
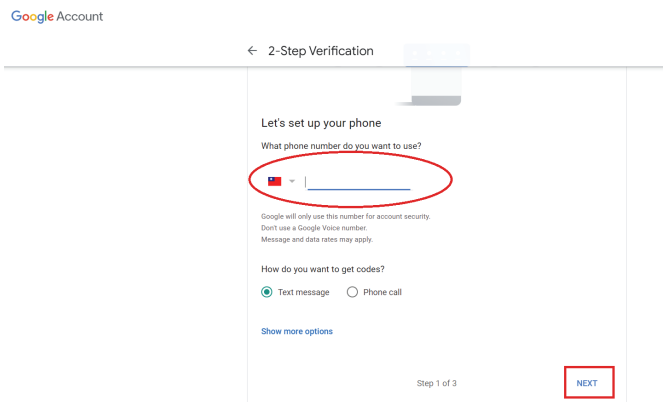
ID を確認するために、Google アカウントに再度ログインするよう指示される場合があります。



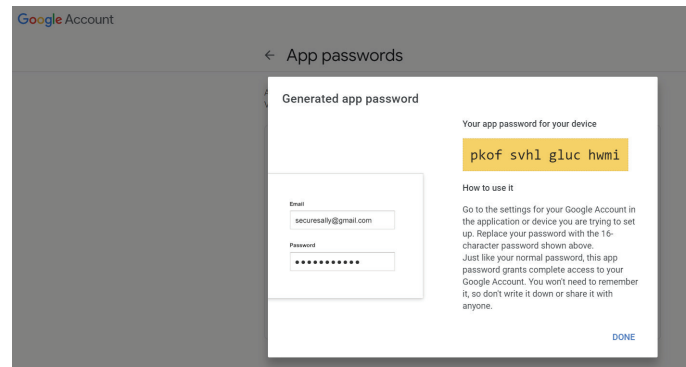
English (United States) ▾ Help Privacy Terms

ステップ 3 - スマートフォンで構成を完了

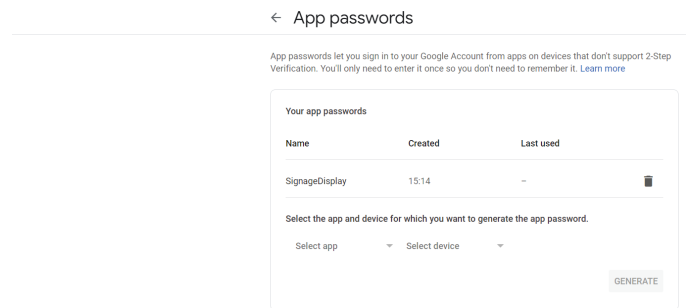
画面上の指示に従って利用可能なオプションを使用し、スマートフォンで 2 段階認証を完了します。



自動生成されたアプリのパスワードを保存するか、選択してクリップボードにコピーし、後で使用できるようにします。



Google Account



Manager Email (マネージャー電子メール)

電子メールを受信する宛先アドレスを指定します。



Test (テスト)

電子メールの設定が正しいかどうかを確認するには「Send Test Mail (テストメールを送信)」を選択してテストメールを送信します。

FTP

「設定」->「サインページディスプレイ」->「サーバー設定」->「FTP」の順にアクセスします

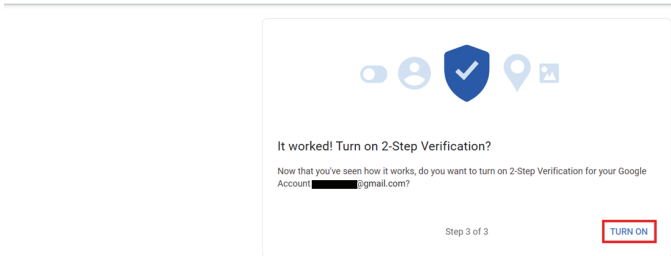


チェックボックスをクリックして、FTP サーバー機能を有効または無効にします。この機能を有効にした後、アカウント、パスワード、ポート番号を設定できます。

- 1). Account (アカウント) : FTP サーバーにログインするためのユーザー名の長さは、4 ~ 20 文字です。英数字 (a-z、A-Z、0 ~ 9) のみを使用できます。
- 2). Password (パスワード) : FTP サーバーにログインするためのパスワードの長さは、6 ~ 20 文字です。英数字 (a-z、A-Z、0 ~ 9) のみを使用できます。パスワードを設定すると、アスタリスクとして表示されます。
- 3). Storage path (ストレージパス) : FTP サーバーは、内部ストレージにのみアクセスします。ストレージパスは変更できません。

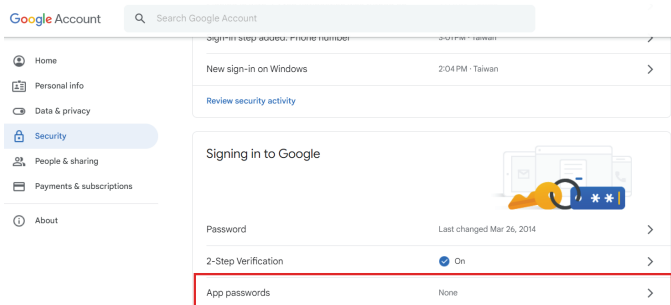
Google Account

← 2-Step Verification



ステップ 4 - アプリのパスワードを作成

「App Password (アプリのパスワード)」オプションをクリックして、アプリの新規パスワードを作成します。

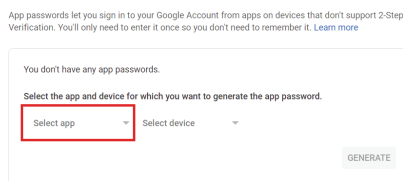


ステップ 5 - 新規アプリ名を追加

最初にデバイス (Windows コンピューターなど) を選択してから、「Select App (アプリの選択)」メニューをクリックして「Other (custom name) (その他 (カスタム名))」をクリックします。

Google Account

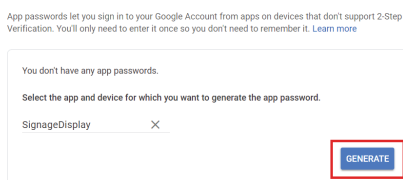
← App passwords



カスタムのアプリケーション名を入力します (このフィールドには任意の名前を入力できます)。「Generate (生成)」ボタンをクリックします。
(例: 「SignageDisplay」をアプリ名として入力)

Google Account

← App passwords



- (4).Port(ポート):FTP サーバーのポート番号の範囲は、1025 ~ 65535 です。デフォルトは 2121 に設定されています。次のポート番号は使用できません:
8000/9988/15220/28123/28124 および SICP ネットワークポート(デフォルト 5000)。

最後に、システムを手動で再起動して FTP 設定を適用します。

Remote Control (リモコン)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> Server Settings(サーバー設定) -> Remote Control(リモコン)



「Enable(有効)」チェックボックスをクリックして、リモートコントロールクライアントサービスを有効または無効にします。デフォルト設定は「Enabled(有効)」です。リモートコントロール機能を使用するには、デバイスがリモートコントロールサーバーにバインドされている必要があります。

「Server(サーバー)」の入力フィールドに、プレフィックス「https://」を付けた URL アドレスを入力します。デバイスがリモートコントロールサーバーにバインドされていない場合は、サーバーから提供される PIN コードを入力してください。

バインド状態:

- (1).デバイスに適切なネットワーク接続がない場合、「Network is disconnected(ネットワークが切断されました)」というメッセージが表示されます。
- (2).ネットワーク機能を搭載している状態で、リモコンサーバーに接続されていない場合は、「Server is disconnected(サーバーが切断されました)」というメッセージが表示されます。
- (3).サーバーが接続されている状態で、バインドされていない場合、「Server is unbinded(サーバーはバインドされていません)」というメッセージが表示されます。
- (4).デバイスがサーバーに正常にバインドされると、「Server is binded(サーバーがバインドされました)」というメッセージが表示されます。
- (5).PIN コードが正しくない場合、「Error PIN code(PIN コードエラー)」というメッセージが表示されます。

SNMP

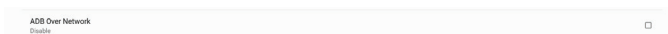
SNMP サービスを有効 / 無効にします。



SNMP ユーザーマニュアルを参照してください。

ADB over Network (ADB オーバーネットワーク)

ポート 5555 のネットワーク接続を介して ADB にアクセスできます。



6.1.3.3. Source Settings (ソース設定)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> Source Settings(ソース設定)

ソース APK の詳細オプションを構成できます。



Media Play (メディアプレーヤー)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「ソース設定」->「メディアプレーヤー」の順にアクセスします

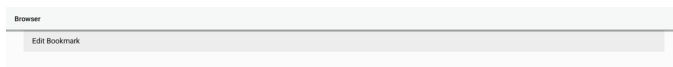
メディアプレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティを開き、効果設定アクティビティを編集します。



Browser (ブラウザ)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「ソース設定」->「ブラウザ」の順にアクセスします

ブラウザ APK のブックマーク編集アクティビティを開きます。



PDF Player (PDF プレーヤー)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> Source Settings(ソース設定) -> PDF Player(PDF プレーヤー)

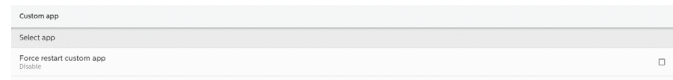
PDF プレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティを開き、効果設定アクティビティを編集します。



Custom app (カスタムアプリ)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> Source Settings(ソース設定) -> Custom app(カスタムアプリ)

カスタムソース APK を設定できます。カスタム入力ソースに切り替えると、選択された APK が起動します。カスタムソース APK が設定されていない場合、カスタム入力ソースに切り替えると、システムは黒い画面を表示します。



カスタムソース APK が設定されている場合、APK 名が表示されます。それ以外の場合は、カスタムアプリが設定されていないことを意味します。

Select APP (アプリの選択)

カスタムアプリソース用に特定のアプリを選択します。



注:

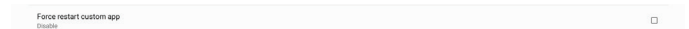
システムにプリインストール済みの APK はリストに表示されません。手動でインストールされた APK のみが一覧に表示されます。

- (1).FORGET(削除)ボタン
カスタムソースアプリケーションを消去します。カスタムソースアプリケーションが設定されていない場合は、グレー表示されます。
- (2).CANCEL(キャンセル)ボタン
変更を保存せずに終了します。
- (3).SAVE(保存)ボタン
「Save(保存)」ボタンをクリックして、カスタムソースアプリケーションとして APS を選択します。利用可能なアプリケーションが選択されていない場合、グレー表示されます。

Force Restart Custom APP (カスタムアプリの強制再起動)

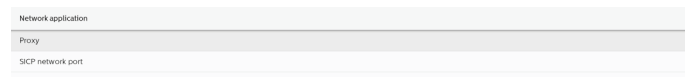
この機能を有効にすると、システムでカスタムアプリのステータスを監視できます。カスタムアプリが存在せず、ソースでの起動が「Custom app(カスタムアプリ)」に設定されている場合、システムはカスタムアプリの起動を再試行します。

デフォルト設定は無効です。



6.1.3.4. Network Application (ネットワークアプリケーション)

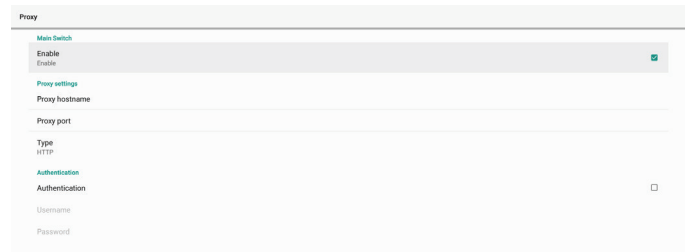
「設定」->「サイネージディスプレイ」->「ネットワークアプリケーション」の順にアクセスします



Proxy (プロキシ)

Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) -> Network Application(ネットワークアプリケーション) -> Proxy(プロキシ)

「Enable(有効)」チェックボックスをクリックして、プロキシサーバーを有効にします。ホスト IP およびプロキシサーバーのポート番号を設定できます。デフォルト設定は「Disable(無効)」です。



システムは次のプロキシタイプ: HTTP、HTTPS、SOCKS4、SOCKS5 をサポートします。プロキシサーバー用にいずれかを選択します。



プロキシサーバーから認証を要求された場合は、「Authorization(認証)」チェックボックスをクリックし、ユーザー名とパスワードを入力してください。



SICP Network Port (SICP ネットワークポート)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「ネットワークアプリケーション」->「SICP ネットワークポート」の順にアクセスします

SICP のデフォルトポートを設定し、ネットワーク SICP を有効 / 無効にします。デフォルト SICP は、ポート 5000 で有効になっています。

注:

ポート番号は、1025 ~ 65535 の範囲です。

次のポートはすでに使用されており、割り当ててはできません: 8000、9988、15220、28123、28124。デフォルトの FTP ポートは 2121 です。

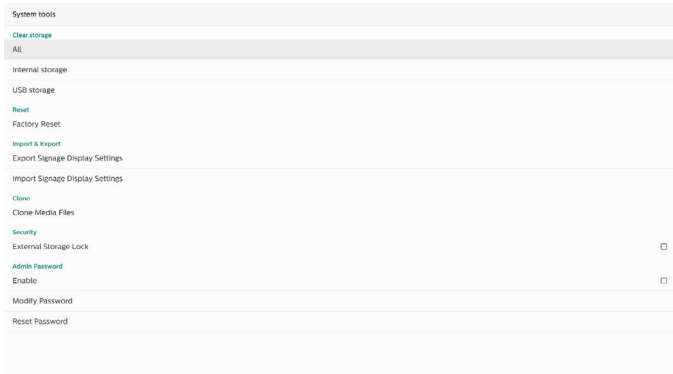


6.1.3.5. System Tools (システムツール)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「システムツール」の順にアクセスします

サイネージ表示のシステムツールには、次の 6 つの主要機能があります。

- (1). Clear Storage (ストレージの消去)
- (2). Reset (リセット)
- (3). Import & Export (インポートおよびエクスポート)
- (4). Clone (複製)
- (5). Security (セキュリティ)
- (6). Admin Password (管理者パスワード)



Clear Storage (ストレージの消去)

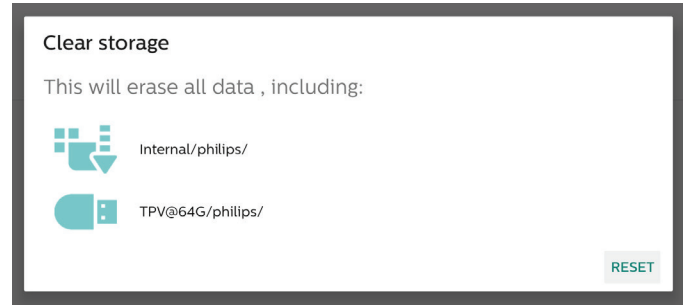
「設定」->「サイネージディスプレイ」->「システムツール」->「ストレージの消去」の順にアクセスします



内部ストレージと外部ストレージの {ストレージ}/philips/folder の下にあるデータを消去します。

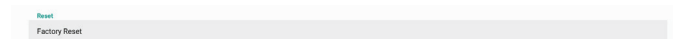
- (1). All (すべて)
内部ストレージと USB から「Philips」フォルダを消去します。
- (2). Internal Storage (内部ストレージ)
内部ストレージからのみ「Philips」フォルダを消去します。
- (3). USB Storage (USB ストレージ)
USB ストレージからのみ「Philips」フォルダを消去します。

ダイアログボックスには、システムがクリアしようとしているすべてのフォルダが一覧表示されます。「RESET (リセット)」を押して、一覧表示されたフォルダの下のすべてのデータを消去するか、戻るキーを押して保存せずに終了します。



Reset (リセット)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> System Tools (システムツール) -> Reset (リセット)



Factory Reset (工場出荷時の設定にリセット)

この機能を使用して、すべてのユーザーデータおよび設定を消去します。再起動後、システムは自動的に再起動し、OOBE にジャンプします。

重要な注意事項:

1. 内部ストレージに保存されているデータのみがクリアされ、復元することはできません。データには、デバイス設定、インストールされているアプリ、アプリのデータ、ダウンロードされたファイル、音楽、写真、および「/data」の下のすべてのデータが含まれます。ただし、USB に保存されているデータは消去されません。
2. 工場出荷時の設定にリセットしている間は、AC アダプタと電源が常に利用可能な状態を維持してください。画面に OOBE が表示された後でのみ電源を切ることができます。

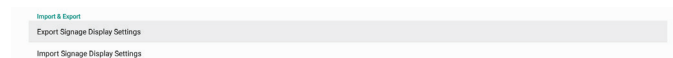


「Factory Reset (工場出荷時の設定にリセット)」をクリックして、出荷時設定へのリセットを実行します。ダイアログボックスが表示されたら、「OK」を押して確定します。このアクションは内部ストレージ内のすべてのデータを消去し、回復できないので注意が必要です。



Import & Export (インポートおよびエクスポート)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> System Tools (システムツール) -> Import & Export (インポートおよびエクスポート)



この機能を使用すると、設定とサードパーティの APK を他のデバイスにインポート / エクスポートできます。以下に注意してください:

- (1). データは {ストレージ}/philips/clone フォルダ内の BDL4650D-clone.zip ファイルにエクスポートされます。
- (2). 古いファイルの複製方法をサポートしており、ファイルは {ストレージ}/philips/sys_backup の下に格納されます:
AndroidPDMediaPlayerData.db
AndroidPDPdfData.db

menu_settings.db
 settings_global.xml
 settings_secure.xml
 settings_system.xml
 signage_settings.db
 最新のエクスポートデータは、すべてのファイルを ZIP ファイルにアーカイブされます。

- (3)。「Signage Display Name (サイネージディスプレイ名)」はインポート / エクスポートされません。

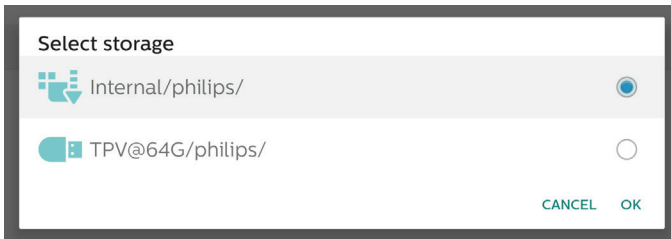
サイネージディスプレイ設定のエクスポート

システムは、データベースデータとサードパーティの APK を、選択したストレージ (内部ストレージ、USB ストレージ) の /philips/clone/BDL4650D-clone.zip ファイルにエクスポートします。

注:

選択したストレージ (内部ストレージ、USB 外部ストレージ) に Philips/ フォルダが含まれていない場合、システムはそれを自動的に作成します。

利用可能なすべてのストレージ (内部ストレージ、USB ストレージ) のリスト:

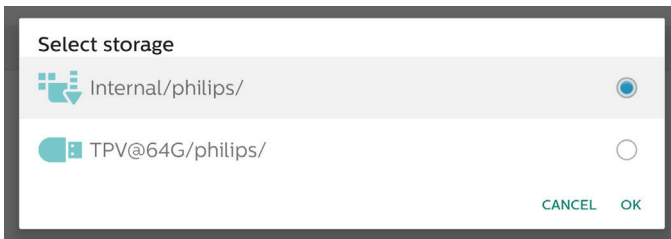


サイネージディスプレイ設定のインポート

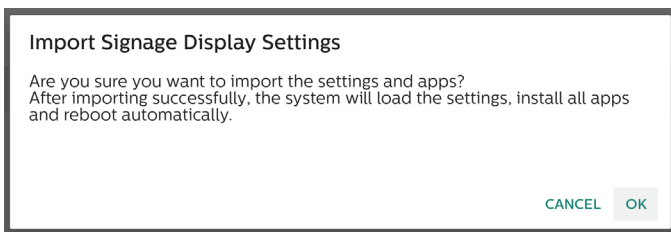
選択したストレージ (内部ストレージ、USB ストレージ) の philips/clone/BDL4650D-clone.zip ファイルからデータベースデータをインポートします。システムは次のデータを ZIP ファイルにインポートします。

- BDL4650D-clone.zip にデータベースをインポートする
- BDL4650D_clone.zip にサードパーティ APK をインポート

利用可能なすべてのストレージ (内部ストレージ、USB ストレージ) のリスト:



設定と APK をインポートする前に、確認ダイアログボックスが表示されます。「OK」ボタンをクリックして、データのインポートを開始します。



Clone (複製)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「システムツール」->「複製」の順にアクセスします



Clone Medis Files (メディアファイルの複製)

この機能を使用すると、選択したソースストレージからターゲットストレージにメディアファイルをコピーできます。

システム複製ファイルは、次のフォルダ内にあります。

philips/photo
 philips/music
 philips/video
 philips/pdf
 philips/browser

Security (セキュリティ)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> System Tools (システムツール) -> Security (セキュリティ)

External Storage Lock (外部ストレージロック)

チェックボックスをクリックして、外部ストレージ (USB ストレージ) をロックまたはロック解除します。デフォルトはロック解除です。

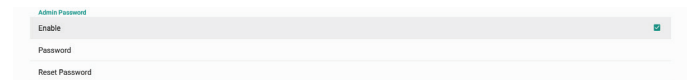


注:

有効状態の外部ストレージロックを無効にするときは、外部ストレージ (USB ストレージの場合) を取り外して、もう一度取り付けてください。その後、システムが外部ストレージをもう一度検出できるようになります。

Admin Password (管理者パスワード)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> System Tools (システムツール) -> Admin Password (管理者パスワード)



Enable (有効):

チェックボックスをクリックして、管理者パスワードを有効または無効にします。デフォルトは無効です。



有効になると、管理者モードにログインするためのパスワードが必要になります。デフォルトのパスワードは「1234」です。

Password (パスワード):

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> System tools (システムツール) -> Admin Password (管理者パスワード) -> Password (パスワード)

「Admin Mode (管理者モード)」にログインするためのパスワードが必要な場合、パスワードを変更できます。次のステップに従います:

- 最初に現在のパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは「1234」です。



現在のパスワードが正しくない場合、「パスワードが間違っています」という Android のトースト通知が表示されます。



- 新しいパスワードを入力します。



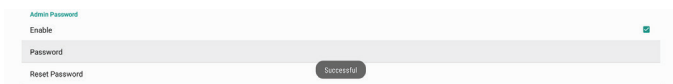
(3).新しいパスワードを再度入力します。



再度入力した新しいパスワードが新しいパスワードと一致しない場合、もう一度試す必要があります。



パスワードが正常に変更されると、「成功」という Android のトースト通知が表示されます。



Reset Password (パスワードのリセット):

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> System tools (システムツール) -> Admin Password (管理者パスワード) -> Reset Password (パスワードのリセット)。

パスワードをデフォルト値の「1234」にリセットします。リセットが成功すると、「Successful (成功)」というメッセージが表示されます。

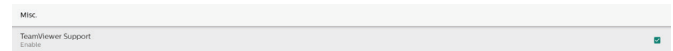


6.1.3.6. Misc (その他)

TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)

チェックボックスをクリックして、TeamViewer Support (TeamViewer への対応) を有効または無効にします。

TeamViewer は、管理モードを開くための仮想ホームキーを送信します。デフォルトは有効です。



TeamViewerHost および TeamViewerQSAddOn APK がシステムに自動的にインストールされます。または、「TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)」が無効になっている場合、システムはそれらを削除します。

「TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)」が有効になっている場合、次の 2 つの APK が Settings (設定) -> Apps (アプリ) に表示されます。



Enable logging (ロギングの有効化)

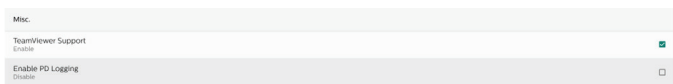
チェックボックスでロギングを有効または無効にします。

有効にすると、PD が Android の logcat ログとカーネルメッセージのログへの記録を開始して、USB ストレージまたは内部ストレージに自動保存します。USB ストレージが優先されます。PD に接続されている USB デバイスがない場合、すべてのデータは内部ストレージに保存されます。

保存されたパスは、(USB ストレージのルートディレクトリ) / philips / Log / xxBDL4650D-Log-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}

または

(内部ストレージのルートディレクトリ) / philips / Log / xxBDL4650D-Log (yyyy-MM-dd-HH-mm-ss) です。



ロギングを無効にすると、すべてのデータは、(USB ストレージのルートディレクトリ) / philips / Log / xxBDL4650D-LLog-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}.zip

または

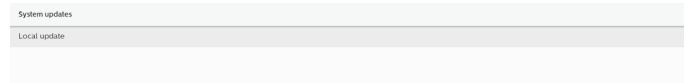
(内部ストレージのルートディレクトリ) / philips / Log / xxBDL4650D-LogLog-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}.zip などの ZIP ファイルに保存されます。

6.1.3.7. System updates システム更新

Local update (ローカル更新)

「設定」->「サイネージディスプレイ」->「システム更新」->「ローカル更新」の順にアクセスします

システムは、USB ディスクのルートフォルダ内の「update.zip」を自動検索します。外部ストレージで「update.zip」が見つかった場合、ユーザーが更新するファイルを選択するためのリストが表示されます。



リストからファイルを選択すると、システムは再起動と更新を開始します。

以下に注意してください:

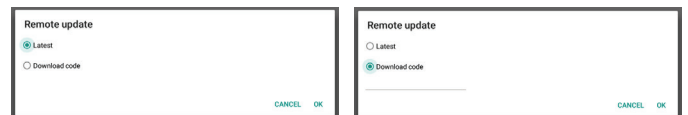
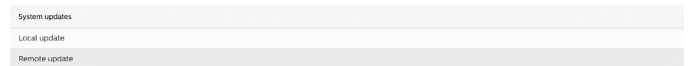
- (1).更新が完了するまで、電源をオフにしたり、電源アダプタを取り外したりしないでください。
- (2).システムは現在、Android のフル更新のみをサポートします。
- (3).アップデートファイルは、必ず、「update.zip」にしてください。
- (4).「update.zip」は、必ず、外部ストレージのルートフォルダに入れてください。

Remote update (リモート更新)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> System updates (システム更新) -> Remote update (リモート更新)

ネットワークに接続して利用可能な状態を維持してください。

「Latest (最新)」または「Download code (ダウンロードコード)」を選択して、リモート FW サーバーからルートフォルダに「update.zip」をダウンロードします。「Download code (ダウンロードコード)」を選択した場合は、リモート FW サーバーから取得した 10 桁のコードを入力する必要があります。



「OK」をクリックします。ネットワークの速度によっては、「update.zip」のダウンロードに 5 分ほどかかる場合があります。ダウンロードが成功すると、システムは自動的に「ローカル更新」プロセスに移行します。システムが再起動し、システムの更新が行われます。

以下に注意してください:

- (1).システム更新中は、システムの電源をオンの状態に維持し、電源アダプタを取り外さないでください。
- (2).システムは現在、Android のフル更新のみをサポートします。

6.1.3.8. Scaler FW updates (Scaler FW 更新)

Start update (更新の開始)

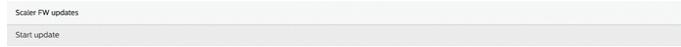
Settings (設定) -> Signage Display (サイネージディスプレイ) -> Scaler FW (Scaler FW 更新) -> Start update (更新の開始)

Scaler ファームウェア更新は、イーサネットポートの近くにある USB ポートのみでサポートされます。

システムは、USB ディスクのルートフォルダ内の「(パネルサイズ)_4650D_JP.bin」を自動検索します。

パネルサイズのファイル名の接頭辞は、プラットフォームのパネルサイズと一致していなければなりません。

たとえば、65BDL4650D プラットフォームの場合、「65_4650D_JP.bin」のみが許容されます。

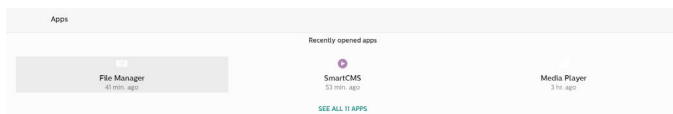


以下に注意してください:

Scaler FW 更新中は、システムの電源をオンの状態に維持し、電源アダプタを取り外さないでください。

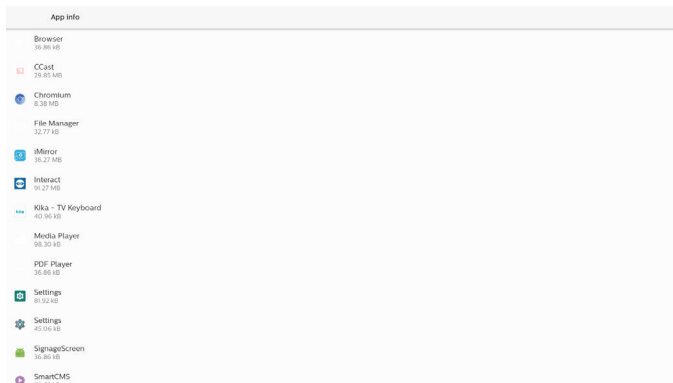
6.1.4. APPS(アプリ)

インストール済み APK の情報を表示します。



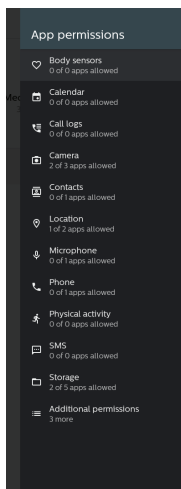
6.1.4.1. App info(アプリ情報)

インストールされているすべての Android アプリが一覧表示されます。ユーザーは、各アプリの権限やその他の設定を管理できます。



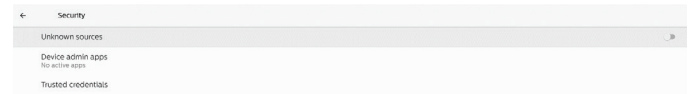
6.1.4.2. App permissions(アプリの権限)

Android システムとそれを制御する権限を持つアプリの主な権限のリスト。



6.1.5. Security (セキュリティ)

Settings(設定) -> Security(セキュリティ)



6.1.5.1. Unknown sources (不明なソース)

Android で不明なソースからアプリのインストールを許可します。

6.1.5.2. Device admin apps (デバイス管理アプリ)

管理者関連の操作と制御をサポートするアプリを一覧表示します。

6.1.5.3. Trusted credentials (信頼できる認証情報)

デバイスのすべての信頼できる認証情報を表示します。

6.1.6. Accessibility (アクセシビリティ)

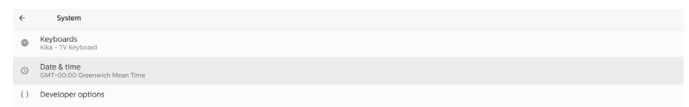
アクセシビリティサービスは、障害を持つユーザーや、特殊ニーズを抱えるユーザーが Android デバイスをもっと楽に操作できるよう支援するアプリです。

「Downloaded apps(ダウンロード済みアプリ)」メニューで、デバイスにインストールされているすべてのアクセシビリティアプリが表示されます。必要に応じて有効または無効にすることができます。また、リストでアクセシビリティアプリの名前をタップすると、各アプリの設定にアクセスできます。

6.1.7. System (システム)

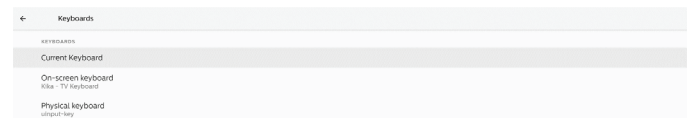
次のオプションが、Settings(設定) -> System(システム)に一覧表示されます。

- (1).Keyboards (キーボード)
- (2).Date & time (日付 / 時間)
- (3).Developer options (開発者オプション)



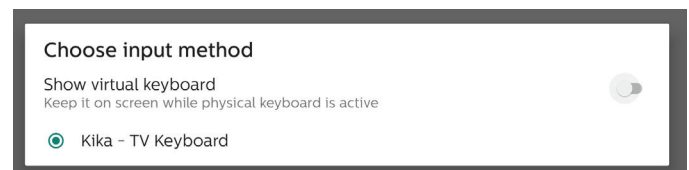
6.1.7.1.Keyboard(キーボード)

Settings(設定) -> System(システム) -> Keyboards (キーボード) ユーザーは IME とキーボードの設定を変更できます。



Current Keyboard(現在のキーボード)

Choose input method (入力方法を選択します。)



On-screen keyboard (オンスクリーンキーボード)

ユーザーはデフォルトのソフトウェア IME (仮想キーボード) を設定し、IME 設定を詳細に選ぶことができます。

OOBE で日本語を選択すると、日本語 IME が自動的にインストールされます。



physical keyboard (物理キーボード)

ユーザーが物理キーボードを操作し、詳細なキーボードオプションを設定できるようにします。

「TPV Vir-IR」はシステムレベルの仮想キーボードです。常にキーボードリストに存在します。



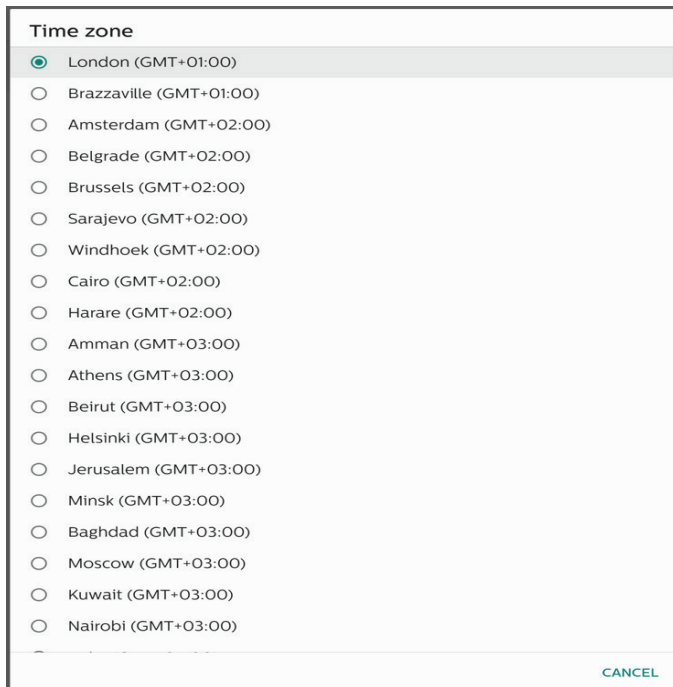
6.1.7.2. Dat & Time (日付と時刻)

Settings (設定) -> System (システム) -> Date & Time (日付と時刻) タイムゾーンと NTP サーバーを変更できます。



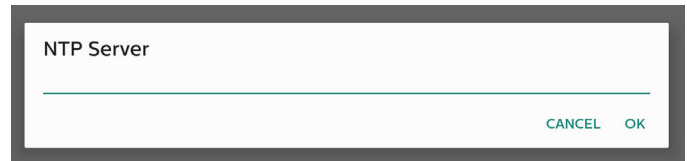
Time zone (タイムゾーン)

タイムゾーンを選択できます。



NTP Server (NTP サーバー)

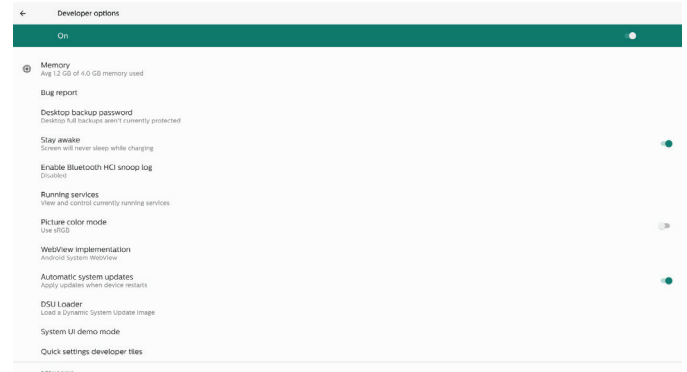
プロンプト上に表示されたダイアログで、NTP サーバーを編集できます。



Developer options (開発者オプション)

Settings (設定) -> System (システム) -> Developer options (デベロッパーオプション)

開発者向けの Android 開発者オプション。デフォルト設定は「オン」で、USB デバッグもデフォルトで「オン」となっています。

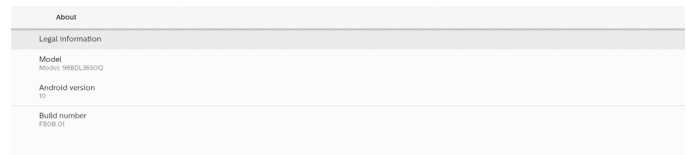


6.1.8. About (製品について)

Settings (設定) -> About (情報)

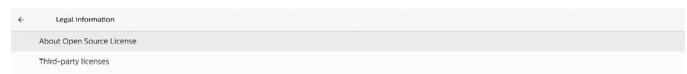
システムに関する次の情報を表示します。

- (1). Legal information (法的情報)
- (2). Model (モデル) (このデバイスのモデル名)
- (3). Android version (Android バージョン)
- (4). Build number (ビルド番号) (リリースバージョン)

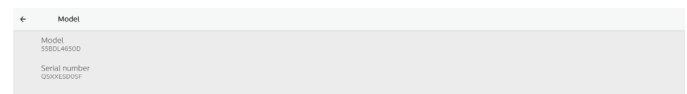


6.1.8.1. Legal Information (法的情報)

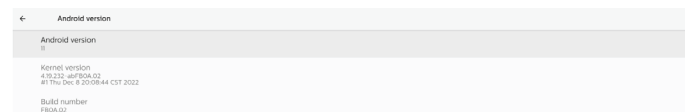
すべてのオープンソースプロジェクトの法的情報とライセンスが一覧表示されます。



6.1.8.2. Model (モデル)



6.1.8.3. Android version (Android バージョン)



6.2. Supplementary (補足)

6.2.1. Quick Info (クイック情報)

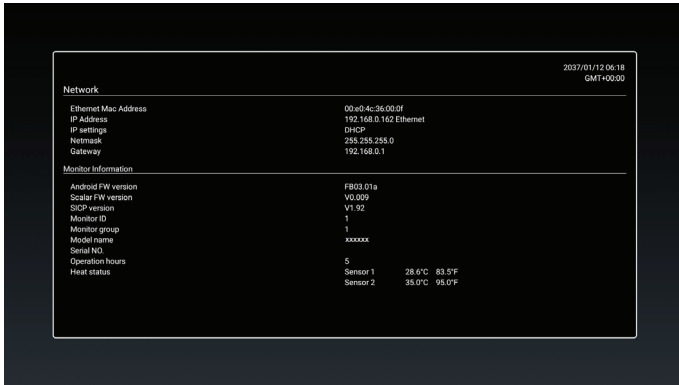
「Info + 77」を押すと、クイック情報が起動します。

クイック情報には、「Network (ネットワーク)」と「Monitor Information (モニター情報)」が表示されます。

注:

Operation hours (動作時間): 毎分更新されます。

Heat status (温度状態): 5 秒毎に更新されます。



6.2.2. Android ブートアニメーションをカスタマイズする方法

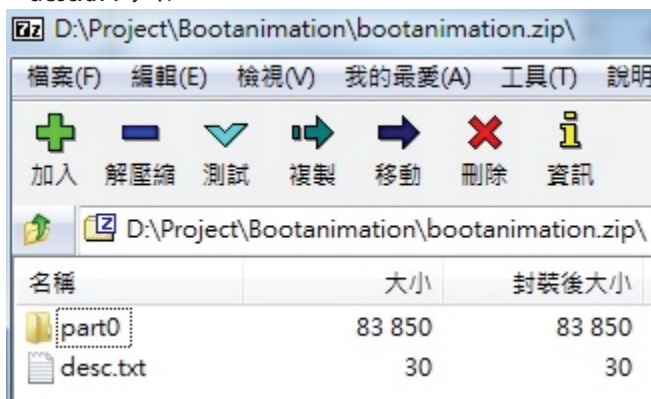
1. 概要

Android ブートアニメーションは、デバイスの起動時に PNG ファイルの読み込みに使用されるスクリプトです。「bootanimation.zip」という名前の展開された zip ファイルに含まれています。

2. bootanimation.zip ファイルの内訳

Bootanimation.zip ファイルには、次の内容が含まれています。

- イメージフォルダ (連番で名前を付けられた PNG イメージを含む)
- desc.tx ファイル



(1) イメージフォルダ

このフォルダには、数字で名前が付けられた PNG イメージが含まれています。0000.png または 0001.png から始まり、番号が 1 つずつ繰り上がります。フォルダの最小番号は「1」です。最大番号に上限はありません。

(2) desc.tx ファイル

このファイルは、ブートアニメーションの表示中に、次の形式でのフォルダ内のイメージの表示方法を定義します。

- 幅 高さ フレームレート
- モード ループ遅延時間 Folder1
- モード ループ遅延時間 Folder2

desc.tx ファイルの例:

- 1920 1080 30
- p 1 0 part0
- p 0 0 part1

a. 1 行目

「1920」と「1080」は、画面解像度の幅と高さを定義します。

「30」は、フレームレート (単位:fps) です。これは、1 秒あたりに表示される画像数です。

b. 2 行目と 3 行目は、同じ形式です。

最初の「p」は、起動プロセスが完了すると、再生モードが直ちに停止することを意味します。

「p」の隣の数字は、繰り返しモードを定義します。

- 「0」に設定すると、デバイスが起動するまで、この部分が無限ループします。
- 「1」に設定すると、この部分が一度再生されます。

次の数字は、遅延時間 (単位:ms、ミリ秒) を定義します。たとえば、「10」に設定すると、すべてのイメージファイルの再生が完了するまでの 10 ミリ秒間、システムが遅延されます。

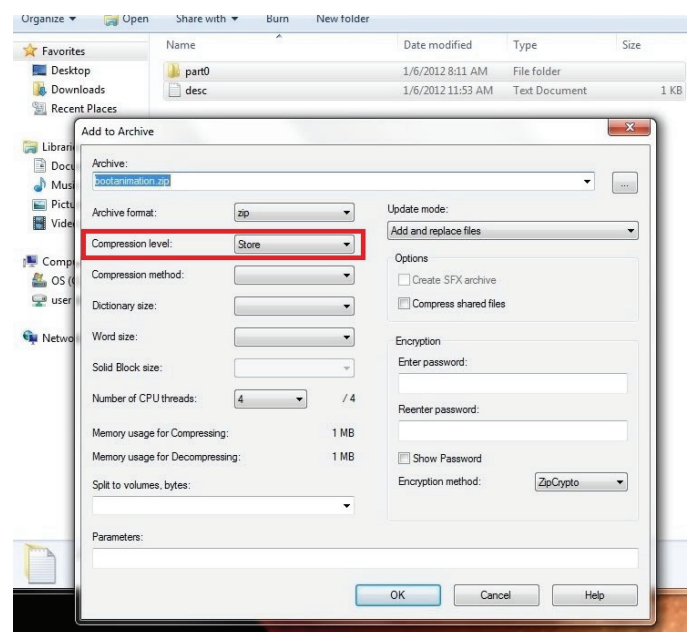
「Part0」と「Part1」は、イメージフォルダ名を指します。

上記の例のように、ブートアニメーションは、画素数 1920 x 1080 の解像度、フレームレート 30 fps で、「part0」フォルダのコンテンツから再生されます。1 つのループでコンテンツを再生した後、「part1」フォルダのコンテンツに切り替わり、デバイスが起動するまで継続的に再生されます。

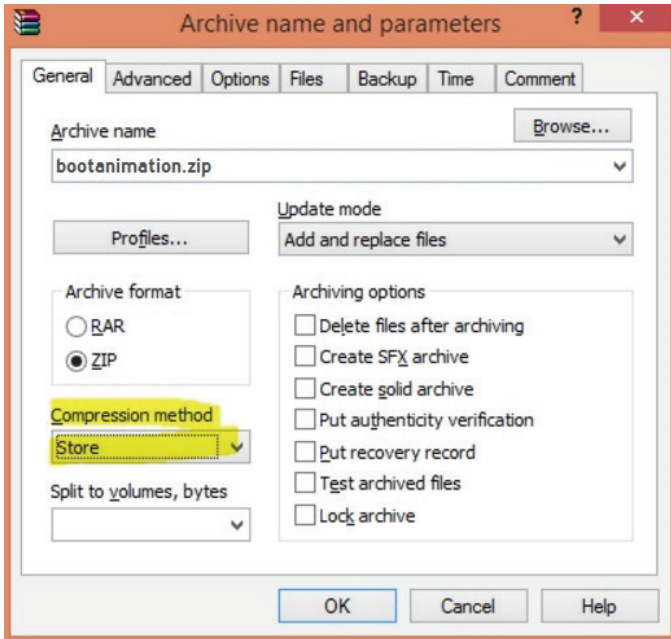
3. Zip ファイル:

「Bootanimation」フォルダ内のすべて (イメージフォルダと desc.txt を含む) を選択して、7zip や WinRAR などの圧縮ユーティリティを使用して圧縮し、展開された zip アーカイブに含めます。

7zip を使用する場合、圧縮レベルを「Store (保存)」に設定します。



WinRAR を使用する場合、「Compression method (圧縮レベル)」を「Store (保存)」に設定します。



これ以外に設定した場合、ブートアニメーションは動作しません。

4. カスタムのブートアニメーションの適用

手順:

- (1) カスタムのブートアニメーションの zip ファイルを外部の USB に配置し、ストレージデバイスを Phillips PD プラットフォームに接続します。
- (2) 「Logo(ロゴ)」オプションが有効になっていることを確認します。RCU でホームキーを押します。「OSD メニュー」>「Configuration 2(詳細設定 2)」>「Logo(ロゴ)」で、「オン」に設定します。
- (3) RCU で「ホーム +1888」組み合わせキーを押して「Admin mode(管理者モード)」に移動します。
Settings(設定) -> Signage Display(サイネージ表示) > General Settings(一般設定) -> Boot Logo(ブートロゴ)
- (4) システムは、外部 USB の bootanimation.zip を自動検索し、/data/local にコピーします。
- (5) ステップ 1 ~ 4 まで完了したら、システムを再起動します。起動時に、新しいカスタムのブートアニメーションが表示されるはずですが。

6.2.3. Android アプリをインストールする方法

Android アプリをインストールする方法は 3 つあります。

(a) 「Admin mode(管理者モード)」のファイルマネージャーを使用する

1. APK をインストール済みの場合
 - 1.1 APK を USB ディスクにコピーし、ストレージデバイスを Philips Android サイネージディスプレイに接続します。
 - 1.2 「Admin mode(管理者モード)」>「Apps(アプリ)」>「File Manager(ファイルマネージャー)」に移動します。
 - 1.3 ファイルマネージャーで、インストールする APK を検索します。選択した APK で、「OK」を押します。
2. Chromium ブラウザで APK をダウンロードし、ファイルマネージャーで < 内部ストレージのパス >/Download に移動します。
 - 2.1 次のステップは、上記と同じです。モデルごとに < 内部ストレージのパス > が異なる場合があります。

(b) Adb Shell を使用する

1. Adb を使用して、PC を Philips Android サイネージディスプレイに接続できることを確認します。

2. PC のフォルダ(例:C:\apkfolder)に APK を準備します。

3. コマンドラインツールで次の手順を実行します。

```
C:\apkfolder> adb install -r apk_name.apk
```

(c) カスタムインテントを使用する

1. Android アプリをダウンロードできる APK を開発すると、APK がカスタムインテントを発行できるようになります。

2. APK の名前とパスを保存しておく、システムがプログラムによるインストールをサポートできるようになります。

説明	目的	パラメーター	
ソフトウェア更新	php.intent.action.UPDATE_APK	filePath	ファイル名を含む絶対ファイルパスファイルのアクセス権が「664」以上であることを確認してください。
		keep	更新後のファイルの維持の有無を示します。デフォルト値は「False」です。
		packageName	更新後に自動起動の対象となるパッケージです。
		activityName	更新後に自動起動の対象となるアクティビティです。ただし、現在の上位アクティビティが activityName ではない場合、何も起こりません。
		isAllowDowngrade	"true": 対象となる APK のバージョンが、現在のバージョン以前であるかどうかに関係なく、APK を更新します。 false: ダウングレードの場合はインストールを中止します。

例えば、

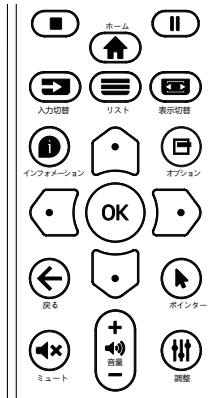
```
Intent intent = new Intent();
intent.setAction("php.intent.action.UPDATE_APK");
intent.putExtra("filePath", "/Download/sample.apk");
intent.putExtra("keep", true);
intent.putExtra("packageName", "com.tpv.example");
intent.putExtra("activityName", "com.tpv.example.MainActivity");
intent.putExtra("isAllowDowngrade", true); // allow downgrade
sendBroadcast(intent);
```

7. OSD メニュー

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 構造の全体図を以下に示します。この全体図は、ディスプレイをさらに調整する場合の参照として使用できます。

7.1. OSD メニューをナビゲートする

7.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする



1. リモコン上の [ホーム] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
2. [△] ボタンもしくは [▽] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [OK] または [D] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[△] または [▽] ボタンまたは項目を切り換えて、[△] ボタンまたは [▽] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[OK] または [D] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [←] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [ホーム] ボタンを押して OSD メニューを離れます。

注:

- OSD メニューが画面に表示されず、入力ソースが DisplayPort / VGA / DVI-I / HDMI1 / HDMI2 の場合、[△] を押して、(スマートピクチャー)のメニューを表示します。
- OSD メニューが画面に表示されず、入力ソースが DisplayPort / VGA / DVI-I / HDMI1 / HDMI2 の場合、[▽] を押して、(音声ソース)のメニューを表示します。

7.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする

1. [メニュー] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
2. [+] ボタンもしくは [-] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [+] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[▲] ボタンまたは [▼] ボタンまたは項目を切り換えて、[+] ボタンまたは [-] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[+] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [メニュー] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [メニュー] ボタンを押して OSD メニューを離れます。

7.2. OSD メニューの概要

7.2.1. 映像設定メニュー

映像設定	ブライトネス	75
画面設定	コントラスト	50
	シャープネス	50
音質設定	ブラックレベル	50
子画面設定	色あい	50
	色のこさ	50
詳細設定1	ノイズリダクション	低
詳細設定2	ガンマ	ネイティブ
	色温度	10000K
アドバンスドオプションメニュー	カラーコントロール	アクション

映像設定	スマートピクチャー	標準
画面設定	スマートパワー	オフ
	オーバースキャン	オフ
音質設定	映像リセット	アクション
子画面設定		
詳細設定1		
詳細設定2		
アドバンスドオプションメニュー		

ブライトネス

本ディスプレイのバックライトの明るさを調整します。

コントラスト

入力信号のコントラスト比を調整します。

シャープネス

シャープネスを調整して、画像のディテールを改善します。

ブラックレベル

ビデオのブラックレベルは、ビジュアル画像のもっとも暗い (黒い) 部分のブライトネスレベルとして定義されます。このディスプレイのブラックレベルを調整します。

色あい

画像の色合いを調整します。

[D] ボタンを押すと、緑がかかった色になります。[C] ボタンを押すと、紫がかかった色になります。

注: この項目は動画モード (YUV 色空間) に対してのみ適用されます。

色のこさ

画像の色の濃さを調整します。

注: この項目は動画モード (YUV 色空間) に対してのみ適用されます。

ノイズリダクション

映像ノイズを低減します。適切なノイズ除去レベルを選択できます。オプションは次の通りです：{オフ} / {低} / {中} / {高}。
注：この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

ガンマ

ガンマは画像の全体的なブライトネスを制御するものです。正しく補正されない画像は、白すぎまたは黒すぎとなります。したがって、ガンマを適切に制御することで、ディスプレイ全体の映像品質に大きな影響を与えることができます。

オプションは次の通りです：{ネイティブ} / {2.2} / {2.4} / {S gamma} / {D-image}。

色温度

画像の色温度を選択します。低い色温度は赤みを、高い色温度は青みを持ちます。

オプションは次の通りです：{3000K} / {4000K} / {5000K} / {6500K} / {7500K} / {9300K} / {10000K} / {ネイティブ} / {ユーザー 1} / {ユーザー 2}。

カラーコントロール

R (赤)、G (緑)、B (青) 設定を個別に変更することで、画像の色調を正確に調整することができます。

{映像設定} - {色温度} - {ユーザー} 設定が [ユーザー 1]

または、100K ごとの色調を 2000K ~ 10000K に調整することができます。

{映像設定} - {色温度} - {ユーザー} 設定が [ユーザー 2]

スマートピクチャー

次のスマートピクチャーモードを使用できます。

- PC モード：{標準} / {高輝度} / {sRGB}。
- ビデオモード：{標準} / {高輝度} / {シネマ}。

スマートパワー

消費電力を自動的に下げるようディスプレイを設定します。

オプションは次の通りです：{オフ} / {中} / {高}。

オーバースキャン

本製品の画像領域を変更します。

- {オン} - 画像を元の約 95% の大きさで表示します。画像を囲む残りの領域はカットされます。
- {オフ} - 元のサイズで画像を表示します。

映像リセット

映像設定メニューですべての設定をリセットします。

7.2.2. 画面設定メニュー



水平位置

画像を右に移動するには [D] b ボタンを、左に移動するには [C] ボタンを押します。

注：

- 水平位置調整は VGA 入力のみ適用されます。
- {ピクセルシフト} がアクティブになっているとき、水平位置は調整できません。

垂直位置

画像を上に移すには [D] ボタンを、下に移動するには [C] ボタンを押します。

注：

- 垂直位置調整は VGA 入力のみ適用されます。
- {ピクセルシフト} がアクティブになっているとき、垂直位置は調整できません。

クロック

画像の幅を調整します。

注：この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

クロック位相

焦点、画像の明瞭さ、および安定度を改善するよう調整します。

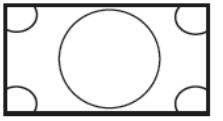
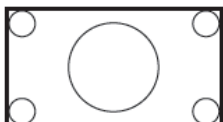
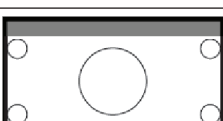
注：この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

ズームモード

受信する映像は、16:9 フォーマット (ワイド画面) または 4:3 フォーマット (従来の画面) で送信されます。16:9 画像では、画面の上下に黒い部分が現れることがあります (レターボックス形式)。{子画面設定} の {サブモード} がオンになっているとき、また {Tiling} が有効になっているときは、ズームモードは非アクティブになります。

こちらより選択します：{フル画面} / {4:3} / {1:1} / {16:9} / {21:9} / {カスタム}。

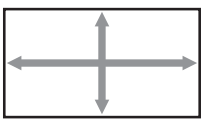
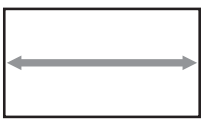
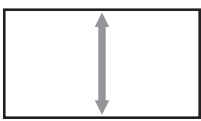


	<p>フル画面 このモードでは、全画面表示を使用して、16:9 で送信された映像を正しい映像比に戻します。</p>
	<p>4:3 この映像は 4:3 フォーマットで再現され、映像の両側には黒い部分が表示されます。</p>

	1:1 このモードでは、オリジナルの画像サイズを変えずに、画面に画素ごとの画像を表示します。
	16:9 画像は 16:9 フォーマットで再現され、上下に黒い部分が表示されます。
	21:9 画像は 21:9 フォーマットで再現され、上下に黒い部分が表示されます。
	カスタム 選択すると [カスタムズーム] サブメニューでカスタムズーム設定を適用します。

カスタムズーム

この機能は、表示したい画像に合わせるため、ズーム設定をカスタマイズします。

注: この項目は { ズームモード } が { カスタム } に設定されている時のみ機能します。

	ズーム 画像の縦と横のサイズを同時に拡大します。
	水平ズーム 画像の水平サイズのみを拡大します。
	垂直ズーム 画像の垂直サイズのみを拡大します。
	水平位置 画像の水平位置を左右に移動します。
	垂直位置 画像の垂直位置を上下に移動します。

オートアジャスト

「設定」を押して、水平位置、垂直位置、クロック、位相を自動的に調整します。

注: この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

画面リセット

画面設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.3. 音質設定メニュー

映像設定	バランス	_____	50
画面設定	高音	_____	60
音質設定	低音	_____	60
	音量	_____	50
子画面設定	音声出力(ライン出力)	_____	50
	最大音量	_____	100
詳細設定1	最小音量	_____	0
詳細設定2	消音	オフ	
	スピーカー	オン	
アドバンスドオプションメニュー	同期音量	オフ	

映像設定	オーディオソース	デジタル
画面設定	音質リセット	アクション
音質設定		
子画面設定		
詳細設定1		
詳細設定2		
アドバンスドオプションメニュー		

バランス

左右の音声出力のバランスの強弱を調整します。

高音

高音の増減を調整します。

低音

低音の増減を調整します。

音量

音量を調整します。

音声出力(ライン出力)

ライン出力レベルを上げたり下げたりします。

最大音量

最大音量を設定します。これにより、設定した音量で音量が止まります。

最小音量

最小音量を設定します。

消音

ミュート機能のオン/オフを切り替えます。

スピーカー

内蔵スピーカーをオン / オフにします。

注: この機能はと [同期音量] がオンの場合にのみ使用できます。

同期音量

音声出力（ライン出力）の音量調整機能を有効 / 無効にして、内部スピーカーと同期しますが、PD 内部スピーカーの音は強制的にミュートされます。

オーディオソース

オーディオ入力ソースを選択します。

アナログ:オーディオ入力からの音声

Displayport:DP からの音声。

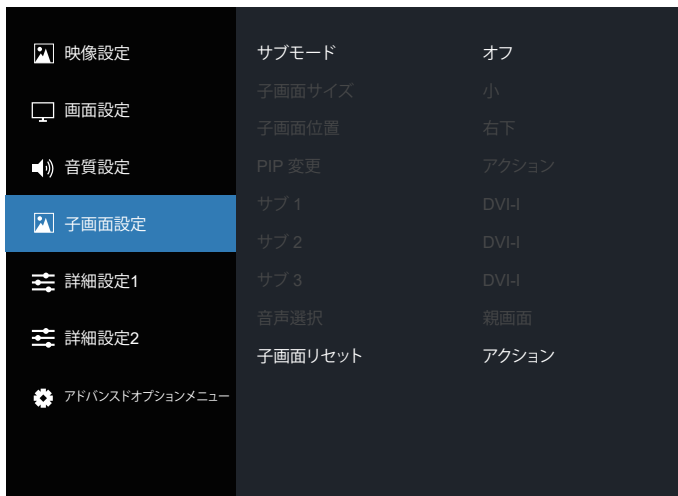
デジタル:HDMI/DVI オーディオからの音声

メディア:メディアプレーヤー / ブラウザ / PDF プレーヤー / カスタム / Interact の音声

音質リセット

オーディオメニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

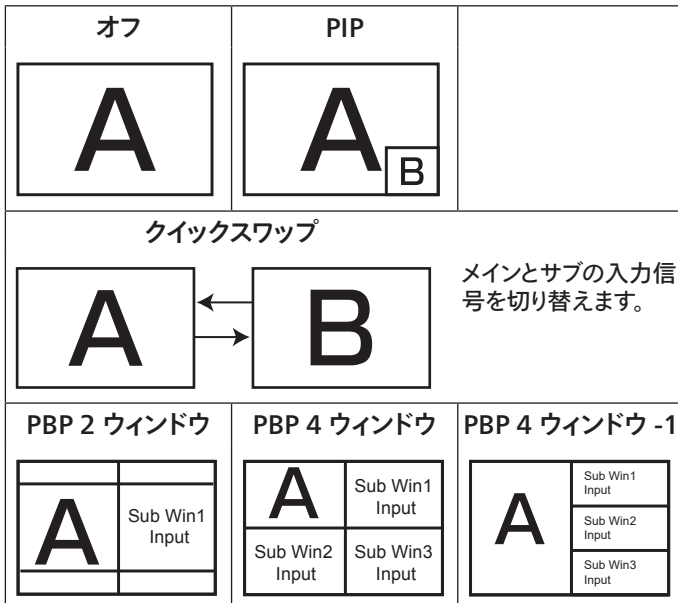
7.2.4. 子画面設定メニュー



サブモード

PIP(子画面設定)モードを選択します。

オプションは次の通りです{オフ} / {PIP} / {クイックスワップ} / {PBP 2 ウィンドウ} / {PBP 4 ウィンドウ} / {PBP 4 ウィンドウ -1}。



子画面サイズ

PIP(子画面設定)モードでサブピクチャーのサイズを選択します。

オプションは次の通りです:{小} / {中} / {大}。

子画面位置

PIP(子画面設定)モードでサブピクチャーの位置を選択します。

オプションは次の通りです{右上} / {左上} / {右下} / {左下} / {中央}。

PIP 変更

PIP / クイックスワップモードのメインとサブの入力信号を切り替えます。

サブ 1

サブ Win1 ピクチャーの入力信号を選択します。

こちらより選択します:{Displayport} / {DVI-I} / {VGA} / {HDMI1} / {HDMI2} / {メディアプレーヤー} / {ブラウザ} / {PDF プレーヤー} / {カスタム} / {Interact}。

サブ 2

サブ Win2 ピクチャーの入力信号を選択します。

こちらより選択します:{Displayport} / {DVI-I} / {VGA} / {HDMI1} / {HDMI2} / {メディアプレーヤー} / {ブラウザ} / {PDF プレーヤー} / {カスタム} / {Interact}。

サブ 3

サブ Win3 ピクチャーの入力信号を選択します。

こちらより選択します:{Displayport} / {DVI-I} / {VGA} / {HDMI1} / {HDMI2} / {メディアプレーヤー} / {ブラウザ} / {PDF プレーヤー} / {カスタム} / {Interact}。

音声選択

PIP(子画面設定)モードの音声ソースを選択します。

- {親画面} - メインピクチャーから音声を選択します。
- {サブ 1} - サブピクチャーから音声を選択します。
- {サブ 2} - サブピクチャーから音声を選択します。
- {サブ 3} - サブピクチャーから音声を選択します。

子画面リセット

子画面設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

注:

- PIP 機能は、次の条件でのみ使用できます。{アドバンスドオプションメニュー} - {Tiling} - {有効} 設定を [いいえ] に設定する。
- PIP 機能は、以下の表のように特定の信号ソースの組み合わせでのみ使用できます。

サブモード \ メイン入力	DP	VGA	DVI-I	HDMI1	HDMI2	メディアプレーヤー	ブラウザ	PDF プレーヤー	カスタム	Interact
DP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VGA	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DVI-I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
HDMI1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
HDMI2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアプレーヤー	○	○	○	○	○	○	X	X	X	X
ブラウザ	○	○	○	○	○	X	○	X	X	X
PDF プレーヤー	○	○	○	○	○	X	X	○	X	X
カスタム	○	○	○	○	○	X	X	X	○	X
Interact	○	○	○	○	○	X	X	X	X	○

(○:PIP 機能を使用可能、X:PIP 機能を使用不可)

- PIP 機能の可用性は、使用される入力信号の解像度によっても変わります。

7.2.5. 詳細設定 1 メニュー

映像設定	スイッチオン状態	最後のステータス
画面設定	Panel saving	アクション
音質設定	RS232/ルーティング	RS232
子画面設定	ソース起動	アクション
詳細設定 1	WOL	オフ
詳細設定 2	ライトセンサー	オフ
アドバンスドオプションメニュー	人感センサー	オフ
	電源LED照明	オン
	信号のない画面	ブラック
	詳細設定リセット	アクション

映像設定	オールリセット	アクション
画面設定		
音質設定		
子画面設定		
詳細設定 1		
詳細設定 2		
アドバンスドオプションメニュー		

スイッチオン状態

次回電源コードを接続するときに適用されるディスプレイの状態を選択します。

- { 電源オフ } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオフのままになります。
- { 強制オン } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオンのままになります。
- { 最後のステータス } - 電源コードを外して再び取り付けると、ディスプレイは前の電源ステータス (オン / オフ / スタンバイ) に戻ります。

Panel saving

パネルの焼き付きやゴーストの発生を抑えるために、Panel saving を有効または無効にします。

- { ブライツネス } - { オン } を選択すると、画像の輝度が適切なレベルに減少されます。選択されているとき、映像設定メニューのブライツネス設定は使用できなくなります。
- { ピクセルシフト } - 画像のサイズを変更したり、上下左右に画像をずらすための時間間隔を設定します。{ 自動 } / { 10 ~ 900 } 秒 / { オフ } ピクセルシフトをアクティブにすると、画面設定メニューの水平位置、垂直位置、ズームモードが無効になります。

RS232 ルーティング

ネットワーク制御ポートを選択します。

オプションは次の通りです: { RS232 } / { LAN ->RS232 }。

ソース起動

起動時のソースを選択します。

- 入力: 起動時に入力ソースを選択します。
- プレイリスト: メディアプレーヤー、ブラウザー、PDF リーダーに対する再生一覧のインデックスを選択します。
- 0: 再生一覧がありません。OSD からの切り替えソースと同じ。
- 1 ~ 7: 再生一覧の番号。
- USB 自動再生: メディアプレーヤーの自動再生オプション。

WoL

ウェイクオン LAN 機能のオンまたはオフへの切り替えを選択します。

こちらより選択します: { オフ } / { オン }

ライトセンサー (Philips アクセサリー CRD41 外部センサーボックスが必要です)

環境の明るさに応じて、バックライト調整のオンまたはオフへの切り替えを選択します。

こちらより選択します: { オフ } / { オン }

人感センサー (Philips アクセサリー CRD41 外部センサーボックスが必要です)

人感センサーは、人がディスプレイに近づいているかどうかを検出することができます。

設定された時間内に何も検出されない場合、ディスプレイはバックライトをオフに切り替えます。

人がディスプレイに近づいてくると、ディスプレイはバックライトをオンに切り替えます。

オプションは次の通りです: { オフ } (デフォルト)、{ 10 Min. }、{ 20 Min. }、{ 30 Min. }、{ 40 Min. }、{ 50 Min. }、{ 60 Min. }

電源 LED 照明

電源表示 LED のオンまたはオフの設定を選択します。

通常使用の場合は、{ オン } を選択してください。

信号のない画面

「信号がありません」の背景色を変更します。

オプションは次の通りです。

- { ブラック } - 背景が黒色になります。「信号がありません」OSD も表示されます。
- { ブルー } - 背景が青色になります。「信号がありません」OSD も表示されます。
- { オフ } - 背景が黒色になります。「信号がありません」OSD は表示されません。

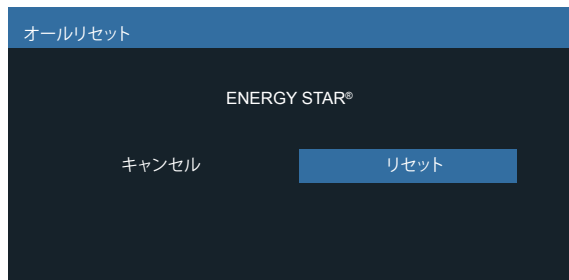
詳細設定リセット

詳細設定 1 メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

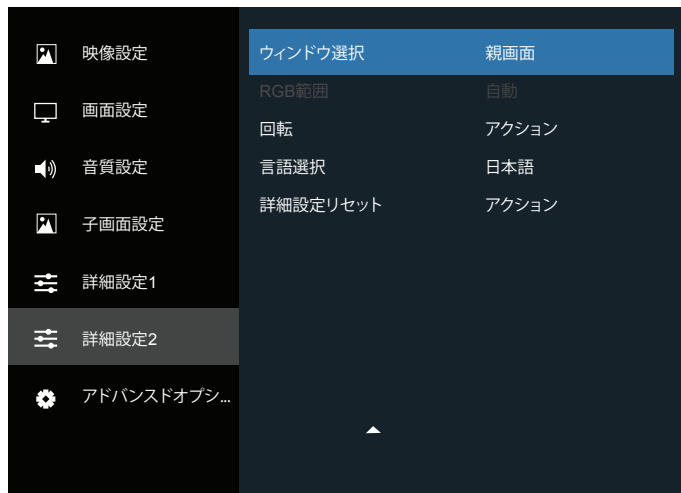
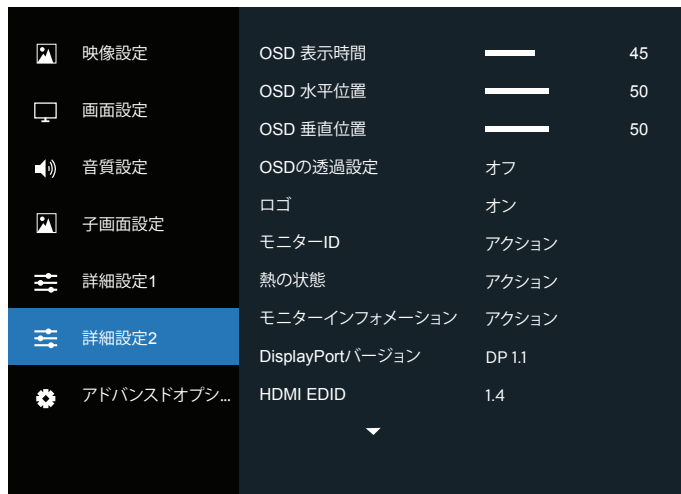
オールリセット

OSD メニューの中のすべての設定、{ 映像設定 }、{ 画面設定 }、{ 音質設定 }、{ 子画面設定 }、{ 詳細設定 1 }、{ 詳細設定 2 }、{ アドバンスドオプション } を工場出荷時の値にリセットします。

[⏪] または [⏩] ボタンを押して { リセット } を選択し、[OK] を押しリセットします。



7.2.6. 詳細設定 2 メニュー



OSD 表示時間

OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューが画面に表示される時間を設定します。

オプションは次の通りです: {0 ~ 120} 秒。

OSD 水平位置

OSD メニュー水平位置を調整します。

OSD 垂直位置

OSD メニュー垂直位置を調整します。

OSD の透過設定

OSD の透過設定を調整します。

- { オフ } - 透過設定はオフです。
- 20/40/60/80/100。

ロゴ

ディスプレイをオンに切り替えるときのロゴの画像の有効または無効を選択します。

オプションは次の通りです:

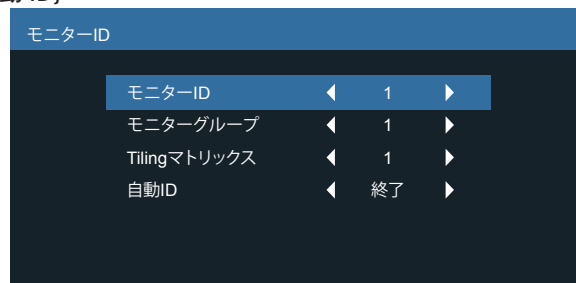
- { オフ }
- { オン }
- { ユーザー }

注: { ユーザー } に設定すると、回転機能はユーザーロゴに使用できません。

モニター ID

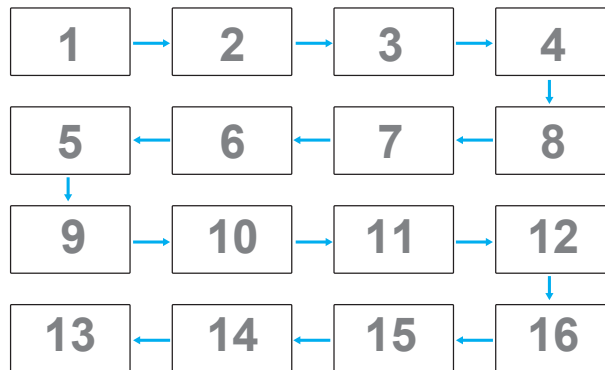
RS232C 接続経由で本製品を制御するための ID 番号を設定します。本製品を複数台接続する場合には、各ディスプレイに一意的 ID を割り当てる必要があります。モニター ID の番号範囲は 1 ~ 255 の間です。

オプションは次の通りです: { モニターグループ } / { Tiling マトリックス } / { 自動 ID }



- { モニターグループ }
オプションは次の通りです: {1-255}。デフォルト設定は 1 です。
- { Tiling マトリックス }
Tiling マトリックスの番号範囲は 1 ~ 15 の間です。「1」がデフォルト設定です。{ 自動 ID } 設定機能では、{ Tiling マトリックス } 設定に従って接続されたマシンの { モニター ID } を設定することができません。

例: Tiling マトリックスは「4」まで設定されます。



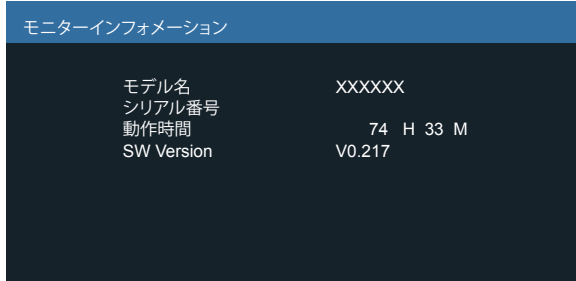
- { 自動 ID }
オプションは次の通りです: { 開始 } / { 終了 }。デフォルト設定は { 終了 } です。
 - { 開始 } オプションに切り替えると、マシンの ID は現在の ID から前に戻って設定されます。
 - 設定が完了すると、「終了」オプションは自動的に終了します。
 - この機能を使用するには、すべてのマシンを RS-232 ケーブルでシリアル接続し、その制御ポートを RS-232 に設定します。

熱の状態

この機能により、いつでもディスプレイの温度状態を確認できます。

モニターインフォメーション

モデル番号、シリアル番号、動作時間、ソフトウェアバージョンを含め、ディスプレイに関する情報を表示します。



DisplayPort バージョン

オプションは次の通りです:{DP 1.1} / {DP 1.2}。デフォルト設定は {DP1.1} です。

HDMI edid

オプションは次の通りです。{HDMI 1.4}/HDMI 2.0}。デフォルト設定は {HDMI 1.4} です。

注:[HDMI 2.0] オプションは、HDMI 2.0 機器をサポートするためのものです。

ウィンドウ選択

設定調整用のウィンドウを選択します。選択しウィンドウは、緑色の枠で強調表示されます。

オプションは次の通りです:{ 親画面 }(デフォルト)、{ サブ 1}、{ サブ 2}、{ サブ 3}。

RGB 範囲

オプションは次の通りです:{ 自動 } / { フル(PC) } / { 限定 (Video) }。デフォルト設定は { 自動 } です。

回転

メイン / サブ / OSD の回転を設定します

- 自動回転: オフ / オン。デフォルト: オフ
自動回転: { オフ }、{ オン } 値がオンであるとき、PD の回転を自動的に検出します。オフは OSD により設定されます。
- OSD ロテーション: Landscape(横長) / Portrait(縦長)。デフォルト: 横長
OSD ロテーション: { オフ }、{ オン } 値がオンのとき、OSD は 270° 回転します。オフのときは元に戻ります。
- 画像回転: オフ / オン。デフォルト: オフ
画像回転: { オフ }、{ オン } 値がオンのとき、すべてのウィンドウ画面は対応する入力ソースとともに 270° 回転します。オフのときは元に戻ります。

対応する入力ソース: メディアプレーヤー / ブラウザ / PDF リーダー / カスタム / Interact

注: PIP/PBP モードのメイン / サブ 1(2/3) が対応する入力ソースの 1 つである場合、回転では最後の設定が優先されます。

言語選択

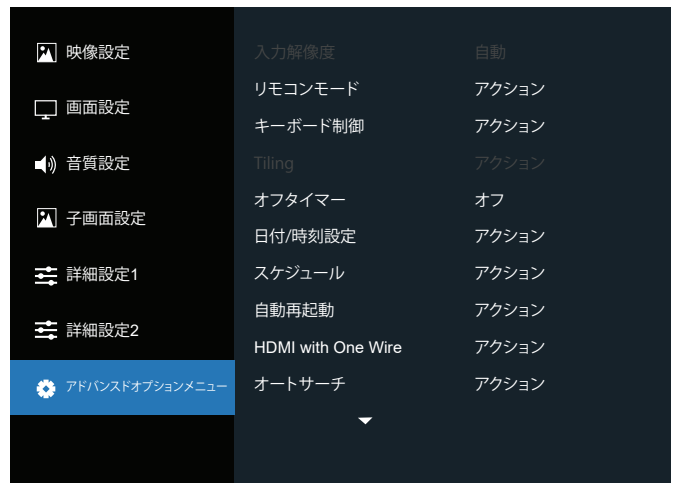
OSD メニューで使用する言語を選択します。

オプションは次の通りです: English / Français / Deutsch / Español / Italiano / 简体中文 / 繁體中文 / Português / 日本語 / Polski / Türkçe / P y c c k и й / ٻولي عربي / Danish / Svenska / Suomi / Norsk / Nederlands / Čeština / Eesti / Latviešu / Lietuvių。

詳細設定リセット

詳細設定 2 メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.7. アドバンスドオプションメニュー



入力解像度

VGA 入力の解像度を設定します。これは、本製品が VGA 入力解像度を正しく検出できない場合にのみ必要です。

注: この項目は、VGA 入力にのみ適用されます。

オプションは次の通りです:

- {1024x768 / 1280x768 / 1360x768 / 1366x768}
- {1400x1050 / 1680x1050}
- {1600x1200 / 1920x1200}
- { 自動 }: 解像度を自動的に決定します。

選択された設定は、電源を入れ直した後に有効となります。

リモコンモード

複数のディスプレイが RS232C 接続を通して接続されている場合、リモコンの動作モードを選択します。

- { ノーマル } - すべてのディスプレイは、リモコンで正常に動作させることができます。
- { Primary } - このディスプレイを、リモコン操作の 1 次ディスプレイとして指定します。リモコンでは、このディスプレイのみを操作できます。
- { Secondary } - このディスプレイを 2 次ディスプレイとして指定します。このディスプレイはリモコンでは操作できず、RS232C 接続を通して 1 次ディスプレイからの制御信号のみを受信します。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - このディスプレイのリモコン機能をロックします。ロック解除するには、リモコンの [●] INFO ボタンを 5 秒間長押しします。

注:

- プライマリ / セカンダリ OSD を表示するための [●] ホットキー。
- DisplayPort / VGA / DVI-I / HDMI1 / HDMI2 の場合や、OSD ディスプレイが表示されない場合、[□] または [⊞] ボタンを押して、プライマリ / セカンダリ OSD を表示します。
- プライマリ OSD では、[□] または [⊞] ボタンを押して {Control Monitor-ID (コントロール用のモニター ID)} を調整し、[⊞] または [□] ボタンを押して {Control Group ID (コントロール用のグループ ID)} の値を調整します。

キーボード制御

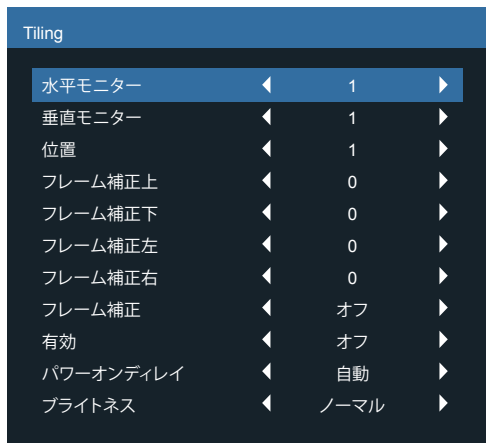
このボタンを選択すると、キーボード (コントロールボタン) 機能が有効または無効になります。

- { ロック解除 } - キーボード機能を有効にします。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - キーボード機能を無効にします。

注:キーボード制御ロックの有効 / 無効を切り替えるには、[+] ボタンと [⏏] ボタンを同時に 3 秒以上押し続けます。

Tiling

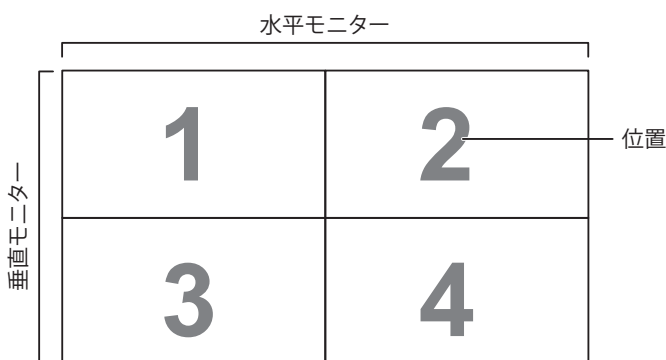
この機能を使うと、最大 225 台のディスプレイ (縦に最大 15 台、横に最大 15 台) からなるひとつの大型スクリーン配列 (ビデオウォール) で作成することができます。



例: 2 x 2 の画面マトリックス (ディスプレイ 4 台)

水平モニター = ディスプレイ 2 台

垂直モニター = ディスプレイ 2 台



例: 5 x 5 の画面マトリックス (ディスプレイ 25 台)

水平モニター = ディスプレイ 5 台

垂直モニター = ディスプレイ 5 台



- { 水平モニター } - 水平側のディスプレイ数を選択します。
- { 垂直モニター } - 垂直側のディスプレイ数を選択します。
- { 位置 } - 画面マトリックス内の本製品の位置を選択します。
- { フレーム補正上 } - 上部フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレーム補正下 } - 下部フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレーム補正左 } - 左フレーム補正の画素数を設定します。
- { フレーム補正右 } - 右フレーム補正の画素数を設定します。

- { フレーム補正 } - フレーム補正機能をオンまたはオフにするかを選択します。{ はい } を選択すると、本製品は画像を正確に表示するために、画像を調整して、本製品のベゼル幅を補正します。
- { 有効 } - Tiling 機能の有効 / 無効を選択します。有効にすると、本製品は { 水平モニター }、{ 垂直モニター }、{ 位置 }、{ フレーム補正 } の設定を適用します。
- { パワーオンディレイ } - パワーオンディスプレイ時間 (秒) を設定します。複数台のディスプレイが接続されている場合、デフォルトのオプション { 自動 } を使って、ID 番号に従って各ディスプレイを順番にパワーオンすることができます。オプションは次の通りです: { オフ / 自動 / 2 ~ 255 }。
- ブライトネス: { ノーマル } / { ACS }

{ ノーマル }: OSD ブライトネス値 (バックライト) を調整します。

{ ACS }: MIC ツールにより調整されるブライトネス値 (バックライト) を適用します。調整前のデフォルト値は、OSD ブライトネス値と同じです (例: 70)。

一部のブライトネス (バックライト) 設定は、OSD により調整することができません。映像設定メニューのバックライト設定の優先順位を参照してください。

オフタイマー

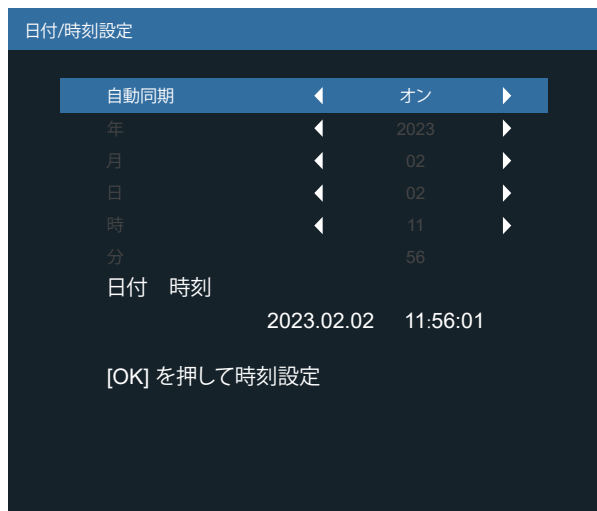
指定時間内にディスプレイがオフになりスタンバイモードになるよう設定します。

オプションは次の通りです: 現在の時刻から { オフ、1 ~ 24 } 時間。

注: 「オフタイマー」がアクティブになっているとき、「スケジュール」設定は無効になります。

日付 / 時刻設定

本製品の内部時計の日時設定を調整します。



1. [OK] ボタンを押して、日時を入力するか、選択します。
2. [←] 戻るボタンを押して戻ります。
3. [⏏] または [⏏] ボタンを押して設定を調整します。
* 2037 年以降の日付に時刻を設定できません。

スケジュール

この機能により、最大 7 つの異なるスケジュールされた時間間隔で本製品をアクティブにするプログラムができるようになります。

以下の選択が可能です:

- 本製品を電源オン、電源オフにする時間。
- 本製品をアクティブにする曜日。
- スケジュールされた各稼働期間で、本製品がどの入力ソースを使用するか。

注:この機能を使用する前に、{日付 / 時刻設定}メニューで現在の日付と時刻を設定することをおすすめします。

1. [OK] または [D] ボタンを押して、サブメニューに入ります。



2. [△] または [▽] ボタンを押してスケジュール項目 (1-7 の項目番号) を選択し、次に [OK] ボタンを押して、項目番号をマークします。



3. [□] または [◇] ボタンを押してスケジュールを選択します。

- ① 電源オンスケジュール: [△] または [▽] ボタンを押して調整すると、指定時刻にディスプレイの電源がオンになります。
 - ② 電源オフスケジュール: [□] または [◇] ボタンを押して調整すると、指定時刻にディスプレイがオフになります。
- 電源オンまたは電源オフのスケジュール機能を使用しない場合は、時間と分のオプションを空のままにします。
- ③ 入力ソースの選択: [△] または [▽] ボタンを押して入力ソースを選択します。入力ソースが選択されない場合、入力ソースは前回選択されたものと同じになります。
 - ④ 日付スケジュール: [◇] ボタンを押して、このスケジュール項目が何曜日に有効になるか選択し、次に [OK] ボタンを押します。
 - ⑤ 入力ソースとして「メディアプレーヤー」、「ブラウザ」または「PDF プレーヤー」が選択されている場合、プレイリスト設定にアクセスできます。

4. さらにスケジュール設定を行うには、[←] を押して、上記のステップを繰り返します。スケジュール項目の番号の横にあるボックスの中のチェックマークは、選択されたスケジュールが有効であることを示しています。

注:

- スケジュールが重なった場合、スケジュールされた電源 ON 時間がスケジュールされた電源 OFF 時間よりも優先されます。
- 同じ時間に 2 つのスケジュール項目がプログラムされている場合、番号の高いスケジュールが優先されます。例えば、項目 1 と項目 2 の両方が、本製品を朝 7 時に電源オン、夕方 5 時に電源オフする設定されている場合、スケジュール項目 2 のみが有効となります。

自動再起動

Android を毎日再起動する指定時刻を定義します。

- {自動再起動}- オプションは次の通りです。[オフ] / [オン]、{オフ}: 自動再起動は無効です。{オン}: 自動再起動は有効です。
- {時}- Android を再起動する時間(時)を選択します。
- {分}- Android を再起動する時間(分)を選択します。

HDMI with One Wire

{HDMI With One Wire 電源オフ}- 「プレーヤー」->「PD」(システムスタンバイ)の CEC 電源オフ制御

オプションは次の通りです。[オフ] / [オン]、

- {オフ}: 無効です。
- {オン}: 有効です。

注:

システムスタンバイを使用すると、ユーザーは 1 つのボタンを押すだけで複数のデバイスをスタンバイモードに切り替えることができます(「プレーヤー」->「PD」)。

- {HDMI with One Wire} がオンの場合に使用できます。

オートサーチ

この機能により、システムは利用可能な信号源を自動的に検出して表示することができます。

- {オフ}- 信号が接続されると、手動での選択のみとなります。

選択した入力からの信号がある場合は、システムが各オプションの検索順序に従って自動的に画像を表示するように設定します。

オプションは次の通りです: {すべて} / {フェールオーバー}

- {すべて}- [DP] -> [DVI-I] -> [VGA] -> [HDMI1] -> [HDMI2] -> [メディアプレーヤー] -> [ブラウザ] -> [PDF リーダー] -> [カスタム] -> [Interact]。
- {フェールオーバー}- 信号が接続されると、手動での選択のみとなります。
 - フェールオーバー 1 ~ 10: ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI。

パワーセーブ

パワーセーブモード

モード 1: [TCP オフ、WOL オン、自動オフ]

[DC オフ] -> [電源オフ]、[Android(ARM)オフ]、LED: 赤。
[パワーセーブ] -> [電源オフ]、[Android(ARM)オフ]、LED: 赤

モード 2: [TCP オフ、WOL オン、自動オン / オフ]

[DC オフ] -> [電源オフ]、[Android(ARM)オフ]、LED: 赤。
[パワーセーブ] -> [パワーセーブ]、[Android(ARM)オフ]、LED: オレンジ。ウェイクアップすることができます。

モード 3: [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフ]

[DC オフ] -> [バックライトオフ]、[Android(ARM)オン]、LED: 赤
[パワーセーブ] -> [バックライトオフ]、[Android(ARM)オン]、LED: オレンジ。ウェイクアップすることができます。

モード 4:[TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフなし]

[DC オフ] -> [バックライトオフ]、[Android (ARM) オン]、
LED:赤

[パワーセーブ] -> パワーセーブモードに入りません、「信号なし」
のみが表示されます。

モード 1 (デフォルト)	モード 2
DC オフ:	DC オフ:
電源オフ	電源オフ
Android (ARM) オフ	Android (ARM) オフ
パワーセーブ:	パワーセーブ:
電源オフ	省電力
Android (ARM) オフ	Android (ARM) オフ
モード 3	モード 4
DC オフ:	DC オフ:
バックライトオフのみ	バックライトオフのみ
Android (ARM) オン	Android (ARM) オン
パワーセーブ:	パワーセーブ:
バックライトオフのみ	信号なし (バックライトオン)
Android (ARM) オン	Android (ARM) オン

DC オフ / オン: RC により電源ボタンを押します

スカラー FW 更新

USB 経由で Scaler FW を更新します。

注: USB 2.0 フラッシュディスクのみがサポートされます。

インフォメーション OSD

画面の右上部に情報 OSD が表示する時間を設定します。インフォメーション OSD は入力信号が変更されると表示されます。

インフォメーション OSD は { オフ } を選択すると画面に残ります。

オプションは次の通りです: { オフ, 1 ~ 60 } 秒。

Advanced option reset

Advanced option メニューにある { 日付 / 時刻設定 } 以外のすべての設定を、工場出荷時の値にリセットします。

1. [OK] または [D] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
2. [C] または [D] ボタンを押して { リセット } を選択し、次に [OK] ボタンを押して設定を工場出荷時の値に復元します。
3. [←] ボタンを押すか { キャンセル } を選択し、次に [OK] ボタンを押してキャンセルして前のメニューに戻ります。

8. 対応するメディア形式

USB マルチメディアコーデック形式

ビデオのデコード						
タイプ	ビデオコーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	注意
MPEG1/2	MPEG1/2	PEG プログラムストリーム (.DAT, .VOB, .MPG, .MPEG) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
MPEG-4	MPEG4	MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
H.263	H.263	FLV (.flv) AVI (.avi)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
H.264	H.264	FLV (.flv) MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) ASF (.asf) WMV (.wmv) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:135Mbps 4K2K@30fps
H.265	H.265	MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MKV (.mkv)	V			最大解像度:4K2K@60fps 最大ビットレート:100Mbps
GOOGLE VP8	VP8	MKV (.mkv) WebM (.webm)	V			最大解像度:1080P@30fps 最大ビットレート:20Mbps
Motion JPEG	MJPEG	AVI (.avi) MP4 (.mp4)、MKV (.mkv)	V			最大解像度:1920*1080 @30fps 最大ビットレート:40Mbps

オーディオデコード

タイプ	オーディオコーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	注意
MPEGオーディオ	MPEG1/2/2.5 オーディオレイヤー 1/2/3	MP3	V		2	ビットレート:8Kbps ~ 320Kbps サンプリングレート: 16KHz ~ 48KHz
Windowsメディアオーディオ	WMA バージョン 7、8、9、10 pro M0、10 Pro M1、M10 Pro M2	デコード: WMA	V		2	ビットレート:8Kbps ~ 768Kbps サンプリングレート: 8KHz ~ 96 (M10)KHz 非対応 LBR
AACオーディオ	AAC-LC および AAC-HE の場合、MAIN、ADIF、ATDS ヘッダー	ファイル形式: AAC、M4A	V		5.1	ビットレート:該当なし サンプリングレート: 8KHz ~ 48KHz

画像デコード

タイプ	画像コーデック	写真	デコード	エンコード	チャンネル	注意
JPEG	JFIF ファイル形式 1.02	ファイル形式:JPG、JPEG	√			最大解像度:7000 x 7000 最大解像度の限度は DRAM によって異なります。
BMP	BMP	ファイル形式:BMP	√			最大解像度:15360 x 8640 最大解像度の限度は DRAM によって異なります。
PNG	PNG	ファイル形式:PNG	√			最大解像度:15360 x 8640 最大解像度の限度は DRAM によって異なります。

注:

- コンテンツが上記のテーブルに記された対応フレーム / 秒以上の標準ビットレート / フレーム率である場合、音声や動画が作動しない可能性があります。
- コンテンツが上記のテーブルに記述された比率以上のビットレートやフレーム率である場合、再生すると途切れがちな映像になる可能性があります。

9. 入力モード

DVI/VGA タイミングサポート:

項目	モード	解像度	水平周波数 (KHz)	垂直周波数 (Hz)
1	IBM VGA 10H	640x350	31.469	70.086
2	IBM VGA 12H	640x480	31.469	59.94
3	MACINTOSH	640x480	35	66.67
4	VESA	640x480	37.861	72.809
5	VESA	640x480	37.5	75
6	IBM VGA 3H	720x400	31.469	70.087
7	VESA	800x600	35.156	56.25
8	VESA	800x600	37.879	60.317
9	VESA	800x600	48.077	72.188
10	VESA	800x600	46.875	75.000
11	MACINTOSH	832x624	49.726	74.551
12	VESA Standard AddDMT	848x480	31	60.000
13	-	960x720	56.4	75.000
14	VESA	1024x768	48.363	60.004
15	VESA	1024x768	56.476	70.069
16		1152x864	53.986	59.985
17	VESA	1152x864	53.783	59.959
18		1152x864	63.851	70.012
19	VESA	1152x864	67.5	75.000
20	SUN WS	1152x900	61.846	66.004
21	-	1280x720	44.772	60.000
22	-	1280x720	52.5	70.000
23	CVT 2.3MA	1280 x768	47.776	59.870
24	CVT 2.3MA	1280 x768	60.289	74.893
25	CVT	1280x800	49.7	59.810
26	CVT	1280x800	62.8	74.930
27	VESA	1280x960	60	60.000
28	VESA	1280x1024	63.981	60.020
29	SUN WS	1280x1024	71.691	67.189
30	VESA	1280x1024	79.976	75.025
31	VESA Standard AddDMT	1360x768	47.712	60.015
32	VESA Standard AddDMT	1366x768	47.712	59.790
33	VESA- ブランキング低減モード	1440x900	55.469	59.901
34	VESA	1440x900	55.935	59.887
35	VESA	1440x900	70.635	74.984
36	CVT- ブランキング低減	1400x1050	64.744	59.948
37	CVT AddDMT	1440x1050	65.3	60.000
38	CVT	1400x1050	82.278	74.867
39	CVT Red. ブランキング	1600x900	55.54	60.000
40	VESA	1600x1200	75	60
41	CVT1.76MW	1680x1050	65.29	59.954
42	CVT1.76MW-R	1680x1050	64.674	59.883
43	CVT 2.3MA-R	1920x1080	66.587	59.934
44	VESA Standard VDMTREV	1920x1080	67.5	60.000
45	CVT1960H	1920x1080	67.1584	59.963
46	VSC1960H	1920x1080	67.08	60
47	CVT 2.3MA-R	1920x1200	74.038	59.950

4K2K

項目	解像度	水平周波数 (KHz)	垂直周波数 (Hz)
1	3840x2160	53.946	23.900
2	3840x2160	54	24.000
3	3840x2160	56.25	25.000
4	3840x2160	67.432	29.900
5	3840x2160	67.5	30.000
6	4096x2160	54	24.000
7	3840x2160	135	60.000

ビデオタイミングサポート (HDMI/DVD HD/DVI)

項目	モード	解像度	コメント
1	60 Hz	480i	DVI を除く
2		480p	
3		720p	
4		1080i	
5		1080p	
6		4Kx2K	DVI を除く
7	50 Hz	576i	DVI を除く
8		576p	
9		720p	
10		1080i	
11		1080p	
12		4Kx2K	DVI を除く

注: DisplayPort は 3840x2160@30Hz をサポートします。

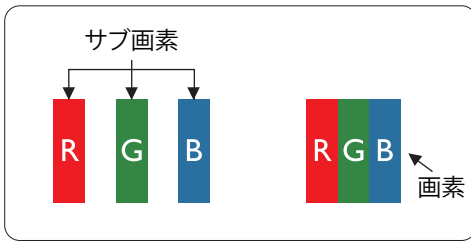
- PC のテキスト品質は、UHD 4K/2K モード(3840 x 2160、60Hz)で最適です。
- お使いの PC ディスプレイ画面は、メーカー（および Windows の特定のバージョン）により異なって表示されることがあります。
- PC をディスプレイに接続する情報については、お使いの PC の取扱説明書を確認してください。
- 垂直と水平の周波数選択モードが存在する場合、60Hz(垂直)と 31.5KHz(水平)を選択します。場合によって、PC の電源が OFF の場合(または PC が接続されていない場合)に異常な信号(縞模様など)が画面に表示されることがあります。その場合はディスプレイ本体の「INPUT」ボタンもしくは、リモコンの「SOURCE」ボタンを押してビデオモードに入ります。また、PC が接続されていることを確認してください。
- 水平同期信号が RGB モードで不規則に見えるときは、PC の省電力モードまたはケーブル接続を確認してください。
- 本製品の設定表は IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- DVI サポートモードは PC サポートモードと同じと見なされます。
- 各モードの最適な垂直周波数は 60Hz です。
- 解像度が 3840x2160 50/60Hz の場合、HDMI 認定ケーブル(プレミアム高速 HDMI ケーブル)を装備する必要があります。

10. 画素欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けすることを目指して、業界でもっとも進んだ製造プロセスと可能な限りもっとも厳しい品質管理を採用しています。しかしながら、プラズマおよび LCD ディスプレイで使用される PDP / TFT パネルの画素またはサブ画素に欠陥が生じるのはやむを得ない場合があります。すべてのパネルに画素欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、Philips では保証期間中であれば、地域の保証条件と一致して、受け入れられない数の欠陥があるプラズマおよび LCD ディスプレイを修理または交換することを保証します。

この通知はさまざまな種類の画素欠陥を説明し、LCD 画面について受け入れられる欠陥レベルを定義するものです。保証に基づき修理の資格を得るには、欠陥画素の数が参照表で示した特定のレベルを超えている必要があります。LCD 画面が仕様の範囲内である場合、保証による交換 / 返金はお断りいたします。また、ある種類または組み合わせの画素欠陥が他のものより顕著であることもあるため、Philips ではこれらのものに対してより高い品質規格を設定しています。

10.1. 画素とサブ画素



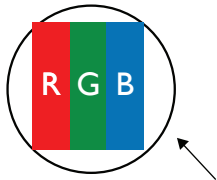
画素、または画像要素は赤、緑、青の原色の 3 つのサブ画素で構成されています。多くの画素が集まって画像を形成します。画素のすべてのサブ画素が明るいと、3 つの色の付いたサブ画素が 1 つの白い画素として一緒に表示されます。すべての画素が暗くなると、3 つの色の付いたサブ画素は 1 つの黒い画素として集まって表示されます。点灯するサブ画素と暗いサブ画素のその他の組み合わせは、他の色の 1 つの画素として表示されます。

10.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義

画素とサブ画素の欠陥は、さまざまな方法で画面に表示されます。画素欠陥には 3 つのカテゴリーがあり、各カテゴリーにはいくつかの種類のサブ画素欠陥があります。

ドット定義 = 欠陥のある「ドット」とは何か？：

1 つ以上の欠陥、隣接するサブ画素は 1 つの「ドット」として定義されます。欠陥のあるサブ画素の数は、欠陥ドットの定義に関連しません。つまり、欠陥ドットは 1、2 または 3 つの暗いまたは点灯する、欠陥サブ画素で構成されることがあります。



1 つのドット = 赤、緑、青の 3 つのサブ画素で構成される 1 つの画素。

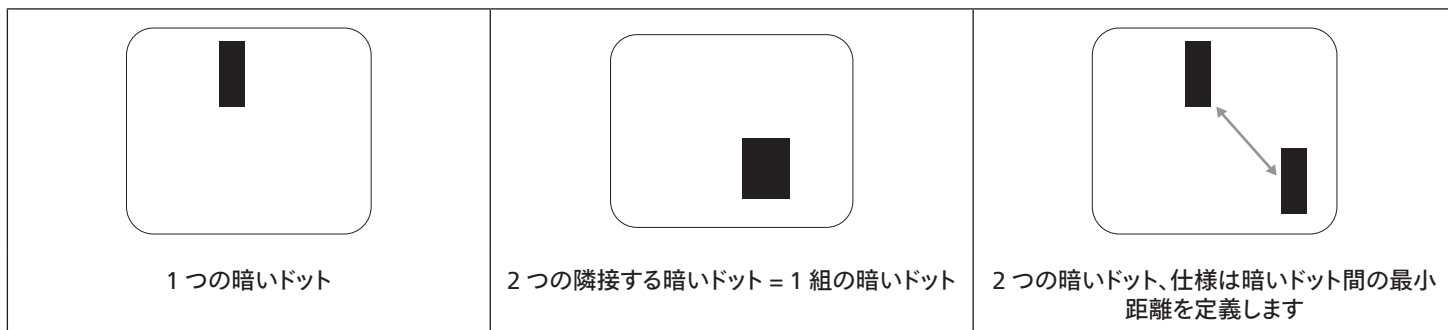
10.3. 明るいドット欠陥

明るいドット欠陥は、常時点灯または「オン」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、明るいドット欠陥の例を紹介します。

<p>1 つの点灯する赤、緑または青いサブ画素。</p>	<p>2 つの隣接する点灯サブ画素： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = 青緑 (ライトブルー)</p>	<p>3 つの隣接する点灯サブ画素 (1 つの白い画素)</p>

10.4. 暗いドット欠陥

暗いドット欠陥は、常に暗いかまたは「オフ」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、暗いドット欠陥の例を紹介します：



10.5. 画素欠陥の近接

互いに近くにある同じ種類の画素とサブ画素欠陥はととも目立つため、Philips では画素欠陥の近接の許容範囲についても指定しています。以下の表で、その仕様をご確認ください。

- 許容される量の隣接する暗いドット = (隣接する暗いドット = 1組の暗いドット)
- 暗いドット間の最小距離
- すべての欠陥ドットの総数

10.6. 画素欠陥の許容範囲

保証期間中に画素欠陥による修理または交換の資格を得るには、Philips プラズマ / LCD ディスプレイの PDP / TFT モニタパネルに、次の表に一覧された許容範囲を超えた画素またはサブ画素欠陥がある必要があります。

明るいドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの明るいサブ画素	2
黒いドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの暗いサブ画素	10
すべての種類の総ドット欠陥	12

注：* 1つまたは2つの隣接するサブ画素欠陥 = 1つのドット欠陥

10.7. MURA

一部の LCD (液晶ディスプレイ) パネルには、暗い点またはパッチがときどき現れることがあります。この現象は、日本語の「ムラ」という用語である Mura として業界では知られています。これは、均一でない画面均一性が特定の条件下で現れる領域の均一でないパターンを説明するために使用されます。Mura は液晶配向層の劣化の結果で、高い周辺温度下での長期間の操作が原因でもっとも一般的に引き起こされます。これは業界全体の現象で、Mura は修理できません。これも、当社の保証条件の対象外です。

Mura は LCD 技術の導入から、画面が大きくなり 1日 24 時間休みなしに稼働するようになり、多くのディスプレイが低い低光量の条件下で動作されるようになってからなくなることのない現象です。こういったことすべてが、ディスプレイに影響を与える Mura の可能性を高めています。

MURA を見分ける方法

Mura には多くの症状と、複数の原因があります。これらのいくつかを、以下に一覧します：

- 結晶マトリックスの混入物または異物
- 製造中の液晶マトリックスの不均等な分布
- バックライトの付近位置な輝度分布
- パネル部品誘発ストレス
- LCD セル内部の傷
- 熱誘発ストレス - 長期間にわたる高温での操作

MURA を避ける方法

毎回 Mura を完全に根絶する保証はできませんが、一般に Mura の出現は以下の方法により最小限に抑えることができます：

- バックライトの明るさを下げる
- スクリーンセーバーを使用する
- 装置周囲の空気温度を下げる

11. 清掃とトラブルシューティング

11.1. 清掃

製品を使用する際の注意

- 手や顔、物をディスプレイの通気口に近づけないで下さい。ディスプレイ上部は、通気口から放出される排気のため高温となっており、身体の一部を近づけ過ぎると火傷や怪我をすることがあります。ディスプレイの上部付近に物を置くと、当該物およびディスプレイ本体に、熱による破損が生じる可能性があります。
- ディスプレイを移動する際は、必ずすべてのケーブルを抜いて下さい。ケーブルが接続されたままディスプレイを移動させると、ケーブルの破損や火事、感電を引き起こす恐れがあります。
- 清掃や保守作業を行う際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

前面パネル清掃手順

- ディスプレイの液晶パネル部は非常にデリケートです。表面はクリーニング用のクロスか、柔らかい糸くずの出ない布で優しく拭いて下さい。
- 液晶パネル表面が汚れた場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、固く絞って余分な水分を取り除いた上で、液晶パネル表面を拭き埃を除いて下さい。その後、同じ種類の乾いた布で拭いて下さい。
- 液晶パネル表面を爪で引っ掻いたり、硬い物をぶついたりしないで下さい。
- 殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。

キャビネット清掃手順

- キャビネットが汚れたら、柔らかい乾いた布で拭いて下さい。
- キャビネットの汚れがひどい場合は、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、固く絞って水分を取り除いた上で、キャビネット表面を拭きます。その後、別の乾いた布で拭いて表面を乾かして下さい。
- プラスチック部品の洗浄に油を含む溶液を使用しないでください。こういった溶液はプラスチック部品を損傷し、保証を無効にします。
- 液晶パネル表面は、水や洗剤にさらさないようにして下さい。水分がディスプレイ内部に入り込むと、動作不良や故障、感電事故が起こる恐れがあります。
- キャビネットを爪で引っ掻いたり、硬い物をぶついたりしないで下さい。
- キャビネットには殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。
- ゴム製品またはポリ塩化ビニール製品を長期間キャビネット付近に置かないで下さい。

11.2. トラブルシューティング

症状	想定される原因	対処
映像が表示されない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源プラグが抜けている。 2. ディスプレイの背面にある主電源スイッチがオンになっていない。 3. 選択された入力ソースが接続されていない。 4. ディスプレイがスタンバイモードになっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源コードをコンセントに差し込みます。 2. 電源スイッチがONであることを確認します。 3. ディスプレイに入力ソースを接続します。
本製品で表示される画像が乱れる、または音声にノイズが聞こえる	周囲に電子機器や蛍光灯がある。	干渉が少ない場所にディスプレイを移動させます。
色がおかしい	信号ケーブルが正しく接続されていない。	本製品の背面に信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
映像が異常なパターンで歪んでいる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信号ケーブルが正しく接続されていない。 2. 入力ソースがディスプレイのスペックに合っていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。 2. 本製品の範囲を超えていないか、ビデオ信号ソースを確認します。本製品の仕様のセクションで、仕様を確認してください。
表示画像が画面サイズいっぱいに表示されない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ズームモードが正しく設定されていない。 2. スキャンモードが誤ってアンダースキャンに設定されている。 3. 画面設定メニューのズームモードまたはカスタムズームメニューで、画像の配置を調整します。 	画像が画面サイズを超える場合、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。
音声は聞こえるが、映像が表示されない	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。
映像は表示されるが、音が聞こえない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量が一番低く設定されている。 3. {消音} がオンになっている。 4. 外部スピーカーが接続されていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。 2. [+] または [-] ボタンを押して音声が聞こえるか確認します。 3. [] ボタンを使って消音をオフにします。 4. 外部スピーカーを接続し、適切なレベルに音量を調節します。
一部の画素が光らない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	ディスプレイは精密な技術で製造されていますが、液晶パネルに画素欠陥が存在する場合があります。これは故障ではありません。
電源をオフにした後も残像が表示されています。(例：ロゴ、ビデオゲーム、コンピュータ画像、4:3の通常モードで表示された画像を含む静止画像)	静止画像を長時間表示した。	静止画像を長時間表示しないで下さい。ディスプレイ上に残像が表示される原因となります。

12. 技術仕様

ディスプレイ:

項目	仕様		
	65BDL4650D	75BDL4650D	86BDL4650D
画面サイズ(アクティブ領域)	163.9 cm/64.5 インチ	189.3 cm/74.5 インチ	217.4 cm/85.6 インチ
縦横比	16:9	16:9	16:9
画素数	3840(水平) x 2160(垂直)	3840(水平) x 2160(垂直)	3840(水平) x 2160(垂直)
画素ピッチ	0.372(横) x 0.372(縦) [mm]	0.4296(横) x 0.4296(縦) [mm]	0.4935(横) x 0.4935(縦) [mm]
表示可能色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色
ブライトネス(標準)	500 cd/m ²	500 cd/m ²	500 cd/m ²
コントラスト比(標準)	1200:1	1200:1	1000:1
表示角度	178 度	178 度	178 度

入 / 出力端子:

項目	仕様	
スピーカー出力	内部スピーカー	10W(左)10W(右)[RMS]/8 Ω 82dB/W/M/160Hz ~ 13KHz
音声出力	3.5mm フォンジャック x1	0.5V[rms](標準)/2 チャンネル (左 + 右)
音声入力	3.5mm フォンジャック x1	0.5V[rms](標準)/2 チャンネル (左 + 右)
RS232	2.5mm フォンジャック x 2	RS232 入力 /RS232 出力
RJ-45	RJ-45 ジャック x1(8 ピン)	10/100/1000 LAN ポート
HDMI 入力	HDMI ジャック x2 (タイプ A) (19 ピン)	デジタル RGB: TMDS (ビデオ + 音声) 最大: 動画 - 720p、1080p、3840x2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
DVI-I 入力	DVI-I ジャック	デジタル RGB: TMDS (ビデオ) アナログ RGB: 0.7V [p-p] (75 Ω)、H/CS/V: TTL (2.2k Ω)、 最大: 1920 x 1080/60 Hz (WUXGA)
ディスプレイポート イン / アウト	ディスプレイポート ジャック x 2 (20 ピン)	デジタル RGB: TMDS (ビデオ + 音声) 最大: ビデオ - 720p、1080p、3840 x 2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (L+R) LPCM のみサポート
IR 入力 / 出力	3.5mmx2	IR パススルーまたは IR デイジーチェーン
OTG	マイクロ USB	サポートサービスと ADB データ送信
USB 入力	USB3.0 x 2(タイプ A)	USB マルチメディア再生
拡張スロット	USB 3.0 x 1	CRD22 用にリザーブ

一般:

項目	仕様		
	65BDL4650D	75BDL4650D	86BDL4650D
電源入力	100 ~ 240V~, 50/60Hz	100 ~ 240V~, 50/60Hz	100 ~ 240V~, 50/60Hz
消費電力(最大)	227 W	268 W	352 W
消費電力(標準)	155 W	187 W	250 W
消費電力(スタンバイモード & オフモード)	<0.5 W	<0.5 W	<0.5 W
AC スイッチオフモード (W)	0 W	0 W	0 W
寸法 (スタンドなし)[幅 x 高さ x 奥行]	1462.3 x 837.3 x 93.4 mm	1683.5 x 961.7 x 95.3 mm	1929.0 x 1100.0 x 95.3 mm
重量 (スタンドなし)	29.0 Kg	36.96 Kg	48.31 Kg
総重量 (スタンドなし)	36.1 Kg	48.5 Kg	64.8 Kg

環境条件:

項目	仕様	
温度	操作時	0 ~ 40° C
	ストレージ	-20 ~ 60° C
湿度	操作時	20 ~ 80%RH(結露なし)
	ストレージ	5 ~ 95%RH(結露なし)
高度	操作時	0 ~ 3,000 m
	保管時 / 輸送中	0 ~ 9,000 m

Philips プロフェッショナルディスプレイソリューションの保証ポリシー

本 Philips 製品をご購入いただき、ありがとうございます。Philips は、高い基準に従い設計および製造されており、高品質な性能、使いやすさ、設置しやすさを実現します。製品の使用中に問題が発生した場合は、最初にユーザーマニュアル、Web サイトのサポートセクションの情報を確認することをお勧めします。ここで、(製品の種別に応じて)、ダウンロード可能なユーザー間による、よくある質問 (FAQ)、手順ビデオ、サポートフォーラムを利用することができます。

限定保証

万が一、製品の修理が必要になった場合、Philips 製品がユーザーマニュアルに従って (意図された環境などで) 使用された場合、保証期間内に無料で修理されるよう手配します。

これらの製品カテゴリーでは、Philips のパートナー企業が製品の保証人となります。製品に付属のドキュメントを確認してください。

保証対象者

保証期間は、製品の最初の購入日から始まります。保証サービスを受けるには、購入証明書を提出する必要があります。製品を購入したことを示す有効な領収書またはその他の有効な文書は、購入の証明と見なされます。

保証の対象

保証期間内に不良な材料および / または工作による不具合が発生した場合は、無料サービスの手配をさせていただきます。修理が不可能または商業的に実行可能でない場合、当社は製品を同様の機能を備えた新品または同等の再生品と交換する場合があります。交換は当社の裁量で提供するものとします。また、保証は製品の最初の購入日の最初の購入日から継続されるものとします。修理および交換された部品を含むすべての部品は、元の保証期間中のみ保証の対象となることに注意してください。

保証の対象外 以下は保証の対象外となります。

- 結果的な損害 (データの損失または収入の損失を含むがこれらに限定されません)。定期的なメンテナンス、ファームウェアアップデートのインストール、データの保存または復元など、お客様自身で行ったアクティビティに対する補償 (一部の州では、偶発的または結果的な損害の除外が許可されていないため、上記の除外がお客様に適用されない場合があります。これには、著作権で保護されているかどうかにかかわらず、事前に録音された素材が含まれますが、これらに限定されません)。
- 製品の設置またはセットアップ、製品の顧客管理の調整、および製品外のさまざまなタイプの外部デバイス (Wi-Fi、アンテナ、USB ドングル、OPS タイプのデバイスなど) およびその他のシステムの設置または修理にかかる人件費。
- 信号状態またはユニット外のケーブルまたはアンテナシステムによって引き起こされる受信の問題。
- 設計、製造、承認、および / または認可された国以外の国で動作できるようにするために変更または適合が必要な製品、またはこれらの変更によって損傷した製品の修理。
- 製品のモデルまたは製造番号が変更、削除された場合、または判読不能になった場合。

保証は、製品が意図された使用のために適切に取り扱われ、操作手順に従っていることを条件として適用されます。

保証サービスと保証に関する情報を取得する場合

詳細な保証範囲情報および追加のサポート要件とヘルプラインについては、製品を購入した販売者および / またはシステムインテグレーターにお問い合わせください。米国内において、この限定保証は、米国大陸、アラスカ、ハワイにおいて購入された製品に対してのみ有効であることに注意してください。

修理を依頼する前に

修理を依頼する前に、ユーザーズマニュアルを確認してください。そこで説明されているコントロールを調整すると、サービスコールを節約できる場合があります。

保証期間

PHILIPS サイネージ表示の保証期間は以下のとおりです。この表に記載されていない地域については、保証書に従ってください。

PHILIPS サイネージディスプレイの標準保証期間は以下のとおりです。この表に記載されていない領域については、保証書に従ってください。

地域	標準保証期間
米国、カナダ	3 年
中国	1 年
日本	3 年
その他の地域	3 年
メキシコ	3 年
ブラジル	3 年
チリ	3 年
ペルー	3 年

プロフェッショナル製品の場合、販売契約または購入契約の特定の保証条件が適用される場合があることに注意してください。

索引

入力 / 出力端子 10
入力モード 63
外部機器の接続(マルチメディアプレーヤー) 18
外部機器を接続する 18
各部の機能 9
安全上の注意 1
対応するメディア形式 61
技術仕様 69
取り扱い 22
画素欠陥ポリシー 65
画像形式を変更する 22
接続されたビデオソースから鑑賞する 22
梱包箱に含まれているもの 6
清掃とトラブルシューティング 67
設定 35
設置に関する注意 6
開梱 3
開梱と設置 3
概要 22
壁に取り付ける 7
縦長向きの設置について 8
オーディオ機器を接続する 19
カスタムアプリ 34
ケーブルを使ったネットワーク接続 21
コントロールパネル 9
デジチェーン構成で複数のディスプレイを接続する 20
ブラウザ 27
メディアプレーヤー 24
リモコン 11
リモコンに乾電池を挿入する 15
リモコンの取り扱い 15
リモコンの動作範囲 15

A

AC スイッチカバー 17

I

IR 接続 20
IR パススルー接続 20

O

OSD メニュー 51
OSD メニューの概要 51
OSD メニューをナビゲートする 51

P

PC の接続 18
PDF プレーヤー 31
Philips プロフェッショナルディスプレイソリューションの保証ポリシー 71

U

USB カバー 16



2024 © TOP Victory Investments Ltd. 無断複製および転載を禁
じます。

本製品は、Top Victory Investments Ltd., によって製造され、
その責任の下で販売されており、Top Victory Investments Ltd., が
本製品に関する保証人

です。Philips および Philips Shield Emblem は、Koninklijke
Philips N.V. の登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されてい
ます。

仕様は、事前の通知なしに変更することがあります。

バージョン: V1.01 2024-04-03